授　業　内　容

（シラバス）

令　和　４　年　度
保　　育　　学　　科

香蘭女子短期大学

Koran Women's Junior College

保育学科　教育の基本方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1. さまざまな保育現場において実践家として活躍できる保育者
2. そのために必要な専門的な知識・技能と、それを支える基礎となる「保育者としてふさわしい人間性を」を持った保育者

教育課程編成・実施の方針

保育学科科目ナンバリング

（ナンバリングの構成）

CH　0 1　1　0 1

学科コード　保育学科	種別	科目水準	通し番号

保育学科　　学科コード　CH

ナンバリングの意味すること

種別	科目水準	通し番号
1 1	1	0 1

種別	授業科目	ナンバー
総合	総合演習Ⅰ	01101
	総合演習Ⅱ	01102
	総合演習Ⅲ	01103
	総合演習Ⅳ	01104
教養科目	文学B（日本の神話・民話）	02101
	歴史	02102
	教育学（現代の子供と教育）	02103
	日本国憲法	02104
	食育学	02105
	化学B（身近な科学）	02106
	生理学（健康科学入門）	02107
	情報処理入門	02108
	健康スポーツⅠ	02109
	健康スポーツⅡ	02110
	英語B	02111
	フランス語	02112
	日本語文法の基礎	02113
	日本語語彙の基礎	02114
	日本語読解・作文の基礎	02115
	日常日本語会話の基礎	02116
家庭福祉・	社会福祉	03101
	子ども家庭福祉	03102
	子ども家庭支援論	03103
教育・保育・他	保育者論	04101
	教育原理	04102
	子どもと人権	04103
	保育原理	04104
	家庭教育	04105
	教育課程総論	04106
	社会的養護Ⅰ	04107
	社会的養護Ⅱ	04108
	教育方法指導論	04109
	乳児保育Ⅰ	04110
	乳児保育Ⅱ	04111
	乳児保育Ⅲ	04112
	特別支援教育総論	04113
	特別支援教育演習	04114
	子どもの理解と援助	04115
	子育て支援	04116
	教育実習	04201
	保育実習Ⅰ	04202
	保育実習指導Ⅰ	04117
	保育実習Ⅱ	04203
	保育実習指導Ⅱ	04118
	保育実習Ⅲ	04204
	保育実習指導Ⅲ	04119
	保育教材演習Ⅰ	04120
	保育教材演習Ⅱ	04121
	保育・教職実践演習（幼稚園）	04205

種別	授業科目	ナンバー
心理	発達心理学Ⅰ	05101
	発達心理学Ⅱ	05102
	発達心理学Ⅲ	05103
	子ども家庭支援の心理学	05104
	幼児理解と教育相談	05105
保健	子どもの保健	06101
	子どもの健康と安全	06102
	子どもの食と栄養Ⅰ	06103
	子どもの食と栄養Ⅱ	06104
保育内容の研究	保育内容総論	07101
	保育内容Ⅰ（健康）	07102
	保育内容Ⅱ（人間関係）	07103
	保育内容Ⅲ（環境）	07104
	保育内容Ⅳ（言葉）	07105
	保育内容Ⅴ（表現）	07106
	造形表現研究	07107
	音楽表現研究	07108
基礎技能	音楽Ⅰ	08101
	音楽Ⅱ	08102
	音楽Ⅲ	08103
	音楽Ⅳ	08104
	図画工作Ⅰ	08105
	図画工作Ⅱ	08106
	幼児体育Ⅰ	08107
	幼児体育Ⅱ	08108
	国語	08109

〈種別〉

種別	
総合科目	01
教養科目	02
家庭・福祉	03
教育・保育・他	04
心理	05
保健	06
保育内容の研究	07
基礎技能	08
基礎科目	09

〈科目水準〉

総合・教養・専門科目	1
各実習・保育教職実践演習（幼稚園）	2

〈通し番号〉カリキュラム表順

令和4年(2022年)度　行事予定表

※補講について
通常の補講日(補講期間)以外に土曜日や5限目に補講を行うことがある。このような場合は事前に教務課掲示板により連絡するので注意すること。

(後期授業開始を保育2年以外9／22、保育2年9／29開始とする)

4月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	金	全学科2年生 OR			
2	土	入学式			
3	日				
4	月	全学科 オリエンテーション期間			
5	火				
6	水				
7	木				
8	金	前期・1期授業開始			
9	土				
10	日				
11	月				
12	火				
13	水				
14	木			FA・専攻登録変更日	LP登録変更日
15	金				
16	土				
17	日				
18	月				
19	火				
20	水				
21	木	食栄・保育登録変更日			
22	金				
23	土				
24	日				
25	月				
26	火				
27	水				
28	木				
29	金	全学科金曜授業日(昭和の日)			
30	土	休校日			

5月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	日		休校日		
2	月		休校日		
3	火		憲法記念日		
4	水		みどりの日		
5	木		こどもの日		
6	金		休校日		
7	土		休校日		
8	日				
9	月				
10	火				
11	水				
12	木				
13	金				
14	土				
15	日				
16	月				
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土	食2年月曜授業日			
22	日				
23	月				
24	火				
25	水				
26	木				
27	金				
28	土		体育大会		
29	日				
30	月				
31	火				

6月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	水				
2	木				
3	金			FA・LP 1期 授業・補講 試験期間 6/3～6/9	
4	土				
5	日				
6	月				
7	火				
8	水				
9	木			1期 授業終了	
10	金			2期 授業開始	
11	土				
12	日				
13	月		食2給食管理学外実習		
14	火				
15	水				
16	木			FA2期 登録変更日	LP2期 登録変更日
17	金				
18	土				
19	日				
20	月			1期 試験結果発表	
21	火				
22	水			FA・LP1期 追再試験期間 22・23・24	
23	木				
24	金				
25	土	食2年火曜授業日			
26	日				
27	月				
28	火				
29	水				
30	木				

7月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	金				
2	土				
3	日				
4	月				
5	火				
6	水				
7	木				
8	金				
9	土	食2年水曜授業日			
10	日				
11	月				
12	火				
13	水				
14	木				
15	金				
16	土				
17	日				
18	月	全学科月曜授業日(海の日)			
19	火				
20	水				
21	木				
22	金				
23	土	食2年木曜授業日			
24	日				
25	月				
26	火				
27	水				
28	木	食2以外前期授業終了	セメスター科目授業終了		
29	金	食2授業終了 保・食1補講			
30	土	補講		FA補講期間 7/29～8/1	
31	日				

8月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	月		補講終了		
2	火		保・食・幼単位認定試験		
3	水				
4	木			FA&LP クォーター科目 授業・補講・試験終了	
5	金			FA試験期間 8/2～8/6	LP 試験予備日
6	土				
7	日				
8	月				
9	火				
10	水				
11	木	山の日			
12	金				
13	土				
14	日				
15	月				
16	火		保2保育実習Ⅱ（保育所）Ⅲ（施設）		
17	水				
18	木				
19	金				
20	土				
21	日		Web実施		
22	月		前期・2期結果発表(保2以外) 履修登録(食栄・保1)		
23	火				
24	水			FA・専・LP学科 対面での 追再試期間	
25	木				
26	金				
27	土				
28	日		Web実施		
29	月		保2前期結果発表・履修登録		
30	火				
31	水				

9月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	木		食2・保2 対面での 追再試期間	FA・専・LP 追再試結果発表 履修登録	
2	金				
3	土				
4	日				
5	月		保2教育実習・（幼稚園） 食2病院給食実習		
6	火			食1・保1 対面での 追再試験期間	
7	水				
8	木				
9	金				
10	土				
11	日				
12	月			学科行事設定期間	
13	火				
14	水			FA企業研修	
15	木				
16	金				
17	土				
18	日				
19	月	敬老の日			
20	火	秋季入学式			
21	水				
22	木	保2以外後期・3期 授業開始			
23	金	全学科金曜授業日・食栄・保1追再試結果発表			
24	土				
25	日				
26	月				
27	火				
28	水			FA・専攻登録変更日	LP3・4期登録変更日
29	木	保2後期開始			
30	金	保2追再試結果発表			

10月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	土				
2	日				
3	月				
4	火				
5	水		食栄・保育登録変更日		
6	木				
7	金				
8	土				
9	日				
10	月	全学科月曜授業日(スポーツの日)			
11	火				
12	水				
13	木				
14	金				
15	土				
16	日				
17	月				
18	火				
19	水				
20	木				
21	金				
22	土				
23	日				
24	月				
25	火				
26	水				
27	木				
28	金				
29	土				
30	日				
31	月				

11月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	火		香蘭祭週間	香蘭祭週間 11/7まで	
2	水			出校(通常の木曜扱い)	
3	木			RAN FES(前夜祭)	
4	金			香蘭祭	
5	土			香蘭祭	
6	日			後片付け	
7	月				
8	火			代休	
9	水				
10	木				
11	金				
12	土				
13	日				
14	月				
15	火				
16	水				
17	木			FALP3期 授業・補講・ 試験期間 11/17～11/23	
18	金				
19	土				
20	日				
21	月				
22	火				
23	水			全学科水曜授業日 3期授業終了	
24	木			4期 授業開始	
25	金				
26	土				
27	日				
28	月				
29	火				
30	水			4期 登録変更日	

12月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	木				
2	金				
3	土				
4	日				
5	月				
6	火			3期 試験結果発表	
7	水				
8	木				
9	金			FA・LP3期 追再試験期間	
10	土				
11	日				
12	月				
13	火				
14	水				
15	木				
16	金				
17	土				
18	日				
19	月				
20	火				
21	水				
22	木				
23	金	冬季期間前授業終了			
24	土				
25	日				
26	月				
27	火				
28	水				
29	木				
30	金				
31	土				

1月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	日	元日			
2	月	振替休日			
3	火				
4	水				
5	木				
6	金				
7	土				
8	日				
9	月	成人の日			
10	火	授業再開			
11	水				
12	木				
13	金				
14	土	全学科月曜授業日			
15	日				
16	月				
17	火				
18	水				
19	木				
20	金				
21	土				
22	日				
23	月				
24	火				
25	水		セメスター科目授業終了		
26	木	保・食1補講		FA補講期間 1/26～1/28	
27	金	保・食1補講			
28	土				
29	日				
30	月	保・食1試験開始 (2/3まで)			
31	火				

2月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	水		保2授業終了		
2	木		保2補講 2/2・3 保・食1試験終了	FA&LP クォーター科目 授業・補講・試験終了	
3	金			FA試験期間 2/30～2/4	LP 試験予備日
4	土				
5	日				
6	月		保1保育実習Ⅰ（保育所・施設）① 保2試験2／4・2／9		
7	火				
8	水			FA卒業制作展予定日	
9	木				
10	金				
11	土			建国記念の日	
12	日				
13	月				
14	火				
15	水				
16	木		Web実施		
17	金		保1以外本試結果発表		
18	土				
19	日				
20	月		1保育実習Ⅰ（保育所施設）②3／3まで	食栄・保2 FA・LP 対面での 追再試験期間 (20～23の4日間)	
21	火				
22	水				
23	木				
24	金				
25	土				
26	日				
27	月				
28	火				

3月

学期		学科	保育食栄	FA	LP
1	水				
2	木				Web実施
3	金		保1本試、保1以外追再試結果発表		
4	土				
5	日				
6	月		保1保育実習Ⅰ（保育所施設）③		
7	火				
8	水				
9	木				
10	金				
11	土				
12	日				
13	月				
14	火				
15	水				
16	木				
17	金		卒業パーティー		
18	土		卒業証書・学位記授与式		
19	日				
20	月		春分の日		
21	火				
22	水				
23	木				
24	金				
25	土				
26	日				
27	月				
28	火				
29	水				
30	木				
31	金				

学生の皆さんへ

オフィスアワーについて

◆本学では学生の皆さんの質問や相談などに先生方が対応するため、“オフィスアワー”を設けています。

先生方に質問や相談があれば“オフィスアワー”を利用してください。

・専任教員についての“オフィスアワー”の対応時間は各先生方の研究室入口に掲示してあります。
・非常勤教員についての“オフィスアワー”については、授業前・後の休み時間等を利用して教室等で相談してください。

（本学のホームページでも案内しています。：ホームページのトップページ⇒“在学生の方へ”⇒ “オフィスアワー”を参考にしてください。）

総　合　演　習

教　養　科　目

１　　年

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
総合演習Ⅰ	CH01101	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など履修要件他:			
専任教員		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

香蘭女子短期大学での勉学を開始するために必要となる初年次教育(レポート等の書き方、学生生活における時間管理、プレゼンテーション等の技法、図書館の効果的な利用法、その他学問修得に向けた動機付け等の取組)を行う。 この科目は、教養・専門教科外の学習活動を、学訓を基に体系的に編成したもので、本学学生として欠かせない科目である。本学学生としての帰属意識を持たせるとともに、卒業後の社会人としての一般常識(心構えや基本マナーなど)を身につけることを目的としている。 また、保育者としての職業意識の形成を図り、保育者としての資質の向上の基礎を培うことを目的としている。特に1 年前期では本学学生としての意識付け(短大生としての在り方、帰属意識の涵養)を積極的に行う。

Ⅲ. 学習成果

学科長・学年主任・クラスアドバイザーの話を聞くことで、2 年間の学生生活のあり方の方向性を確立し、履修指導を通して2 年間の学習体系を理解できる。また様々な学習会や交流会に主体的に参加し、人間関係力(メンバーシップ、リーダーシップ)、コミュニケーション能力、企画運営力などを養おうとする意欲・心構えを持つことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 基礎講座I・クラスミーティング ディスカッション:保育者へのはじめの一歩	必要な準備を行う
2: 基礎講座I・学年間交流	必要な準備を行う
3: 基礎講座I・マナーについて①(マナーとは?)	学んだ内容をまとめる
4: 基礎講座I・マナーについて②(実践編)	学んだ内容をまとめる
5: 基礎講座I・クラスミーティング	必要な準備を行う
6: 基礎講座I・言葉遣いについて	学んだ内容をまとめる
7: 基礎講座I・電話のかけ方	学んだ内容をまとめる
8: 基礎講座I・人権教育	学んだ内容をまとめる
9: 基礎講座I・身だしなみについて	学んだ内容をまとめる
10: 基礎講座I・クラスミーティング(グループワーク)	前期の授業中間振り返りとして履修カルテを記入する
11: 基礎講座I・履修指導	単位認定試験に向け計画を立てる
12: 基礎講座I・学年集会	必要な準備を行う
13: 基礎講座I・手紙の書き方	学んだ内容をまとめる
14: 基礎講座I・クラスミーティング	必要な準備を行う
15: 基礎講座I・まとめ	前期の授業振り返りとして履修カルテを記入する

＊準備学習についての補足説明

毎回の内容を各自でノートに記述し、資料と共にファイルに綴じ、まとめていくこと。授業内容を常に意識し、日常生活に反映させること。課題は30分以上かけて行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要に応じて教員作成プリント配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

レポートなどの課題提出(50%)、学習の意欲(50%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題で取り組んだ内容の発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述したりするなど、授業に積極的に参加すること 。
提出されたレポートは返却する。良いものは全体で紹介することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
総合演習Ⅱ	CH01102	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など			
専任教員		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

この科目は、教養・専門教科外の学習活動を、学訓を基に体系的に編成したもので、本学学生として欠かせない科目である。
本学学生としての帰属意識を持たせるとともに、卒業後の社会人としての一般常識(心構えや基本マナーなど)を身につけることを目的としている。
また、保育者としての職業意識の形成を図り、保育者としての資質の向上の基礎を培うことを目的としている。
特に1 年後期では、保育を学ぶ者としての確固たる意識付けを行う。

Ⅲ. 学習成果

2 年間の学生生活のあり方の方向性をより深化し、履修指導を通して2 年間の学習体系をさらに理解できる。
様々な学習会や交流会に積極的に取り組み参加することで、人間関係力(メンバーシップ、リーダーシップ)、コミュニケーション能力、企画運営力などを養う。また、保育者としての職業観を形成することができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 基礎講座Ⅱ・クラスミーティング	必要な準備を行う
2: 基礎講座Ⅱ・学年集会	必要な準備を行う
3: 基礎講座Ⅱ・クラスミーティング	必要な準備を行う
4: 基礎講座Ⅱ・マナー講座	学んだ内容をまとめる
5: 基礎講座Ⅱ・就職ガイダンス	ガイダンス内容を整理する
6: 基礎講座Ⅱ・OG 懇談会	学んだ内容をまとめる
7: 基礎講座Ⅱ・自己分析	学んだ内容をまとめる
8: 基礎講座Ⅱ・就職ガイダンス	ガイダンス内容を整理する
9: 基礎講座Ⅱ・クラスミーティング	後期の授業中間振り返りとして履修カルテを記入する
10: 基礎講座Ⅱ・学年間交流	2年生から学んだことを用紙にまとめる
11: 基礎講座Ⅱ・クラスミーティング	必要な準備を行う
12: 基礎講座Ⅱ・就職ガイダンス	ガイダンス内容を整理する
13: 基礎講座Ⅱ・クラスミーティング	必要な準備を行う
14: 基礎講座Ⅱ・就職ガイダンス	ガイダンス内容を整理する
15: 基礎講座Ⅱ・まとめ	後期の授業振り返りとして履修カルテを記入する

＊準備学習についての補足説明
毎回の内容を各自でノートに記述し、資料と共にファイルに綴じ、まとめていくこと。授業内容を常に意識し、日常生活に反映させること。課題は30分以上かけて行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要に応じて教員作成プリント配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

レポートなどの課題提出(50%)、学習の意欲(50%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題で取り組んだ内容の発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述するなど、授業に積極的に参加すること。
提出されたレポートは返却する。良いものは全体で紹介することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
情報処理入門	CH02108	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
伊藤　るり		履修要件他:	幼稚園2種必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

幼稚園や保育園では事務作業・保護者への連絡・園児の指導等ににパソコンの利用は不可欠です。パソコン利用の能力は保育系の職種を目指す学生には必須といえます。授業ではメール・Word・Excel・PowerPointの基本操作と利用方法を学びます。授業はテキスト中心に進めますが、園だより・カードなど自分で工夫が必要な課題や子供が喜ぶかわいい課題の作成にもチャレンジします。
授業では毎回パソコン操作の基本となるタイピングの指導を行います。

Ⅲ. 学習成果

メール・Word・Excel・PowerPointの基本的なスキルを習得し、園での指導や業務に活用できるようになることを目標とします。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:授業内容の説明・USBフラッシュメモリの使い方 タイピング練習①	授業終了時に宿題について指示をする タイピング宿題①（タイピング練習を行い結果を記録する）
2:インターネットの利用とメール・Googleドライブの使い方 タイピング練習②	授業終了時に宿題について指示をする メール宿題①（指示された内容のメールを送信し印刷しておく）
3:日本語入力の基礎・印刷・保存（Word） タイピング練習③	授業終了時に宿題について指示をする（プリント配布） 入力宿題①（入力を行い、保存・印刷しておく）
4:基本的な文書の作成（Word） 入力練習①	授業終了時に宿題について指示をする（プリント配布） 入力宿題②（入力を行い、保存・印刷しておく）
5:図や表を挿入する（Word） タイピング練習④	授業終了時に宿題について指示をする メール宿題②（指示された内容のメールを送信し印刷しておく）
6:表現力をアップする機能の利用（Word）・園だより作成方法の説明 タイピング練習⑤	2種類の「園だより」の作成に取り組む（保存・印刷しておく） 印刷方法は指示に従う
7:ビジネス文書の作成方法（Word）・Wordのまとめ 入力練習②	2種類の「園だより」の作成に取り組む（保存・印刷しておく）
8:Excelについて・データを入力する・シートの操作（Excel） タイピング練習⑥	2種類の「園だより」の作成に取り組む（保存・印刷しておく）
9:表を作成する（Excel） タイピング練習⑦　　※園だよりの提出	授業終了時に宿題について指示をする（プリント配布） 「かわいい連絡網」「しりとり」の作成に取り組む（保存・印刷しておく）
10:表の編集・印刷（Excel） 入力練習③	「かわいい連絡網」「しりとり」の作成に取り組む（保存・印刷しておく）
11:グラフの作成・データベースの操作（Excel） タイピング練習⑧	「かわいい連絡網」「しりとり」の作成に取り組む（保存・印刷しておく）
12:PowerPointについて・プレゼンテーションの作成（PowerPoint） タイピング練習⑨　※連絡網・しりとりの提出	授業終了時に宿題について指示をする（プリント配布） Wordのシェイプアート機能を使い絵を描く（保存・印刷しておく）
13:オブジェクトの挿入・特殊効果の設定（PowerPoint） 入力練習④　　※シェイプアート課題の提出	プレゼンテーションが発表できる様に準備しておく
14:作成したプレゼンテーション実施・印刷・発表 試験内容の説明①	PowerPointを完成し指示に従い印刷しておく
15:　試験内容の説明②　※完成した試験模擬問題を提出する 課題集の作成（PowerPointでで表紙を作成・Word原稿用紙に授業の感想）	課題集を作成し指定された期日までに提出する

＊準備学習についての補足説明
課題の提出期限は提出日の授業開始前までとします。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

FOM出版　情報リテラシー　入門編
（変更になる場合は後日指定します）

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験（実技）50%　課題の提出50%

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

課題の提出・未提出は個人情報に配慮しつつ毎回表示しますので確認してください。（Google　classroomで提示する場合もあります）
再提出の指示がある場合は指示された期日までに提出してください。
提出された課題はチェック後、返却します。（返却された課題は15回目の授業まで保管しておいてください）

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
健康スポーツⅠ	CH02109	開講時期:	前期		
		形態:	実講	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
秋峯　良二		履修要件他:	幼稚園2種必修 保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

スポーツの実践を通して、健康の維持・増進を図り、基礎体力の向上をめざし体育館において各種スポーツを行います。

Ⅲ. 学習成果

・チームスポーツを行うことによりコミュニケーション力、プレゼンテーション力、実行力・行動力を習得できる。
・それぞれの基本技術・応用技術を習得できる。
・楽しく意欲的に実践することにより、運動効果をあげることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業内容説明　オリエンテーション	一日の生活習慣を把握しておく 一日の歩数を調べておく
2: ストレッチ・トレーニング	ストレッチやトレーニング効果について調べておく
3: ストレッチ・レクリエーション	レクリエーションの実践内容について調べておく
4: バドミントン①　基本技術練習	基本技術について調べておく
5: バドミントン②　ダブルスゲーム	ダブルスゲーム・ルールを調べておく
6: バドミントン③　ダブルスゲーム	二人のコンビネーションについて理解しておく
7: バドミントン④　シングルゲーム	シングルゲーム・ルールを調べておく
8: バドミントン⑤　シングルゲーム	コート内での動き方について理解を深めておく
9: バレーボール(ソフトバレー)①　基本技術演習	基本技術について調べておく
10: バレーボール(ソフトバレー)②　ゲーム	ゲーム・ルールを理解しておく
11: バレーボール(ソフトバレー)③　ゲーム	ポジションの役割について調べておく
12: バレーボール①　基本技術演習	基本技術について調べておく
13: バレーボール②　ゲーム	ゲーム・ルールを理解しておく
14: バレーボール③　ゲーム	ポジションの役割について調べておく
15: レクレーション	レクリエーションゲームについて調べておく

＊準備学習についての補足説明
・体育館は自由に使用できます。日頃より運動習慣を身につけましょう。
・予習復習については1．5時間程度は行いましょう。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書は使用しません。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習の意欲(積極性)　30%、協調性　30%、技術力　40%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・課題に対するフィードバックについてはその都度授業の中で行います。
・授業内容については受講人数、受講者の希望により変更することがあります。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
英語B	CH02111	開講時期:	通年		
		形態:	演習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
ヒラシマ・オーラ		履修要件他:	幼稚園2種選択必修 保育士選択必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

こどもの歌を活用しながら、英語特有のイントネーション・音声変化などを体系的に学ぶ。
また、保育現場で使う語彙・表現を繰り返し耳にすることやロールプレイを行うことで実践的な会話力を身につけるとともに、
異文化についても関心を持ち理解を深めていく。

Ⅲ. 学習成果

グローバル化が急速に進展している日本の幼児保育に携わる者として、英語でのコミュニケーションを円滑にすすめるための
姿勢・知識・技能を学び修得する。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 前期オリエンテーション	2回目の授業より始まる単語小テストに備える
2: The School Year Begins / English Songs	「新学期・園の人々・園舎」に関する用語を調べる、小テストに備える
3: Arrival / English Songs	「登園・家族」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
4: Playtime in the Classroom / English Songs	「室内あそび・欠席の連絡」に関する用語を調べる、小テストに備える
5: In the Sandbox / English Songs	「外あそび・遊具」に関する用語を調べる、小テストに備える
6: In the Playground / English Songs	「園庭・けんか」にまつわる用語を調べる
7: Grammar 1 / English Songs	「一般動詞」と「be動詞」の使い方を復習する、小テストに備える
8: Lunchtime / English Songs	「昼食・献立表」に関する用語を調べる、小テストに備える
9: Changing Clothes and Story Time / English Songs	「着替え・おはなし」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
10: Nap Time / English Songs	「トイレ・お昼寝」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
11: Blowing Bubbles / English Songs	「病気・身体の名称」に関する用語を調べる、小テストに備える
12: A Sick Child / English Songs	「緊急連絡」にまつわる用語を調べる
13: Grammar 2 / English Songs	「疑問文」「否定文」「命令文」の復習をする・発表の練習をする
14: プレゼンテーション 前半	園児に英語の歌や発音を教える発表をグループで行う
15: プレゼンテーション 後半	園児に英語の歌や発音を教える発表をグループで行う
16: 後期オリエンテーション	次回の授業より始まる単語小テストに備える
17: Preparation for the Sports Day / English Songs	「行事の案内状・電話連絡」に関する用語を調べる、小テストに備える
18: The Sports Day / English Songs	「運動会・動作」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
19: Going for a Walk / English Songs	「散歩・地図」に関する用語を調べる、小テストに備える
20: Discovering Autumn / English Songs	「交通」に関する用語を調べる、小テストに備える
21: Drawing & Letter Writing / English Songs	「お絵かき・お手紙書き」に関する用語を調べる
22: Grammar 3 / English Songs	「前置詞」の使い方を復習する、小テストに備える
23: A Snowy Day / English Songs	「雪の日・工作」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
24: Leaving for Home / English Songs	「降園・お知らせ」に関する用語を調べる、小テストに備える
25: School Diary / English Songs	「連絡帳・乳児室」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
26: Bean-Throwing Day / English Songs	「家庭調査書・園行事」にまつわる用語を調べる、小テストに備える
27: With Thanks for a Wonderful School Year / English Songs	「園だより」にまつわる用語を調べる
28: Grammar 4	「疑問視を使った疑問文」を復習する・発表の練習をする
29: プレゼンテーション 前半	園児に英語の歌や発音を教える発表をグループで行う
30: プレゼンテーション 後半	園児に英語の歌や発音を教える発表をグループで行う

＊準備学習についての補足説明
準備学習に必要な時間は各回1時間程度。授業のはじめに単語小テストを実施。期末に英語による発表があるので、計画的に準備をすすめること。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「はじめての英語の歌ー歌でおぼえるらくらくイングリッシュ」(監修:大野恵美 出版:学習研究社、2006年)
「新・保育の英語」(著:森田和子 出版:三修社、2010年)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習の意欲(当てられたら発言すること、指示通りペアワークやグループワークを行うこと、授業と関係のない課題や作業をしないこと、携帯を触らないこと、遅刻や忘れ物をしないこと、寝ないこと等) 30%
単語小テスト 20%、プレゼンテーション 20%、期末試験 30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

フィードバック方法:定期的に教員から学生に成績評価などについて報告する。
受講に際しての注意点:半期15回の授業のうち12回以上出席することが求められる。また授業の予習復習、授業への積極的な参加も不可欠。
授業には必ず教科書2冊と英語辞書を持参の事(電子辞書可)。
状況に応じて授業内容を変更する場合がある。
授業中の携帯電話の使用は厳禁。減点の対象とする。また書込み済み済の教科書は使用不可とする。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
フランス語	CH02112	開講時期:	通年		
		形態:	演習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
村上　舞		履修要件他:	幼稚園2種選択必修 保育士選択必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

フランス語の正しい発音、つづり字と発音の関係、基礎的な文法、語彙・表現を学び、総合的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とします。
各課にあるdialogueの理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけます。

Ⅲ. 学習成果

初めてフランス語を学ぶ人でもコミュニケーションが取れるように、4技能「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」の4技能をバランスよく習得し、様々なシチュエーションにおけるフランス語能力を身につけることを目標にしています。また、文化的背景(地理、歴史、社会、文化)についての知識を深め、異文化理解を深めることを目指します。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: フランスの地図、挨拶、発音の基礎	フランス語の挨拶や自分の名前のスペルを発音する。
2: 動詞être、はい/いいえで答える疑問文	動詞êreの活用を覚えて、自己紹介をする。
3: 否定形、男性形/女性形	否定形の作り方を覚えて、発音する。
4: 規則動詞	規則動詞の活用の作り方を覚えて、発音する。
5: エリジョン	規則動詞を使い、今住んでいるところや出身地について言う練習をする。
6: 動詞venir	疑問詞を使った疑問文を作り、発音する。
7: comment / où / d'où の使い方	交通手段について言う練習をする。
8: 中間プレゼンテーション①	これまで学んだフランス語を使って、自己紹介をする。
9: 不定冠詞と定冠詞、動詞travailler	動詞travaillerを使って、アルバイトについて言う練習をする。
10: 願望の表現、C'est＋形容詞	C'est＋形容詞を使って、感想を言う練習をする。
11: 不定冠詞	不定冠詞の規則を覚えて、発音する。
12: 動詞avoir	動詞avoirを使って、ペットなどについて言う練習をする。
13: 定冠詞	定冠詞の規則を覚えて、発音する。
14 :形容詞(男性形/女性形)	形容詞を使って、科目・先生について言う練習をする。
15: まとめ	これまでに学んできた文法事項を復習する。
16: 部分冠詞と不定冠詞	部分冠詞の規則を覚えて、発音する。
17: 定冠詞(一般的な意味:単数形/複数形)	食べ物について言う練習をする。
18:人称代名詞の強勢形	人称代名詞の強勢形を覚えて、発音する。
19: 所有形容詞	所有形容詞を使って、家事について言う練習をする。
20: 数字(1～69)	数字(1～69)を覚えて、発音する。
21: 3人称(単数形/複数形)	3人称を使って、家族について言う練習をする。
22: 中性代名詞en	中性代名詞enの使い方を覚え、発音する。
23: 否定疑問文	習慣について言う練習をする。
24: 中間プレゼンテーション②	これまで学んだフランス語を使って、ペア・グループ会話をする。
25: 近接未来形、動詞aller	近接未来の用法を使って、予定について語る練習をする。
26: 代名動詞	代名動詞を使って、週末の過ごし方について言う練習をする。
27: 複合過去形	複合過去形を使って、経験について言う練習をする。
28: Activité1	レストランで注文する練習をする。
29: Activité2	買い物をする時に使う表現を発音する。
30: 後期まとめ	これまでに学んできた文法事項を復習する。

＊準備学習についての補足説明
毎回の授業で30分程度必要です。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

『Moi, je… コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 著　アルマ出版
初学者向けの辞書には、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『現代フランス語辞典(ル・ディコ)』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)などがあります。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

フランス語による「 聞く・話す 」「 読む・書く 」という基礎的なコミュニケーション能力がどれくらい身についたかを評価基準とします。
テスト(定期試験・小テスト)70%、学習の意欲(授業への参加度、課題など)30%によって、総合的に評価します。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

初めて学ぶ外国語の場合、継続的な学習が必要不可欠です。毎回の出席を心がけ、発音練習にも積極的に取り組んでください。また日頃から、インターネット、音楽、映画などで、フランス語圏に関する情報に親しんでください。
ペアやグループでのロールプレイに対するコメントはその場で行い、課題は授業中または添削をし個別に返却するなど、課題の出題方法に応じて対応します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語文法の基礎【中級】	CH02113	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
香月　智恵		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

日本語能力試験N2レベルの文法を学ぶ

Ⅲ. 学習成果

日本語能力試験N2レベルの文法の意味・用法を理解し、正しく使用することができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業ガイダンス 力試し	時や場の領域を表す表現について調べる
2: 時や場の領域を表す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 進行状態を示す表現について調べる
3: 進行状態を示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 対応関係や比較を表す言い方について調べる
4: 対応関係や比較を表す言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 仮定や観点を示す表現について調べる
5: 仮定や観点を示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 限定して示す表現について調べる
6: 限定して示す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 傾向や様子を表す表現について調べる
7: 傾向や様子を表す表現など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 列挙する言い方について調べる
8: 列挙する言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 「わけ」「こと」「もの」を使った言い方について調べる
9: 「わけ」「こと」「もの」を使った言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 可能・不可能を示す言い方について調べる
10: 可能・不可能を示す言い方など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す これまで勉強した文法を見直す
11: 模擬試験 グループワークにて答え合わせ	問題で間違えた箇所を見直す 時や場の領域を表す表現を確認する
12: 総合問題① 時や場の領域を表す表現を用いた文作練習	問題で間違えた箇所を見直す 対応関係や比較を表す言い方を確認する
13: 総合問題① 対応関係や比較を表す表現を用いた文作練習	問題で間違えた箇所を見直す 傾向や様子を表す表現を確認する
14: 総合問題② 傾向や様子を表す表現を用いた文作練習	問題で間違えた箇所を見直す 可能・不可能を示す表現を確認する
15: 総合問題③ 可能・不可能を示す表現を用いた文作練習	問題で間違えた箇所を見直す 文作練習で正しい文が書けているか確認する

＊準備学習についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。
次の時間に学習する文法については目を通しておくこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

プリントを配布する
参考図書:「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50%、課題・小テスト25%、学習の意欲25%
居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。
積極的な授業参加を期待する。
シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語文法の基礎 【上級】	CH02113	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
淀川　藍凛		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

日本語能力のレベルを高める事と共に日本語文法の体系や文の成り立ち、文を構成する各要素の関係を理解するためには文法項目の複雑さを乗り越えないといけません。語彙力を増やしながら実践トレーニングを通じて日本語文法をマスターしましょう。

Ⅲ. 学習成果

1)日本語の複雑な文の構造や修飾関係を正しく理解することができる。
2)多様なテーマの文章を通じて文法構造や用法などを覚えて日本語能力試験N1を目指すことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:授業内容のご案内　→PPT映像と動画を授業を行います。授業資料を学習して課題ワークシートを必ず提出すること。ワークシートについて	goole classrommのクラスコード(lrcxkys) シラバス及びテキスト／2週目の課題ワークシートについて
2:Lesson1　健康法①～体重　(文法・語彙・クイズ) 一人ランチ　(文法・語彙・クイズ)	 ワークシート①課題
3:Lesson2　健康法②～ウォーキング　(文法・語彙・クイズ) 日本文化を生んだ道具　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート①フィードバック ワークシート②課題
4:Lesson3　お礼の手紙　(文法・語彙・クイズ) アレルギーの危険性　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート②フィードバック ワークシート③課題
5:Lesson4　おわびのメール　(文法・語彙・クイズ) 苦しいときほど笑え　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート③フィードバック ワークシート④課題
6:Lesson5　日々の生活①～携帯電話　(文法・語彙・クイズ) お風呂入ってもいいですか。　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート④フィードバック ワークシート⑤課題
7:Lesson6　今日の出来事②～スポーツ観戦　(文法・語彙・クイズ) 学び直し休暇　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑤フィードバック ワークシート⑥課題
8:　復習 (Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト	小テスト
9:Lesson7　自然の世界①～天気　(文法・語彙・クイズ) ぼくは勉強ができない①　(文法・語彙・クイズ)	 ワークシート⑦課題
10:Lesson8　今日の出来事③～番号　(文法・語彙・クイズ) ぼくは勉強ができない②　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑦フィードバック ワークシート⑧課題
11:Lesson9　今日の出来事④～失敗続き　(文法・語彙・クイズ) 花　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑧フィードバック ワークシート⑨課題
12:Lesson10　今日の出来事⑤～交通事故　(文法・語彙・クイズ) 河童　(文法・語彙・クイズ)	ワークシート⑨フィードバック ワークシート⑩課題
13:Lesson11　大衆文化	ワークシート⑩フィードバック
14:Lesson12　大衆文化	ワークシート⑪フィードバック
15:Lesson13 復習 (Lesson7～Lesson10)のワークシート及び小テスト 日本語文法の基礎まとめ	小テスト

＊準備学習についての補足説明
※辞書を必ずご準備下さい。(授業中のスマホの使用は禁じます。)　なお、前回の授業の復習は30分以上行って下さい。
※課題ワークシートはA4用紙に手書きで書いて提出して下さい。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

栗岩しづ可・青木幸子・高橋尚子　著　「日本語N2　文法・読解まるごとマスター」 Jリサーチ出版　2018
朝日新聞論説委員室　著　「天声人語　2019年7月―12月」 朝日新聞出版　2020

Ⅵ. 評価方法と評価基準

小テスト20%、単位認定レポート60%、課題学習20%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題ワークシートは学籍番号とお名前のご記入上、指定の場所に提出して下さい。(期間設定あり、手書き提出、成績評価)
辞書を必ず準備して授業を受けて下さい。
提出課題がある場合は、コメントして返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語語彙の基礎【中級】	CH02114	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
川野 さやか		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

「自分のこと、自分の考えを伝える力」「伝え合う力、語り合う日本語力」を身につけることを目的に
JLPTのN2レベルの日本語能力の獲得を目指します。

Ⅲ. 学習成果

・日常生活、大学生活の語彙を理解し、適切な場面で使用できる。
・JLPT N2に合格できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 自分の興味、関心とその理由を日本語で表現し、共有することができる。	JLPTN2対策問題を解く
2: 自分の3つの強みのエピソードを日本語で表現し、共有することができる。	JLPTN2対策問題を解く
3: JLPT模擬試験	JLPTN2対策問題を解く
4: 説明を読んで、日本の地理や町の様子、気候について知ることができる。	ことば、文法復習問題を解く
5: 説明を聞いて、気候に合わせた建物の特徴を知ることができる。	ことば、文法復習問題を解く
6: 説明を読んで、町の特徴や歴史などについて知ることができる。	ことば、文法復習問題を解く
7: JLPT N2模擬試験	JLPT模擬試験問題を復習する
8: 地震や台風などの速報を聞いたとき、必要な情報を得ることができる。	ことば、文法復習問題を解く
9: 約束の時間に間に合わないとき、状況を説明して指示を受けることができる。	ことば、文法復習問題を解く
10: けがをしたときの状況と今の状態を説明することができる。	ことば、文法復習問題を解く
11: 避難の際の注意事項を読んで情報を得ることができる。	ことば、文法復習問題を解く
12: 緊急事態が起こって経験したことを周りの人と共有することができる。	ことば、文法復習問題を解く
13: 防災についてグループで調べる。	原稿を作成、提出する
14: これまでのことば、文法の復習①	ことば、文法復習問題を解く
15: これまでのことば、文法の復習②	ことば、文法復習問題を解く

＊準備学習についての補足説明
その日習ったことの復習としてほぼ毎回課題を出します。まずはその日に学習したことばをQuizletで復習してください。準備学習は毎回約15分行ってください。
授業開始時に確認するので、必ず自分でやってから授業に来てください。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

参考図書:『できる日本語中級』、『新完全マスターN2語彙』、『新完全マスターN2漢字』

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50% 課題25% 学習意欲25%
いねむり、私語、スマートフォンの使用については「学習意欲」の評価の対象とします。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

Quizlet, Google classroomでの課題の提出の仕方については初回の授業で説明します。
提出課題のフィードバックは毎回授業の冒頭で行います。その際、他の学生の参考になるものは、スクリーンでシェアします。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語語彙の基礎 【上級】	CH02114	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
香月　智恵		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・日本語能力試験N1レベルの語彙を学ぶ

Ⅲ. 学習成果

日本語能力試験N1レベルの語彙の意味を理解し、正しく使用することができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス 力試し	様子・感情などに関する語彙の意味を調べる
2: 様子・感情などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 文化・社会などに関する語彙の意味を調べる
3: 文化・社会などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す ビジネス・教育などに関する語彙の意味を調べる
4: ビジネス・教育などに関する語彙 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 副詞・形容詞などの意味を調べる
5: 副詞・形容詞など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 動詞・名詞などの意味を調べる
6: 動詞・名詞など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 類義語・対義語などの意味を調べる
7: 類義語・対義語など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 擬音語・擬態語などの意味を調べる
8: 擬音語・擬態語など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 慣用句・漢字などの意味を調べる
9: 慣用句・漢字など グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 様子・感情などに関する語彙を確認する
10: 実践練習① 様子・感情などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 文化・社会などに関する語彙を確認する
11: 実践練習② 文化・社会などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す これまで学習した語彙を見直す
12: 模擬試験 グループワークにて練習問題の答え合わせ	問題で間違えた箇所を見直す ビジネス・教育などに関する語彙を確認する
13: 実践練習③ ビジネス・教育などに関する語彙を用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 類義語・対義語などを確認する
14: 実践練習④ 類義語・対義語などを用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 擬音語・擬態語などを確認する
15: 実践練習⑤ 擬音語・擬態語などを用いた文作練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 文作練習で正しい文が書けているか確認する

＊準備学習についての補足説明

準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。

次の時間に学習する語彙については意味を調べておくこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

プリントを配布する

参考図書:「日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター」中島智子他(Jリサーチ出版)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50%、課題・小テスト25%、学習の意欲25%

居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。

積極的な授業参加を期待する。

シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語読解・作文の基礎 【中級】	CH02115	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
香月　智恵		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・日本語能力試験N2レベルの読解教材を読む
・書き言葉としての日本語の文章の書き方を学ぶ
・日本社会についての文章を読み、社会的なテーマについて自ら考える

Ⅲ. 学習成果

・日本語能力試験N2レベルの読解教材を正しく読むことができる
・日本語での表現と作文の力を身に付ける
・日本語の文章を十分に理解することができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス 力試し	読解のポイントについてのプリントを読む
2: 内容理解(短文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
3: 内容理解(中文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
4: 統合理解① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
5: 主張理解(長文)① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
6: 情報検索① グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
7: 内容理解(短文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
8: 内容理解(中文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
9: 統合理解② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
10: 主張理解(長文)② グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の漢字、言葉を覚える
11: 模擬試験 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す「言葉の役割」の語彙を調べる
12: 読解「言葉の役割」① 作文「アポイントをとる」	本文を音読する 作文「アポイントをとる」を完成させる
13: 読解「言葉の役割」② 作文「アドバイスを求める」	「イルカと超音波」の語彙を調べる 作文「アドバイスを求める」を完成させる
14: 読解「イルカと超音波」① 作文「伝言する」	本文を音読する 作文「伝言する」を完成させる
15: 読解「イルカと超音波」② 作文「謝る」	本文を音読する 作文「謝る」を完成させる

＊準備学習についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。基本的に、毎回小テストを行うので、前回の内容を必ず確認しておくこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

プリントを配布する
参考図書:「日本語能力試験問題集N2読解スピードマスター」小林ひとみ他(Jリサーチ出版)
「日本語プロフィシェンシーライティング」由井紀久子他(凡人社)
「大学・大学院留学生の日本語1読解」アカデミック・ジャパニーズ研究会(アルク)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験40%、課題・小テスト35%、学習の意欲25%
居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題や小テストに関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。
積極的な授業参加を期待する。
シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日本語読解・作文の基礎 【上級】	CH02115	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
淀川　藍凛		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

日本語能力のレベルを高める事と共に日本語文法の体系や文の成り立ち、文を構成する各要素の関係を理解するためには文法項目の複雑さを乗り越えないといけません。語彙力を増やしながら実践トレーニングを通じて苦手で読解・作文のコツをつかみ克服してみましょう。

Ⅲ. 学習成果

1)日本語の複雑な文の構造や修飾関係を正しく理解することができる。。
2)多様なテーマの文章を通じて語彙力アップにつなげ、自由自在に作文ができる。
日本語能力試験N1をめざすことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:授業内容のご案内　→PPT映像と動画を授業を行います。授業資料を学習して課題ワークシートを必ず提出すること。ワークシートについて	goole classrommのクラスコード(lrcxkys) シラバス及びテキスト／2週目の課題ワークシートについて
2:Lesson1　旅行先からの絵はがき(読解・語彙・作文・クイズ) 一人ランチ(読解・語彙・作文・クイズ)	 ワークシート①課題
3:Lesson2　今日の出来事①～おもてなし (読解・語彙・作文・クイズ) 日本文化を生んだ道具(読解・語彙・作文・クイズ)	ワークシート①フィードバック ワークシート②課題
4:Lesson3　お礼の手紙 棚田	ワークシート②フィードバック ワークシート③課題
5:Lesson4　おわびのメール 絵の楽しみ方(語彙単語と読解予習)	ワークシート③フィードバック ワークシート④課題
6:Lesson5　日々の生活①～携帯電話 航空券を安く買う方法	ワークシート④フィードバック ワークシート⑤課題
7:Lesson6　今日の出来事②～スポーツ観戦 日々の生活～予約	ワークシート⑤フィードバック ワークシート⑥課題
8:　復習 (Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト	小テスト(四択式)
9:Lesson7　自然の世界①～天気 カプセルホテル	 ワークシート⑦課題
10:Lesson8　今日の出来事③～番号 子供とケータイ	ワークシート⑦フィードバック ワークシート⑧課題
11:Lesson9　今日の出来事④～失敗続き ペットと飼い主の名前	ワークシート⑧フィードバック ワークシート⑨課題
12:Lesson10　今日の出来事⑤～交通事故 自転車の車道通行	ワークシート⑨フィードバック ワークシート⑩課題
13:Lesson11　大衆文化	ワークシート⑩フィードバック
14:Lesson12　大衆文化	ワークシート⑪フィードバック
15:Lesson13 復習 (Lesson1～Lesson6)のワークシート及び小テスト	小テスト(四択式)

＊準備学習についての補足説明
※辞書を必ずご準備下さい。(授業中のスマホの使用は禁じます。)　なお、前回の授業の復習は30分以上行って下さい。
※課題ワークシートはA4用紙に手書きで書いて提出して下さい。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

栗岩しづ可・青木幸子・高橋尚子　著　「日本語N1　文法・読解まるごとマスター」 Jリサーチ出版　2018
朝日新聞論説委員室　著　「天声人語　2019年7月―12月」 朝日新聞出版　2020

Ⅵ. 評価方法と評価基準

小テスト20%、単位認定レポート60%、課題学習20%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題ワークシートについて―学籍番号とお名前のご記入上、指定の場所に提出して下さい。(期間設定あり、手書き提出、成績評価)
辞書を必ず準備して授業を受けて下さい。
提出課題がある場合は、コメントして返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日常日本語会話の基礎 【中級】	CH02116	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
川野 さやか		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

「自分のこと、自分の考えを伝える力」「伝え合う力、語り合う日本語力」を身につけることを目的に
JLPTのN2レベルの日本語能力の獲得を目指します。

Ⅲ. 学習成果

「自分のこと、自分の考えを伝える力」「伝え合う力、語り合う日本語力」を身につけることを目的に
JLPTのN2レベルの日本語能力の獲得を目指します。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 覚えてもらえるように印象的に発音に注意して自己紹介することができる。	ことば、文法復習問題を解く
2: 自分の価値観を伝えるため、あると幸せだと思うものについて優先順位を考えながら話すことができる。	ことば、文法復習問題を解く
3: JLPT模擬試験の解説	模擬試験の復習をする
4: JLPT模擬試験の解説	模擬試験の復習をする
5: 気候が合わなくて体調を崩した友達の話を聞いて、アドバイスすることができる。	ことば、文法復習問題を解く
6: 国・ふるさとの地形や気候を利用した名物や風物詩を紹介することができる。	ことば、文法復習問題を解く
7: JLPT模擬試験の解説	模擬試験の復習をする
8: 知ってもらいたい自分のふるさとについてグループで調べる	原稿を作成する
9: 知ってもらいたい自分のふるさとについてグループでまとめる	原稿を提出する
10: 発表練習	発表原稿を覚えてくる
11: 発表	発表原稿を覚えてくる
12: 防災についてグループでまとめる	原稿を提出する
13: 発表練習	発表原稿を覚えてくる
14: 発表	発表原稿を覚えてくる
15: まとめと振り返り	振り返りシートを提出する

＊準備学習についての補足説明
発表用の原稿はGoogle classroomに提出してください。そちらで添削を行います。準備学習は毎回約15分行ってください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

参考図書:『できる日本語中級』

Ⅵ. 評価方法と評価基準

発表50% 課題25% 学習意欲25%
いねむり、私語、スマートフォンの使用については「学習意欲」の評価の対象とします。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出課題の原稿のフィードバックはGoogle classroom内で個別に添削を行い、他の学生の参考になるものは、スクリーンでシェアします。
その原稿をもとにグループで発表を行います。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
日常日本語会話の基礎 【上級】	CH02116	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
香月　智恵		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・日本語能力試験N1レベルの聴解問題を聞く
・論理的で説得力のあるプレゼンテーションについて学ぶ

Ⅲ. 学習成果

・日本語能力試験N1レベルの聴解問題の内容を正しく聞き取ることができる
・発表の流れを理解し、わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ガイダンス 自己紹介・力試し	必要に応じて指示する。
2: 課題理解① メモをとる練習	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
3: 課題理解② 発表の構成	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
4: ポイント理解① 発表全体の流れ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
5: ポイント理解② 発表のための基本的な表現	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
6: 概要理解① 背景説明、問題提起	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
7: 概要理解② 分類の表現	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
8: 即時応答 データの提示	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
9: 統合理解① 定義、割合の表現	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
10: 統合理解② データの説明、解釈	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
11: 模擬試験1回目 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
12: 模擬試験2回目 グループワークにて練習問題の答え合わせ	練習問題で間違えた箇所を見直す 未習得の言葉を覚える
13: 変化・経緯を表す表現 発表準備①	未習得の言葉を覚える 発表準備
14: 比較を表す表現 発表準備②	未習得の言葉を覚える 発表準備
15: プレゼン発表	発表の振り返り

＊準備学習についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

プリントを配布する
参考図書:「日本語能力試験問題集N1聴解スピードマスター」青木幸子他(Jリサーチ出版)
「聴解・発表ワークブック」犬飼康弘(スリーエーネットワーク)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験30%、課題・発表40%、学習の意欲30%
居眠り、私語、不必要なスマートフォンの使用に関しては「学習の意欲」の評価の対象とする。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題や発表に関しては、授業内もしくは個別にフィードバックする。
積極的な授業参加を期待する。
シラバスは受講学生の人数やレベルなどで変更することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
健康スポーツⅡ	CH02110	開講時期:	後期		
		形態:	実講	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
秋峯　良二		履修要件他:	幼稚園2種必修 保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

前期の健康スポーツⅠと同様にスポーツの実践を行います。9講より運動生理学を中心に快適な身体環境を整えるため理論や実践法について学びを深めていきます。

Ⅲ. 学習成果

・運動生理学を学ぶことにより「健康な状態」を知ることができる。
・健康の維持・増進のための運動の実践性を学ぶことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ストレッチ・トレーニング	運動できる状況に身体を整えておく
2: テニス① 基本技術練習	基本技術について調べておく
3: テニス② 基本技術練習	基本技術上達法について理解しておく
4: テニス③ 二人での打ち合い	基本技術上達法・フットワークについて理解しておく
5: テニス④ ゲーム	ゲーム・ルールを調べておく
6: バスケットボール① 基本技術練習	基本技術について調べておく
7: バスケットボール② ゲーム	ゲーム・ルールを調べておく
8: バスケットボール③ ゲーム	チームプレーについて調べておく
9: 講義・体のサイズとコンポジション①	身長、体重を把握しておく P5～P12について調べておく
10: 講義・体のサイズとコンポジション②	P12～P19を調べておく
11: 講義・運動とエネルギー①	エネルギー供給系について調べておく P21～P25について調べておく
12: 講義・運動とエネルギー②	P25～P27について調べておく
13: 講義・フィットネスの評価	P28～P35について調べておく
14: 講義・エアロビックエクササイズの実践①	一日の歩数を調べておく P36～P45について調べておく
15: 講義・エアロビックエクササイズの実践②	P45～P49について調べておく

＊準備学習についての補足説明
・体育館は自由に使用できます。日頃より運動習慣を身につけましょう。
・予習復習については1．5時間程度は行いましょう。

Ⅴ. 教科書・参考図書

快適な身体環境を求めて(ナカニシヤ出版)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習の意欲(積極性) 20%、協調性 20%、技術力 20%、講義小テスト 40%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・課題に対するフィードバックについてはその都度授業の中で行います。
・授業内容については受講人数、受講者の希望により変更することがあります。

保　育　学　科

１　　年

科目名	科目ナンバリング	学科：	保育学科	学年：	1年
発達心理学Ⅰ	CH05101	開講時期：	前期		
		形態：	講義	単位：	2単位
		履修方法：	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
濱田　尚志		履修要件他：	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目：	○	実務経験教員科目：	

1年

Ⅰ．本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ．概要

・人は生まれてから死ぬまでの発達過程を各発達段階に分けて理解する。特に乳幼児期について詳しく学ぶ。
・人の発達には環境や他者の関わり方が大きく左右することを実例を交え理解する。
・人の発達は連続性を持っていることを理解し、乳幼児期の保育のあり方の重要性について具体的に学ぶ。

Ⅲ．学習成果

1．保育実践に関係する発達心理学の知識を習得している
2．発達の知識を、子どもの理解に役立てることができる
3．人の発達における「環境」や「他者」の重要性が説明できる

Ⅳ．授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:心理学とは何か 心理学と保育・幼児教育	「心理学の種類」に関するクイズ
2:発達段階と発達課題	エリクソンの発達課題を表にまとめる
3:発達観 発達曲線 保育観 グループワーク：結果主義と過程重視について	発達観に関する課題
4:環境と遺伝 成熟と学習ーヒトの能力はどうやってつくられるのかー グループワーク：量的変化・質的変化の具体例を考える	成熟・学習の具体例、量的変化・質的変化の具体例を表に整理する
5:身体・運動機能の発達 グループワーク：原始反射をイラストで表現してみよう	身体・運動機能の発達に関する課題
6:言語の発達 ディスカッション：実習先で見られた子どもの発話について	子どもの言語発達に関する課題
7:言語と思考 ディスカッション：実習先で見られた子どもの独り言について	子どもの独り言を表にまとめる
8:感情・情動の発達	子どもの感情に関する課題
9:知覚の発達 ディスカッション：実習先で見られた子どもの面白い発言について	子どものおもしろい発言を収集する
10:認知の発達 グループワーク：ピアジェの発達段階を表にまとめる	子どもの視点に関する課題
11:乳児期・幼児期前期の発達及び学習の過程 ディスカッション：感覚遊び・象徴遊び・ルールの遊びについて	乳児期・幼児期前期のあそびに関する課題
12:幼児期後期の発達及び学習の過程 運動会を例に挙げて	集団での遊びの意味を考える 運動会の時の保育者の言葉かけを考える
13:児童期・思春期の発達 グループワーク：自信がない子どもへの言葉かけについて	自己理解・自己評価に関する課題
14：乳幼児の学び　遊びを通した学び ディスカッション：科学遊びについて	遊びの種類を表にまとめる
15:学びに関わる理論 養護と教育の一体性	養護と教育の一体性についてまとめる

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回45分以上行うこと。毎回課題を出します。課題はプリントまたはGoogleclassroomにて提出してください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ．教科書・参考図書

教科書は使用しない 教員作成資料を毎回配布する
参考図書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ．評価方法と評価基準

単位認定試験（上記内容1-15について、学習成果1-3 の観点から出題）50%
提出物30%
学習の意欲20%：授業中の私語及び携帯電話の使用は減点の対象とします

Ⅶ．その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

提出物のうち他の学生の参考になるものは、授業内でスクリーンまたはプリントにて紹介します。
Googleclassroomにて提出された課題には個別にコメントを行います。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育内容総論	CH07101	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
寺井　知香		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・幼稚園・保育所・認定子ども園において展開される保育の基本と内容を、実践的かつ総合的な視点から学ぶ。
・幼稚園教育要領や保育所保育指針・認定子ども園教育・保育要領と保育実践がどのようにつながるかを考え、子どもの姿や園での実践がイメージできるよう学習してほしい。
・保育の質、保育者の資質向上についての重要性を理解する

Ⅲ. 学習成果

・乳幼児教育の全体像を知り、保育について理解を深める。
・発達の個人差の大きい幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行う方法が適切であることを理解する。
・保育内容を理解し保育の展開について理解を知る

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業ガイダンス 「保育」とは何か、保育について考える	乳幼児の姿を見たり、子どもを観察したりして気付いたことをレポートにする
2:保育の基本と保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定子ども園教育・保育要領について学ぶ	「領域」について調べてくる
3: 保育内容の歴史的変遷 これまでの保育の歴史について学ぶ	保育の歴史や歴史上有名な人物について自分なりに調べてくる また、調べた内容を授業内で発表できるように準備する
4: 保育の内容① 養護と教育の一体化について学ぶ	保育所保育指針を読み、重要な箇所に下線を引いてくる
5:保育の内容1② 3歳未満児の発達の特性について学ぶ	3歳未満児の発達段階を調べノートにまとめる
6: 保育の内容③ 3歳以上児の発達の特性について学ぶ	3歳以上児の発達段階を調べノートにまとめる
7: 保育における観察　講義＋グループワーク:「附属幼稚園における観察をもとにした子どもの様子と先生の関わりについて」	附属幼稚園実習での経験事例をまとめる①　実習後
8: 保育の展開①子どもの遊びを中心に 個と集団の発達と保育内容、コミュニケーション、協同の大切さを知る	経験事例をまとめる②　実習後 実習で観察した幼児の遊びの姿と仲間とのかかわりについてレポートを書く
9: 保育の展開②保育実技を中心に 「読み聞かせ」を取り上げる。学生同士による読み聞かせの実演を行う。	保育実技はどのようなものがあるか調べてくる お気に入りの絵本を持参する
10: 環境を通して行う保育 講義＋発表「自分が考えた現場の状況」＋発表を聞いての質疑応答	「環境を通した保育」とはどのようなことを言うのか自分の考えをまとめる
11: 特別な配慮を要する子どもの保育について学ぶ 子どもの気持ちを読み取る保育について考える	多文化保育について調べ　幼児のかかわり方についてまとめる また、発達に課題のある子どもへの配慮を調べ自分の考えをまとめる
12: 保育の計画① カリキュラムマネジメン、トPDCAサイクル、保育の評価について学ぶ	保育のPDCAサイクル、評価について調べてくる
13: 保育の計画② 保育計画「指導案」たて、模擬保育をする	短い実践ができる「指導案」をたててくる
14: 家庭・地域との連携・小学校との接続 子どもの育つ環境への保育者の支援について考える	社会の幼児教育への取り組み、 地域との関わりを調べてまとめる
15: 授業のまとめ 保育の現状と課題について触れ、これからの保育のあり方について考える	自分の目指す「保育者像」を考えてくる

＊準備学習についての補足説明
準備学習は毎回30分以上行うこと
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「遊びと生活をひらく保育内容総論」太田光洋編著(ミネルヴァ書房)
「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)「保育所保育指針」(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習の意欲(授業への取り組み状況と提出物　30%)、単位認定試験(70%)による総合評価とする。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

日常でも乳幼児と積極的に関わりをもつようにしてください。
授業では現場での具体的事例を紹介しながら理解できるようにします。
提出物は授業内でフィードバックします。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
音楽Ⅰ	CH08101	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など 履修要件他:	幼稚園2種必修 保育士必修		
黒木　知美　他		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

歌うことと演奏することに関する基礎的な音楽理論や、ピアノの演奏技術を習得する
授業はピアノ実技と理論(楽典)で構成され、週2コマ行なわれる。
音楽理論(楽典)は集団授業、ピアノはそれぞれの技量に応じた個人指導を受ける。
ピアノは最低でもバイエル85番終了が単位修得の条件の1つとなる。

Ⅲ. 学習成果

・楽譜を正しく理解する力を養う
・基本的な演奏技術が身に付く

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:(楽典)　進度調査　及び　グループワーク(どのような力をつけたいか)	参考テキストの目次に目を通しておく
2:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	課題曲の中から自分で選曲し、3～5曲を練習しておく
3:(楽典)　五線譜と加線	「ピアノテキスト」(カワイ出版)に目を通しておく
4:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
5:(楽典)　音部記号	前回授業の復習と、正確に順番に音符を書く練習をしておく
6:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
7:(楽典)　音名と変化記号	テキストP7～9を読んでおく
8:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
9:(楽典)　音符と休符①	前回授業の復習と音符を読む練習をしておく
10:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
11:(楽典)　音符と休符②	テキストP10～11を読んでおく
12:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
13:(楽典)　拍子とリズム①<基礎編>	テキストP12を読んでおく
14:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
15:(楽典)　拍子とリズム②<応用編>	「子どものうた200」の曲からリズム練習をしておく
16:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
17:(楽典)　音階・音程・調について①	テキストP15,17を読んでおく
18:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
19:(楽典)　音階・音程・調について②	前回授業の理解の確認(復習)をしておく
20:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
21:(楽典)　音階・音程・調について③	前回授業の理解の確認(復習)をしておく
22:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
23:(楽典)　音階・音程・調について④	内容が理解できているか、様々な曲を使い確認しておく
24:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
25:(楽典)　楽語・演奏記号①	テキストP20,22を読んでおく
26:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
27:(楽典)　楽語・演奏記号②	前回の内容の確認(復習)をしておく
28:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
29:(楽典)　まとめ	テキスト、ノート、配布資料をまとめ、理解の確認をしておく
30:(ピアノ) 個別の進度に応じた個人レッスン	試験に備え、課題曲・自由曲を練習しておく

＊準備学習についての補足説明
日頃の個人学習(練習)の積み重ねが重要です。毎日欠かさず最低でも初心者は120分/日、経験者は90分/日、練習(学習)してください。
練習は、1号館6階の練習室を使用してよいが、ルールに従うこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「こどものうた200」「続こどものうた200」(小林美実編・チャイルド本社)、
「ピアノテキスト　楽典・身体表現付」(カワイ出版)　、必要に応じてプリント配布
ピアノ個人レッスン…進度に応じて指定する(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実技試験<ピアノ>及び小テストを含む筆記試験<楽典>(80%)、自宅学習の取り組み【チェックシート】(15%)、学習意欲(5%)
出席については、ピアノ15回、楽典15回のそれぞれ75%以上で受験資格を与える

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業中の小テスト(その都度採点しコメントする)で自分の理解度を確認し努力すること。
楽典授業のグループワークには積極的に参加すること。
ピアノのレッスン中は他学生の演奏も聴き、お互いに学びあうこと。(ディスカッションを含む)
爪は短く切り、必要な楽譜・5線ノート・資料等の忘れ物がないよう準備すること。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
図画工作Ⅰ	CH08105	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
杉森　映徳		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

児童の造形活動の指導に必要な基礎技能を理論と実際の両面より学習し、保育者としての資質の向上をはかり、
美術教育が全人教育の一環として重要であることを知らせ、現代幼児教育の動向に関心を持たせる。

Ⅲ. 学習成果

保育者として必要な造形表現の基礎的な知識・技術を習得し作品創作に活用できるようになる。
基礎的な造形表現を様々な方法(絵画的、デザイン的、工芸的表現)で習得し、それらに必要な素材の特色を活かした創作ができるようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:道具等についての説明(使用法を中心に)	制作に必要な道具の使用法を確認する。
2:　基礎実技 鉛筆を使った作品制作Ⅰ(デッサン、略画)	身近な物の形を描く練習をする。
3:鉛筆を使った作品制作Ⅱ(デッサン、略画)	デッサンに於ける形の取り方を学ぶ。
4:鉛筆を使った作品制作Ⅲ(デッサン、略画)	デッサンに於ける明暗(コントラスト)の付け方を学ぶ。
5:クレパスを使った作品制作Ⅰ(風景)	作品の下絵を考える。
6:クレパスを使った作品制作Ⅱ(風景)	クレパスの特性を学ぶ。 完成作品を自己評価し、作品のプレゼンテーションを行う。
7:水彩を使った作品制作Ⅰ(季節を意識した画面構成・技法を使って)	作品の下絵を考える。
8:水彩を使った作品制作Ⅱ(季節を意識した画面構成・技法を使って)	水彩絵の具の特性を学ぶ。
9:色紙を使った作品制作Ⅰ(季節を意識した画面構成・ちぎり絵で)	作品の下絵を考える。
10:色紙を使った作品制作Ⅱ(季節を意識した画面構成・ちぎり絵で)	ちぎり絵の特性を学ぶ。 完成作品を自己評価し、作品のプレゼンテーションを行う。
11:　応用実技 技法遊びⅠ(ひっかき、はじき等)	道具・材料を準備し、作品の下絵を考える。
12:技法遊びⅡ(ひっかき、はじき等)	技法・材料の特性を学ぶ。
13:テーマにそった作品制作Ⅰ(様々な技法・材料を使って)	道具・材料を準備し、作品の下絵を考える。
14:テーマにそった作品制作Ⅱ(様々な技法・材料を使って)	技法・材料の特性を学ぶ。
15:テーマにそった作品制作Ⅲ(様々な技法・材料を使って)	完成作品を自己評価し、作品のプレゼンテーションを行う。 技法等の応用、展開を考える。

＊準備学習についての補足説明
制作中の作品について授業で指導された事柄を参考に次の課題に活かしていく。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

プリント、参考資料等を適宜配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

提出作品　(90%)　学習の意欲　(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要。
遅刻・欠席をしない。
提出した課題は、参考資料として、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
国語	CH08109	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
橋本　浩		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

子どもたちの教育や保育に従事する保育者に求められる資質能力には多くのものがある。この「国語」の授業では、次に記すような事柄に関する学習と研究を演習形式で行う。
(1)母語としての国語に関する基礎的な理解と知識を深める。　(2)お便り帳や日誌・手紙など実務的な国語の力、国語による表現の力を高める。
(3)幼児教育・保育の専門家として、児童文学や絵本への理解と知識を深める。
(4)それらの基盤となる自身の感性を豊かなものとし、世界観・倫理観を確かなものとする。

Ⅲ. 学習成果

(1)保育者として豊かな言葉の世界を獲得することをとおして、自らの世界を広げ深めることができる。
(2)保育者としての適切な国語力や文章表現力を向上させることができる。
(3)「国語」の学習・研究を通して、日本人としてのものの見方や考え方を理解を深めることができる。
(4)連絡帳や園便り、あるいは報告書や日誌、手紙や通信等が有効かつ効果的に行うことができるようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 「国語」概論　講義・協議 オリエンテーション	課題1、国語表現課題(随想を書く) 予習1、常用漢字小テスト第一回範囲
2: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その1 (1)漢字とその音訓、仮名(萬葉仮名、ひらがな、カタカナ)　講義・発表・協議	課題2、国語表現課題(五十音図といろは歌) 予習2、常用漢字小テスト第二回範囲
3: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その2 (2)五十音図といろは歌、日本語の音韻　講義	課題3、国語表現課題(現代仮名遣い問題) 予習3、常用漢字小テスト第三回範囲
4: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その3 (3)現代仮名遣い　講義・演習	課題4、国語表現課題(送り仮名問題) 予習4、常用漢字小テスト第四回範囲
5: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その4 (4)送り仮名の付け方　講義・演習	課題5、国語表現課題(現代語文法問題) 予習5、常用漢字小テスト第五回範囲
6: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その5 (5)現代語文法　講義・演習	課題6、国語表現課題(敬語実践問題) 予習6、常用漢字小テスト第六回範囲
7: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その6 (6)待遇表現(敬語法)①　講義・演習・協議	課題7、国語表現課題(会話実践問題) 予習7、常用漢字小テスト第七回範囲
8: 一、国語について理解を深め、正しい日本語の使い手となる　～　その7 (7)待遇表現(敬語法)②　講義・演習・協議	課題8、国語表現課題(暑中見舞い作成) 予習8、常用漢字小テスト第八回範囲
9: 二、実務の力を高める　～　その1 (8)公用文における手紙・ハガキの書き方　講義・演習	課題9、国語表現課題(お礼状作成) 予習9、常用漢字小テスト第九回範囲
10: 二、実務の力を高める　～　その2 (9)お礼状の書き方　講義・演習	課題10、国語表現課題(お知らせ文作成) 予習10、常用漢字小テスト第十回範囲
11: 二、実務の力を高める　～　その3 (10)連絡文・通知文の書き方　講義・演習	課題11、国語表現課題(宮澤賢治の作品) 予習11、常用漢字小テスト第十一回範囲
12: 三、児童文学・児童文化への理解を深める　～　その1 (11)児童文学とは何か　講義	課題12、国語表現課題(小川未明の作品) 予習12、常用漢字小テスト第十二回範囲
13: 三、児童文学・児童文化への理解を深める　～　その2 (12)児童文学鑑賞(宮澤賢治・小川未明の作品)　講義・演習	課題13、国語表現課題(児童文化財の種類)
14: 三、児童文学・児童文化への理解を深める　～　その3 (13)児童文化財について　講義・演習(指導案作成)	課題14、児童文化財を使っての部分実習指導案完成⑭
15: 三、部分実習指導案について　協議 四　総まとめ　講義	これまでの振り返り。(これまでの学習資料持参)

＊準備学習についての補足説明
○常用漢字小テストの予習、課題については「Ⅶ. その他」に記載のとおり。しっかり取り組むこと。○準備学習は各回45分以上行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

○テキストは担当者が準備(プリント等)するので、A4ファイルを準備のこと。なお、主な冊子は次のとおりである。
①常用漢字表　②現代仮名遣い　③送り仮名の付け方　④公的な手紙の書き方　⑤児童文学関係文　その他

Ⅵ. 評価方法と評価基準

(1)単位認定試験(55%)　(2)課題(30%)～①毎時間の小テスト(常用漢字)、②課題への取り組み　他
(3)学習の意欲(15%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

○課題については、毎時間始めに解説や友人間での回覧や発表、協議の時間を設け、学習目的を明確にし学ぶ意欲を高める。
○常用漢字小テスト(指定範囲)を毎時間実施する。このための予習を指定原稿用紙に書き、授業前日までに提出すること。
○フィードバックについては、課題の点検・解説・返却・やり直しを行う。また発表等においては担当者によるコメントの他、学生間評価も取り入れる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
社会福祉	CH03101	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
郡嶋　かおる		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:		実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

みなさんは社会福祉という言葉を今までに聞いたことがあるのではないでしょうか。保育士は、社会福祉分野の専門職のひとつです。
社会福祉の理念や意義、各種の法律や制度、どのように社会福祉が成立してきたのか、社会福祉に貢献した人物とその背景、
社会福祉を取り巻く現代の状況など、基本的な知識を幅広く学びます。

Ⅲ. 学習成果

社会福祉の理念や意義について説明できる。
社会福祉は誰でもが必要なサービスであることを説明できる。
福祉サービス利用者の権利擁護について説明できる。
社会福祉の法体系や制度について説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:　現代社会の動向と社会福祉、私たちの周りにはどのような福祉課題があるのだろうか	はじめに、本書の使い方、目次を確認して授業に参加してください
2:　現代社会の動向と社会福祉	11頁のkeywordと12頁の小詩高齢化と人口減少社会(要約)を読む 教科書　section1
3:　イギリスとアメリカの社会福祉の歩み	社会福祉の歴史を学ぶ意義(29頁～30頁)を読んでまとめる
4:　日本の社会福祉の歩み	措置制度と契約制度についてまとめる
5:　日本国憲法と福祉分野の法体系	自分の街の条例を2つ挙げてみる
6:　社会福祉の行政機関と民間専門機関・団体、財源	福祉事務所についてまとめる
7:　社会福祉施設と社会福祉の専門職	自分の住んでいる地域にどのような福祉施設があるか調べる
8:　社会福祉の専門職・実施者	福祉の専門職について調べる
9:　社会保障制度と私たちの暮らし	自分の医療保険から考える
10:　5つの社会保険	生活保護を受けている人はどんな人？
11:　公的扶助(生活保護の原理・原則)と低所得者支援制度	82頁のsection1,2,要約を読む 3
12:　子育て支援の今日的動向、子どもと家庭への支援と子ども家庭福祉制度	100頁のsection1,2,3を読む
13:　高齢者を取り巻く状況と法制度、地域包括ケアシステム	自分の祖父母から考える
14:　障害者福祉の理念と法制度	障がい者についてのイメージを考える
15:　地域共生社会の実現に向けて	社会福祉協議会についてまとめる

＊準備学習についての補足説明
学生さんの状況に応じて、授業内容を変更することがあります。20分～25分は復習の時間に充ててください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書:みらい×子どもの福祉ブックス　社会福祉　志濃原亜美・編集　みらい
参考図書:福祉の動向　中央法規
その他、新聞記事を配布することがあります

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50%　小テスト20%　課題20%　学習の意欲10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

質問は積極的にしてください。授業中の私語は厳禁です。携帯等はかばんの中に入れてください。
提出課題については、コメントをつけて返却いたします。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育原理	CH04104	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
溝田　めぐみ		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

この科目では、保育の基本を学んでいきます。具体的には保育の理念、保育の役割、制度、実践を学ぶ。
また、保育の目標、方法、計画とその評価についても学ぶ。
そして、国内外の保育の実際を知り、より広い視野で保育の機能とその意義や課題を考えていく。

Ⅲ. 学習成果

保育の理念、保育の役割、制度、実践についての基礎を理解し説明ができる。
保育の目標、方法、計画とその評価についての基礎を知り説明ができる。
国内外の保育の実際を知り、より広い視野で保育の機能とその意義や課題について説明ができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 保育の理念と概念 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
2: 保育の社会的役割と責任 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
3: 保育の制度的位置づけ グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
4: 保育所保育指針に基づく保育 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
5: 3歳未満児の保育 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
6: 3歳以上児の保育 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
7: 子育て支援と家庭との連携 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
8: 保育の目標と方法 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
9: 保育の計画・実践および評価 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
10: 諸外国の保育の思想と歴史①中世までの保育と保育思想他 グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
11: 諸外国の保育の思想と歴史②　家族のあり方の変化と子ども グループで準備学習について話し合う	予習:予習プリントに取り組む。
12: 日本の保育の思想と歴史	予習:予習プリントに取り組む。
13: 諸外国の保育の現状と課題	予習:予習プリントに取り組む。
14: 日本の保育の現状と課題	予習:予習プリントに取り組む。
15: これまでのまとめ	予習:予習プリントに取り組む。

＊準備学習についての補足説明
翌週の授業予習プリントを配布しますので、次の授業までにテキストの該当箇所を見て記入しておきましょう。予習プリントは40分程度で取り組める内容になっています。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

『基本保育シリーズ　保育原理』2017 監修公益財団法人　児童育成協会　編集天野珠路・北野幸子　中央法規
幼稚園教育要領解説(最新版)文部科学省/著(フレーベル館)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)内閣府/著
文部科学省/著　文部科学省/著(フレーベル館)、 保育所保育指針解説(最新版)厚生労働省/編(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

準備学習60%、単位認定試験30%、授業貢献度10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

準備学習は授業内で解説します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
社会的養護Ⅰ	CH04107	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
飯田　良子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

近年、児童虐待をはじめ、保護者による家庭養育に困難が生じ、保護者以外の者が養育を担当する「社会的養護」を必要とする児童が増加している。今や、児童の健全育成は、家庭や地域のみでなく、児童福祉施設や里親などの社会的養護によっても大きく支えられている。この教科では社会的養護の歴史的変遷と意義、社会的養護の制度と仕組み、児童の権利擁護や自立支援について学び、さらに社会的養護の現状と課題について理解を深める。

Ⅲ. 学習成果

1. 社会的養護の実施体系や意義について説明できる。
2. どのような子どもたちが社会的養護を必要としているか説明できる。
3. 児童福祉施設の役割や里親制度、特別養子縁組等の意義について説明できる。
4. 子どもの権利擁護はどのように護られ、支援されていかなければならないか説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1.社会的養護の実施体系や意義について。	児童福祉法第4条の児童の定義についてまとめる。
2.社会的養護の歴史的変遷 グループワーク　社会的養護の初めについて	岡山孤児院「石井十次」の十則についてまとめる。
3.社会的養護の制度と法体系 グループワーク　　児童福祉法の1条について	児童福祉施設の体系についてまとめる
4.社会的養護の仕組みと実施体系	児童相談所の機能についてまとめる。
5.社会的養護と施設養護 グループワーク　実習先で見られた保育士の子どもへの語りかけについて	施設実習園の養護内容についてまとめる。
6.社会的養護の専門職・実施者	施設実習園での職員構成と役割についてまとめる
7.社会的養護の基本理念	児童福祉法の理念との関連についてまとめる
8.社会的養護の基本原理① グループワーク　子どものいのちをどう守るか	いのちを考える・・・動物の子育てについて調べる。
9.社会的養護の基本原理② ディスカッション　子どものいのちを守るには。	いのちを考える・・・マザーテレサの活動についてまとめる。
10.社会的養護の実際　　日常生活支援と治療的支援	施設の日常生活支援や治療的支援について調べる。
11.社会的養護の実際　　自己実現と自立支援	施設入所児童に退所先や進路についてまとめる。
12.児童の権利擁護①　障害児の権利擁護 グループワーク:障害児の権利の侵害について事例を検討する。	障害児の権利侵害の事例についてまとめる。
13.児童の権利擁護②　障害系以外の児童の権利擁護 グループワーク:児童養護施設の子どもの権利の侵害について事例を検討する。	児童養護施設での権利侵害の事例についてまとめる。
14.児童の権利擁護③　赤ちゃんポスト、養子縁組について考える。 ディスカッション　赤ちゃんポストの役割について	赤ちゃんポストについてまとめる。
15.児童虐待を予防する。まとめ	

＊準備学習についての補足説明
準備学習は毎回45分以上行うこと。内容については毎回の授業で説明します。課題の提出はプリントまたはGoogle　classroomにて提出して下さい。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書:子どもの未来を考える社会的養護(ミネルヴァ書房)
参考図書:「最新保育資料集」ミネルヴァ書房　その他授業中に紹介する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(上記内容①～15について、学習成果①～4の観点から出題)50%。　レポート10%。中間試験15%。振り返りシート20%
学習の意欲:5%。(授業中の私語、スマートフォン等の使用、重篤な居眠りは減点評価。積極的な質問や発表、Iシートの記述内容はプラス評価。)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題はコメントをつけて授業で返却します。また、授業で数名発表して頂きます。
前回の授業に対する各人のまとめを授業開始時に数名発表して頂きます。
実務経験:臨床心理士資格。国立療養所障害児病棟で23年間勤務。小中学校のスクールカウンセラーを16年間務める。
毎回の授業で、現場で経験したり経験した事例や子どもの姿、保護者の姿などを紹介し、学生の授業理解が深まるように努めている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
乳児保育Ⅰ	CH04110	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
梅原　眞理子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

本授業では，現代における乳児を取り巻く環境について知り，教育・保育施設において保育者が日々実践している乳児保育についての意義・目的・役割などを学びます。

出生してから著しく発達していく時期の乳児期の生活や遊びの実際を知り，保育者としての求められる知識や保育方法の基本について事例などを通して学び，「子どもの最善の利益」とは何なのかについて理解を深めます。

Ⅲ. 学習成果

1. 乳児保育の意義・目的と歴史的返還及び役割などについて説明できる。
2. 保育所，乳児院など多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について説明できる。
3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について説明できる。
4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 授業の進め方や授業方法等について 乳児保育の意義・目的・歴史的返還	「保育所保育指針」 保育所の役割P362(1)保育所の役割を読みノー記入する
2: 乳児保育における養護及び教育の一体性 保育所の一日の生活の流れと保育の環境	NO.1予習問題 「保育所保育指針」P30～37を読み記入する 教科書P16～17を読み問題を解く
3: 乳児保育の現状と課題 多様な場における乳児保育の展開	NO.2予習問題　教科書P18～P24を読み問題を解く 乳児院と里親制度について調べてまとめる
4: 乳児保育及び子育て家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	NO.3予習問題 「保育所保育指針」P328～342を読み記入する 「保育所保育指針」P17、科書P148～153を読み問題を解く
5: 3歳未満児の身体の発達・手指の発達 アタッチメントを形成することの重要性	NO.4予習問題　教科書P28～32を読み問題を解く
6: 3歳未満児の言葉と社会性の発達	NO.5予習問題　教科書P33～35を読み問題を解く
7: 乳児(0歳児)の保育内容・発達の特徴や道筋	NO.6予習問題 「保育所保育指針」P89～120を読み記入する DVDで学んだ発達のポイントをノートにまとめる
8: 1歳以上3歳未満児の保育内容・発達の特徴や道筋 3歳以上に移行する時期の保育内容	NO.7予習問題 「保育所保育指針」P121～181を読み記入する DVDで学んだ発達のポイントをノートにまとめる
9: 乳児の生活と遊びの基本的事項 安定した日課と秩序ある生活	NO.8予習問題　教科書P64～75を読み問題を解く 今回の学びについてノートにまとめる
10: 3歳未満児の生活の基本 発育・発達を踏まえた援助方法や関わり	NO.9予習問題　教科書P82～101を読み問題を解く 今回の学びについてノートにまとめる
11: 3歳未満児の遊びや発達を促すおもちゃ（グループワーク）	NO.10予習問題 「保育所保育指針」P24～29を読み記入する 今回の学びについてノートにまとめる
12: 乳児保育の生活と遊びの環境　乳児(0歳児)の保育室	NO.11予習問題　教科書P116～119を読み問題を解く 0歳児の保育室の環境図を書く
13: 乳児保育の生活と遊びの環境　1・2歳児の保育室	NO.12予習問題　教科書P120～123を読み問題を解く 1歳児の保育室の環境図を書く
14: 乳児保育における計画・記録・評価とその意義:	NO.13予習問題 「保育所保育指針」P39～43を読み記入する 教科書P124～132を読み問題を解く
15: 乳児保育における連携・協働 職員間及び家庭や地域との連携	NO.14予習問題　教科書P144～147を読み問題を解く これまでの予習問題と振返りテストをまとめる

＊準備学習についての補足説明

授業の終わりに次回の授業についての予習内容を提示するので，次の授業までに問題を解き、重要な箇所はノートにまとめておくこと。(加点あり)　振返りテストを実施します。学習した重要ポイントを出題するのでファイリングをして復習すること。　単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

＊「講義で学ぶ乳児保育」小山朝子編著 わかば社　＊保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館

＊「乳児保育　養成校と保育室をつなぐ理論と実践」 社会福祉法人福祉会茶々保育園グループ/編　萌文書林

＊「乳児保育の実際」「わらべうた」コダーイ芸術教育研究所/著　明治図書　＊その他，必要に応じて資料を配布します。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

＊単位認定試験(70%)　＊課題及び振返りテスト(20%)

＊学習の意欲(10%) 授業中の私語及び携帯電話の使用は減点の対象とします。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

乳児保育は，子どもが自らの生涯を豊かにしていく力を育んでいくための基盤を築く大切な保育です。乳児保育に関連した図書や法制度，資料，新聞記事などを確認し学びを深め，積極的な発言や授業への取組みを求めます。 グループワークやDVD等を取り入れて授業を進めます。課題については自分が何を学んだか，次回の学習目標を具体的にまとめ，期日を守り提出すること。課題については評価をして返却します。配布資料は，事前学習や復習などに活用すること。

※「乳児保育」とは，3歳未満児を念頭においた保育を示し，0・1・2歳児を中心に学習します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1・2年
教育実習(事前・事後指導)	CH04201	開講時期:	前期		
		形態:	実習	単位:	5単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
寺地　亜衣子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

幼稚園での教育実習の目的や意義を理解する。
2年間の実習計画とその内容を理解し、実習生としての心構えを持つ。主体的に実習に臨み、保育実践の基礎能力と保育者としての態度を身に付ける。
1年次の附属幼稚園実習と実習後の振り返りの中で、幼児とのかかわりや保育者の役割、保育環境等、保育についての学びを深める。
実習の自己評価や振り返りを通して、自身の課題を設定する。

Ⅲ. 学習成果

・幼稚園での教育実習の目的や意義を理解するとともに、実習生としての心構えを持ち意欲的に教育実習に取り組むことができる。
・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、これからの自分自身に必要な課題を見つけ、今後の学習、実習への意欲を高める。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション ・幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の保育　・子ども像、保育者像	三法令を読み、それぞれの特徴や目的についてレポートを作成する。 保育者を目指すきっかけや、目指す保育者像についてレポートを作成する。
2: 実習の意義、目的、内容 ・2年間の実習計画	スケジュール帳に実習の予定を書き込み、今後の見通しを持つ。
3: 実習の心構え ・幼稚園の一日　・心構え(グループワーク、プレゼンテーション)　・守秘義務	保育者としての身だしなみ、守秘義務について調べ、レポートを作成する。
4: 記録について ・記録の取り方　・記録の意義	どのような視点で保育の記録を取るのか調べ、レポートを作成する。 いろいろな保育の記録について調べ、レポートを作成する。
5: 見学実習直前指導	見学実習に向けて必要なものを確認し、準備する。
6: 附属幼稚園見学実習	附属幼稚園での学びをまとめ、レポートを作成する。
7: 見学実習の振り返りと、これからの実習に向けて ・給食についての事例学習(グループワーク・プレゼンテーション)	見学実習の自己評価をもとに、次の実習の自己課題を設定し、書き出す。
8: 実習前指導 ・実習に臨む姿勢、実習中・実習後の留意事項　・保育の循環について	見学実習の記録をもとに、実習録を作成する。
9: 実習直前指導	これまでの授業を振り返り、実習に向けた準備を行う。
10: 子ども理解について ・幼稚園の生活と遊び	3歳～5歳児の発達について調べ、季節や年齢に応じた絵本や遊びを考え 授業時に持参する。
11: 附属幼稚園実習の振り返り ・それぞれの園での学びについて(グループワーク、プレゼンテーション)	実習録の追記、修正を行い、自己評価を行うとともに、次の実習に向けての 自己課題を立てる。
12: 指導計画について ・指導計画の意義と種類	指導計画の種類について調べ、レポートを作成する。
13:・指導計画の書き方、立案	実習したクラスの子どもの姿から、部分実習で行ってみたいことを準備する。
14: ・部分指導案の立案	教科書や配布資料を参考に、部分指導案を立案する。
15: 今後の実習に向けて ・自分自身の実習課題	これまでの実習とその前後指導を振り返り、今後の実習に向けての自分自身の 課題を見つけ、書き出す。

＊準備学習についての補足説明
レポートは授業時のグループワークやプレゼンテーションに使用するため、授業前までに必ず取り組むこと。各回60分程度の予習時間が必要である。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「学生・養成校・実習園がともに学ぶ　これからの時代の保育者養成・実習ガイド」(大豆生田啓友ら編著、中央法規)
「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)　「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府(フレーベル館)
「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」(小櫃智子編、わかば社)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実習録・レポート等の課題内容・提出(30%)、学習の意欲(授業・実習への取り組み　30%)、実習園評価(40%)　※2年間の総合評価

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・1年次前期15回の後も、2年次後期まで実習の事前事後に随時実施する。各自で確認し、出席すること。
・レポート課題をもとにグループワークを行う中で、課題へのフィードバックを行う。提出レポートにコメントを入れて返却することもある。
・保育学科の実習要件に満たない学生は、実習前の学科の全教職員による判定で実習を停止する場合もある。実習要件は各自確認のこと。
・レポートの提示や作成、提出においてGoogleClassroomを使用することがある。
・「実務経験教員科目」特記事項:授業担当者は保育士勤務経験あり。各回、実習生の受け入れ経験をもとにした授業を展開する。園での保育者や子どもの姿、様子の事例を提示しながら授業を行う。また各実習先では実習担当幼稚園教諭により教諭としての心構え、指導計画、記録等についての指導が行われる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1・2年
教育実習（現場実習）	CH04201	開講時期:	通年		
		形態:	実習	単位:	5単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
寺地　亜衣子　他		履修要件他:			
専任教員		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・幼稚園教育の意義や目的、および内容について理解して実習に臨む。
・実習において、幼児と実際にかかわる体験を通して幼児理解を深め、保育者としてのあり方を学ぶ。
・座学で学んだ保育の理論と実習で学ぶ実践とを結びつけ、保育に対する理解を深める。
・自分自身の課題を見つけ、保育者としての資質を身に付けていく。

Ⅲ. 学習成果

・現場実習を通して幼稚園教諭としての自覚と態度を養いながら、保育の知識・技術の習得を目指すことができる。
・子どもの実態を把握することから保育が始まることを理解し、保育者として必要な資質能力を身に付けようとすることができる。
・自分自身の知識や技能について具体的な課題を見つけ、今後の学習・実習への意欲を持つことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容

1:
※「教育実習」実習5単位は、幼稚園での20日間の実習と、実習前後の事前・事後指導を合わせての5単位である。
2:
○事前・事後指導・・・幼稚園教育、子ども像と保育者像、実習の目的と心構え
3:　・幼稚園見学・・・短大附属香蘭幼稚園見学（1年次5月、事前事後指導の授業内）
・事前指導、実習園オリエンテーション
4:　・実習後の振り返り・自己課題の設定、実践と理論の融合（2年間）

5:　○教育実習　（現場実習　20日間）
・観察実習・・・短大附属幼稚園5日間（3園に分かれて実施する）：1年次 6月2日間
6:　子どもの遊びや発達、保育者のかかわりや役割、保育の環境について焦点を絞って観察する。

7:　・参加実習・・・短大附属幼稚園3日間（上記と同じ園）：1年次 10月3日間
部分保育の指導計画案を作成し、実習園教諭の指導のもと保育の一部分を担当する。
8:
・総合実習・・・学外幼稚園15日間（学生本人が依頼）：2年次 9月15日間
9:　実習園オリエンテーションでの子どもの様子・行事等を伺い、そのことを踏まえ、保育の指導計画を立案し
実習に臨む。実習先の担当者の指導を仰ぎながら責任を持って保育の一部分を担当する。
10:　指導計画案に基づいた保育実践（部分、半日、全日保育など）を行う

11:　※実習要件　（入学時に配布説明）

12:　・本学保育学科の実習要件に満たない学生は、実習前の学科全教職員での判定により実習を停止する場合もある。
（※ 実習要件：科目履修、全授業出席率85%以上、全授業態度（課題提出を含む）、学生らしい行動・身だしなみ等）
13:

14:

15:

＊準備学習についての補足説明
・実習に向けての心構えや書類の準備を早めに行うこと。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「学生・養成校・実習園がともに学ぶ　これからの時代の保育者養成・実習ガイド」（大豆生田啓友ら編著、中央法規）
「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）　、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）
その他、教員作成資料や参考図書は事前事後指導にて随時提示する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実習録・レポート等の課題内容・提出（30%）、学習の意欲（授業・実習への取り組み　30%）、実習園評価（40%）　　※2年間の総合評価

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

・日頃から乳幼児の言葉や遊びなどの様子や親子のかかわりなどをよく観察し、記録を行っていくこと。
・1年次前期15回の後も、2年次後期まで実習の事前事後に随時実施する。各自確認し、出席すること。
・課題については授業内で共有したり、コメントを入れて返却することでフィードバックを行う。
・課題の提示や提出においてはGoogleClassroomを使用することがある。
・「実務経験教員科目」特記事項：各実習先では実習担当幼稚園教諭により教諭としての心構え、指導計画、記録等についての指導が行われる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
濱田　尚志　他		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
15回の授業を前半7回、後半7回に分け、前半後半で各1コース、合計2コースを受講する。最終15回目は全体会で学びの共有を行う。
授業開始前に事前登録を行い、前半はあそび(A～Eコース)から1コース、後半は制作(F～J)から1コースを選択する。

Ⅲ. 学習成果

1　学んだ教材を実習先・就職先において活用できる
2　学んだ内容をふりかえり今後の展開を考えることができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
※以下の10コースから選択	
Aコース(あそび)「ネイチャーあそび」 内容:自然の中で楽しむあそび	各シラバスを参照
Bコース(あそび)「集団あそび」 内容:集団でのさまざまなあそび	各シラバスを参照
Cコース(あそび)「おはなし」 内容:絵本の読み聞かせ・紙芝居・素話	各シラバスを参照
Dコース(あそび)「レクリエーションあそび」 内容:レクリエーションあそび	各シラバスを参照
Eコース(あそび)「劇あそび」 内容:劇あそび	各シラバスを参照
Fコース(制作)「指人形」 内容:指人形・軍手人形製作	各シラバスを参照
Gコース(制作)「エプロンシアター」内容:布・フェルトによるエプロンシアター作成	各シラバスを参照
Hコース(制作)「パネルシアター」 内容:パネル・シート作成	各シラバスを参照
Iコース(制作)「手作りおもちゃ」 内容:音が鳴る、浮く、動く、木工等おもちゃ製作	各シラバスを参照
Jコース(制作)「ペープサート」 内容:手遊びとペープサート製作	各シラバスを参照
※15回の授業を前半7回、後半7回に分け、 前半はあそび(A～Eコース)から1コース、後半は制作(F～J)から1コース、 合計2コースを受講する。 授業開始前に事前登録を行う。 ※15回目は全体会で学びの共有を行う	
※各コースの授業内容はそれぞれのシラバスを参照すること	

＊準備学習についての補足説明
各シラバスを参照
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とする。

Ⅴ. 教科書・参考図書

コースA～Jそれぞれのシラバスを参照すること
参考図書:保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

コースA～Jの評価をそれぞれ45点満点に換算する。
受講した2つのコース(45点×2コース)＋全体会(10点満点)の合計で評価する。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

コースA～Jそれぞれのシラバスを参照すること

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Aコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
中村　洋子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で自然の中で遊ぶ大切さを学び、自然素材を教材とし、それらを使用した指導方法について理解を深め、こどもの能力や成長を促す様々なあそびを知る

ことの大切さを学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

・自然の中で楽しむことのできるあそびの種類を知ることができる
・学びを実際に幼稚園実習や保育実習で展開できるようになる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ネイチャーあそびとは　～豊かな体験を深める自然体験活動とは～	復習: 「五感で体験する」について課題に取り組む
2: 聞く力 聞く力を働かせ、豊かな感性を育むには	復習: 授業内容関するレポート作成
3: 見る力 「見たい！」「見つけたい！」主体的な活動につなげるには	復習: 成果物に関するレポート作成
4: 自然のものを使って室内あそびを考える 指定の素材を使った遊びを考えグループ発表を行う	復習: 成果物に関するレポート作成
5: 小さなものを見るあそび(伝承あそび) 自然の不思議を体験するには	復習: 成果物に関するレポート作成
6: フィールドビンゴあそび(親子レクリ―ション) 仲間と協力しながら自然を体感するには	復習: 成果物に関するレポート作成
7: カモフラージュあそび 生き物に興味を持ち、作品をつくる	復習: 成果物に関するレポート作成。
8: まとめ	予習: 全7回のレポートを読み直し、自然を使ったあそびを考える
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回、レポートに記入するので、考えたあそびをまとめておくこと
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

感想シート、レポート提出、(50%) 学習の意欲(20%) 発表(30%)

Ⅶ. その他

こどもと一緒にあそぶことを意識して授業を進める。長い髪は束ね、アクセサリー類は外すなど、保育者として相応しい服装で授業に取り組むこと
課題へのフィードバックは、課題にコメントを加えて本人に返す

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Bコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
藤田　美雪		履修要件他:			
濱田　尚志		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
集団あそびでは、授業を通して幼少期にしていたあそびや知らなかったあそびを集団で体験し、あそびの幅を広げる。
あそびを行うときの注意点もその都度、説明します。

Ⅲ. 学習成果

授業で実際にしたあそびを幼稚園実習や保育実習で展開できるようになる。
集団あそびをするときの注意点がわかる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:　オリエンテーション(授業の進め方、自己紹介、役割分担) いろいろな伝承遊び①　ちょちちょちあわわ、ずいずいずっころばし　等	幼少期にしていたあそびについてまとめる。発表するあそびを調べてまとめる(30分程度) 配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。
2:　いろいろな伝承遊び② こんにちは、はしるよきしゃぽっぽ、とおりゃんせ、にんじゃでニン！　等	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。
3:　かくれんぼ、おにごっこ　さんびきのこぶた、ことろおに　等 あそびの個人発表・実演①　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
4:　新聞紙あそび　ボール・輪・刀作り　チャンバラごっこ　等 あそびの個人発表・実演②　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
5:　じゃんけんあそび　げんこつやまのたぬきさん、ダンゴ・くし・皿　等 あそびの個人発表・実演③　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
6:　つくってあそぼう　オセロゲーム、カードめくりゲーム　等 あそびの個人発表・実演④　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
7:　あそびの個人発表・実演⑤　5～6名 まとめ	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。まとめのレポート提出。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
準備学習には毎回45分以上かけること
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成プリント配布
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題(感想シート、まとめのレポート)提出　30%　、　あそびの発表内容　30%　、　学習の意欲(授業への参加度)　40%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

①課題に早めに取り組み発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述したりするなど授業に積極的に参加すること。
②提出課題については、提出期限を守ること。提出された「自分の幼少期のあそび」「発表したあそびのプリント」「感想レポート」は
コメントをつけてまとめ、最後に全員に配布します。
③授業の際は、毎回、体操服・体育館シューズ着用。長い髪は束ね、アクセサリー類は外すこと。
④携帯電話・スマートフォンの持込不可。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Cコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
阿久根　千賀子		履修要件他:			
橋本　浩		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
絵本・紙芝居・ストーリーテリングの実践活動から、よりよい「読みきかせ」のスキルと実践力を学ぶ。
グループワークでの「読み手」「聞き手・語り手」の役割を体験することにより、保育現場を想定した実践力を伸ばす。

Ⅲ. 学習成果

学びを実際に教育実習・保育実習で実践する技術を習得することができる。
様々な作品に触れ、絵本・紙芝居等の特徴を知り、作品が伝えたい内容が理解できる。
対象とする乳幼児の成長・発達を考慮した絵本、紙芝居等の作品選びができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: 絵本読みきかせワーク 様々な絵本に触れ、持ち方、めくり方の実践を行う	様々な絵本の種類や形体、つくりについてラーニングシートに記入する 絵本の”つくり”に応じた持ち方、見せ方の違いを覚えてくる
2: 絵本読みきかせグループワーク・4名程度のグループでの実践 実践のあと、見せ方、読み方についてのグループディスカッションを行う	実践に必要な持ち方、見せ方、読み方についてラーニングシートに記入する 「聞き手」を意識した絵本の音読を実践してくる
3: 絵本と選書についてのグループワーク 発達・年齢をふまえた選書についてのグループワークとそのプレゼンテーション	グループワークでの選書内容についてラーニングシーに記入する 対象年齢を意識した絵本選書を実践する
4: 紙芝居ワーク・様々な種類、形体の作品に触れる 紙芝居実演の基本動作についてのグループワーク	紙芝居の特徴を知り、下準備の方法について覚えてくる 紙芝居のより良い持ち方、ぬき方についてラーニングシートに記入する
5: 紙芝居グループワーク・舞台を用いた実践活動 グループでのプレゼンテーション	立ち方・ぬき方及び作品に適した演出方法を覚えてくる 舞台使用の留意点についてラーニングシートに記入する
6: ペーパーシアターワーク・発音、語りについてのグループワーク 受講者1／3による「読みきかせ会」プレゼンテーション	「発音トレーニング」を実践し、明瞭な発音を復習する 「読みきかせ会」を体験し、他者の発表内容及び対応力を記入する
7: 受講者2／3による「読みきかせ会」プレゼンテーション 選書と対象年齢、ねらい、読み語りの技術面からフィードバックを行う	「読みきかせ会」を体験し、他者の発表内容及び対応力を記入する 絵本、紙芝居について「見せ方・読み方・選び方」をラーニングシートに記入する
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回、事前事後学習に30分以上かけること。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成の資料
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

終了時レポート30%　・　授業での学び提出35%　・　発表30%　・　学習の意欲5%

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

授業では”ラーニングシート”を記入し授業内容のまとめ及び次回授業の教材として活用します。
絵本、紙芝居は本学や地域図書館の貸し出しシステムを利用し、下読み等の事前準備が可能です。
また、地域の育児サークル、図書館での読みきかせ会に参加することで体験的理解につながります。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Dコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
柳　幸子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め，その技能を高めることを目的とする。
・乳幼児の発達を考慮し、歌遊び・レクリエーションダンス・わらべうたなどを通して、コミュニケーション力を習得する。
・グループワークでそれぞれ役割を持ち、幼児体操を創作及び説明書(図解)を創り上げる、また保育現場で保育の展開に繋げていく。

Ⅲ. 学習成果

・学びを実際に幼稚園実習や保育実習で展開できるようになることを目指す。
・乳幼児に関わる様々な方法を身に付け、その際の楽しさや技術を身につける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション　コミュニケーション力についてのノウハウや体験を通して学ぶ。 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを楽しむ。	自己紹介の中で幼いころの歌遊びやレクリエーションダンス、わらべうたを紹介する。 学んだ遊びを記録をとる。
2: 保育教材制作(こぶたぬきつねこ) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。(前回の復習含む)	自己紹介(幼児向け・大人向け)をまとめる。(レポート提出) 制作に必要な物を準備する。(色鉛筆・マーカー・はさみ・のり・定規他)
3: 保育教材制作仕上げ(こぶたぬきつねこ)・実演発表 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。(前回の復習含む)	制作に必要な物を準備する。(色鉛筆・マーカー・はさみ・のり・定規他) 学んだ遊びを確実に覚える。 学んだ遊びを確実に記録を取る。
4: 幼児向け創作体操にチャレンジ(グループワーク①) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
5: 幼児向け創作体操にチャレンジ仕上げ・踊り方作成(グループワーク②) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
6: 幼児向け創作体操発表会及び指導(グループワーク③) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
7: 歌あそび、わらべうた指導(個人発表) 学んだ遊びを一人ひとつ、発表し合う。	お互いの発表を見ることで、自分の課題を見つけ参考にする。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回30分以上、事前事後学習を行い次回の内容をきちんと把握しておく。持参品や提出日の厳守。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要な際には、教員作成資料配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習意欲40%　　模擬実演30%　　課題・提出物30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

①授業の際には毎回、マスクを装着し、動きやすい服装。長い髪は束ね、アクセサリー類は安全上、外す。
②課題による提出物はしっかり考え、取り組む。
③創作体操踊り方を冊子にまとめ、全員に配布します。
④実技準備のため毎回、会場設定は全員で行いましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Eコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
山田　裕美子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材についての理解を深め、その技術を高めることを目的とする。
劇あそびの基礎を学び実践していく中で、見通しをもって保育活動を展開していくイメージが持てる保育者を目指す。

Ⅲ. 学習成果

役になりきって表現する楽しさを知り、子どもたちと楽しさを共有しながら劇あそびが展開できるようになる。
劇あそびを通して子どもの創意工夫を引き出す技術を身に付ける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 自己紹介 劇あそびのねらいについて	復習:劇あそびについてまとめる(レポート)
2: 年齢別劇あそびの紹介、実践	予習:各年齢(0～6歳)の発達段階を把握しておく
3: 絵本を題材とした劇あそび作り(グループワーク)	予習:絵本探し、選んだ理由についてまとめる(レポート) 復習:グループワークでの自分の役割について(レポート)
4: 絵本を題材とした劇あそびのグループ発表	予習:劇あそびへの導入について考えておく 復習:劇あそびの発表を経験した感想や気付きをまとめる(レポート)
5: オリジナル劇あそびについて	予習:幼児期や学童期に発表した劇や観劇についてまとめる(レポート)
6: オリジナル劇あそび作り(グループワーク)	予習:台本作成
7: オリジナル劇あそびのグループ発表	予習:準備、練習、必要であれば小道具作り 復習:授業の振り返り、感想など(レポート)
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
準備学習の内容によっては、グループワークになる場合もあります。詳細は授業内で説明します。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要な際には教員作成資料を配布。参考図書はその都度紹介します。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題(レポート)提出　40%　発表　30%　学習意欲　30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業の際は、保育者として相応しく動きやすい服装で参加してください。
課題(レポート)に対するフィードバックは、コメントをつけて返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Fコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
相賀　貴子		履修要件他:			
黒木　知美		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
その中でも柔らかな素材(フェルト、毛糸等)、身近で手に入れることのできる物(軍手、はぎれ等)を使って、3つの教材を作る。

Ⅲ. 学習成果

学びを実際に幼稚園実習や保育実習で展開できるようになることを目指す。
子どもたちの前での立つ位置等を考えながら、自信をもって演じること。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:フェルトをつかってつくろう 指人形	自分の裁縫技術を再確認してくる。その中で自分の技術の足りない部分を練習する。(例えば、玉止め・玉結び等)
2:軍手シアターをつくろう　①パーツ(人形等)をつくる	題材となるお話、歌などを覚えてくる。 つくる上で、工夫したい箇所を確認してくる。
3:軍手シアターをつくろう　②土台(軍手)をつくる ・お互いの作品を見ながら演じたり、コメントしあう	出来上がった教材を練習してくる。 みんなの前で演じてみる。
4:軍手をつかってつくろう　①顔のかたちを縫う・首くだをつくる オリジナルの腕人形	何(人・動物)をつくるか、絵本等を見て決めてくる。
5:軍手をつかってつくろう　②顔を仕上げる(パーツを縫う) オリジナルの腕人形	どのような顔・頭の形にしたら、自分の考えている作品に近づくか工夫してくる。
6:軍手をつかってつくろう　③洋服をつくる オリジナルの腕人形	服となる素材を探し、準備してくる。 発表にむけて、練習してくる。
7:軍手をつかってつくろう　④顔に洋服をつけ、仕上げる オリジナルの腕人形　　・個人作品発表会及び総合コメント	発表をみて、次の自分の課題を考える。 今後、どのような場面で活用させるのか等。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
作った教材をお話や歌などで保育展開できるよう、毎回事前・事後学習に1時間程度取り組んでください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員作成資料を配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出(80%)　学習の意欲(10%)　発表、作品紹介(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業時間内に作品を完成させるためには、忘れ物がないようにしてください。
各自で準備をしないといけないものは、事前に授業の中でお知らせします。
作品に対するコメントは随時行います。またお互いの完成した作品については、コメント(良い点、改善点等)を出し合い学びを深めます。
長く使える教材に仕上げましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Gコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
林　美波		履修要件他:			
姫島　源太郎		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
お話や歌などをエプロンシアターとして作成し、子どもの姿を想定した演じ方を考える。

Ⅲ. 学習成果

学びを実際に幼稚園実習や保育実習で展開できるようになる。
創意工夫を凝らし作成した教材を、様々な方法で活用する力を身につける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション 土台作成	作りたい作品(お話、歌、手遊び、クイズなど)を決める
2:作品作り:各自、一点、エプロンシアターを作成 作品の型紙を作成する	作品のストーリーや設定をまとめる 作品のデザインを考える
3:エプロンシアターの登場人物(3つ以上の人形)を作成する① 材料を揃え、パーツを切る	作りたいものに適した作品の材料を選択する
4:エプロンシアターの登場人物(3つ以上の人形)を作成する② 縫い合わせる、貼りつける	作成した人形の動かし方を考える
5:エプロンに背景(舞台)を作成する	人形の色合い等を考慮した背景のデザインを考える
6:作品(エプロンシアター)を仕上げる	導入、話の展開等を考え、演じ方のポイントを確認して、練習する
7:各自の作品発表会、まとめ	子どもの姿を想定した演じ方を更に工夫し練習する 今後の課題について考え、レポートにまとめる
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回1時間程度行うこと。内容については毎回の授業で詳しく説明します。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員作成資料を配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出(50%)、発表(30%)、学習の意欲(10%)、レポート(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

裁縫道具を毎回持参しましょう。
作品は、発表会で互いにコメント(作品作成、発表の良い点、改善点)を出し合い、学びを深めます。
まとめレポートは、コメントをつけて返却します。
エプロンシアターの演じ方や応用力を身に付けていきましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Hコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
梅田　美穂		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

学びを実際の幼稚園実習や、保育実習で展開できるようになることを目指す。
創意工夫を凝らして作製した保育教材を、保育実践の場で活用し、工夫しながら演じることができることを目的としている。

Ⅲ. 学習成果

保育実習・教育実習で実践できる作品を作り上げる。
子どもの姿を想定しながら、工夫して演じることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション パネルシアターを知る。作る手順を知る。	パネルシアターについて調べておく パネルシアターについてインターネットで検索し、イメージしておく
2:作る作品を決める 下絵を描く	作りたい作品を考えておく 下絵の構想を考える
3:作品作り 下絵を描く。絵具で色を塗る。	下絵を完成させておく 絵具の色を考える
4:作品作り 作品のふちを描く	色付けを完成させておく パネルの材料を準備しておく
5:パネルづくり	作品の縁取りまで完成させておく パネルの材料を準備しておく
6:演じ方の練習	演じる時の注意点をまとめておく
7:作品鑑賞会 授業の振り返り	演じる練習をする 今後の課題について考える
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
授業時間内に各回の課題が終わらなかった時には、次の授業日までに終わらせておくこと。毎回、30分以上の自宅学習が必要である。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員配布資料
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出 50%、学習の意欲・作品発表　50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

パネル台を制作する為に、材料費が1500円程度かかります。
課題のフィードバックは、コメントをつけて本人に返します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Iコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
杉森　映徳		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
児童・幼児の造形活動の指導に必要な基礎技能を実際に保育に利用できる「おもちゃ」の制作を通して学習し、保育者としての資質の向上を図る。

Ⅲ. 学習成果

学んだ知識・技能等を実際に幼稚園実習、保育実習を含め、保育現場で幼児の援助・指導方法にどの様に応用、展開していくかを習得する。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 動く絵（回転しながら絵が変化する平面）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
2: 剣玉（紙コップを使った玉入れ）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
3: びっくり箱（ビニール袋に描いた絵が空気を利用して飛び出す）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
4: マラカス（ビー玉等を使ったガラガラ）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
5: 動く工作（紙の変化を利用した立体）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
6: 糸電話（紙コップと糸を使ったおもちゃ）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
7: 作品の作り方レポート	全ての作品の制作工程を図等を入れながら分かり易く解説する。 完成作品を自己評価し、技法の応用、展開を考える。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
授業では制作時間が限られている為、30分以上の自宅学習が必要である。 作品を必ず授業中に提出。 詳細については授業中に行う。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

提出作品 （80%） レポート （10%） 学習の意欲 （10%）

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要。
遅刻・欠席をしない。
提出した課題は、参考資料として、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅰ Jコース	CH04120	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
八尋　理恵		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。

Ⅲ. 学習成果

1. ペープサートで表現することの楽しさを学び、子どもたちとその楽しさを共有できる。
2. 幼稚園実習・保育実習で実演できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 手遊び、指あそび、わらべうたをやってみる 実際にペープサートを動かしてみる	手遊び、指あそび、わらべうたを体験し表現する ペープサートを知る
2: 手遊び、指あそび、わらべうたのやり方の工夫 簡単なペープサートの製作	発達段階に応じたやり方を知り工夫してやってみる ペープサートの作品を決め製作する
3: ペープサートの特性を知り、製作	ペープサートの製作の仕方を体験し覚える
4: 製作したペープサートの実演(個人作品)	ペープサートのやり方の工夫 発達段階に応じたペープサートの演じ方等を工夫する
5: グループで1つの作品を製作①	グループ作品の決定と役割分担 脚本・登場人物等の内容を考えて製作する
6: グループで1つの作品を製作② 完成した作品を使ってグループ発表の準備	作品の製作と完成した作品の演じ方・工夫
7: グループで作品発表	他グループの作品を見てお互いを評価し、より良い作品の製作に繋げる
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
子どもたちの発達段階について学習しておく。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

資料を作成し配布する。 参考図書は、その都度紹介する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品を仕上げより良い作品にしようという意欲がみられる(40%)　模擬実習(30%)　ミニレポート(20%)　受講態度(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・製作物の評価等コメントをつけて返却します。
・絵本や“おはなし”など日頃から親しんでおいてください。
・製作のための道具(のり、ハサミ、色えんぴつ等)を忘れないこと。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
子どもの保健	CH06101	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
上野　京都		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、子どもの成長過程や疾病と症状、生活上の問題点（身体的な発育・発達）について、把握、対応、予防法について、事例も交えながら説明します。

Ⅲ. 学習成果

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。
2. 子どもの身体的な発育・発達と成長過程を理解している。
3. 子どもの生活上の問題点またその接触・対応方法を理解している。
4. 子どもの疾病とその予防法について理解している。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:オリエンテーション　子どもの保健の授業について 保育所の目的、保育者の意義	「子どもの保健」で学ぶ意義、保育活動の意義と目的についてまとめる。
2:健康の概念と健康増進への指導	健康であることの概念や健康維持についてまとめる。
3:子どもの身体的な発育・運動機能の発達と保健	子どもの身体的成長と発達状態をまとめる。
4:子どもの生理的機能とその把握	子どもの生理的な機能と能力をまとめる。
5:子どもの心身の健康状態とその把握	子どもの心身の健康をまとめる。
6:子どもの疾病①　一般的な疾病	子どもの疾病の種類をまとめる。
7:子どもの疾病②　慢性疾患	子どもの疾病の変化をまとめる。
8:子どもの疾病の予防となる適切な対応と方法	疾病の予防と対策についてまとめる。
9:子どもの救急処置となる適切な対応と方法	救急状態の把握や対応についてまとめる。
10:子どもの健康状態の観察と不調の早期発見 グループディスカッション	心身の不調を早期発見しまとめ、グループで討議する。
11:現代社会における子どもの健康に対する問題	虐待の問題と社会とのかかわりについてまとめる。
12:保護者との情報共有と家族への支援の方法	保育所での情報提供と保護者との共有についてまとめる。
13:地域における保健活動また関係機関との連携	他職種機関との連携・協働についてまとめる。
14:子どもの健康診断と意義	発育・発達の把握と健診についてまとめる。
15:まとめ グループディスカッション	授業内容のわからないところをグループで討議し、質疑応答していく。

＊準備学習についての補足説明
毎回45分以上は取り組みましょう
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書：子どもの保健テキスト　小林 美由紀他著　診断と治療社
参考図書：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験（80%）　学習の意欲（20%）

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

日常において、小さな子どもと関わりをもつと、子どもの大きさと年齢がわかるようになります。
保育者としてスペシャリストになるスキルを学んでいきます。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
子どもの食と栄養Ⅰ	CH06103	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
山田　貴美枝		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

栄養に関する基本的な知識を基に子どもの発育・発達の特徴を理解し、食事の形態や食卓環境への配慮・支援方法などを学ぶ。
さらには、保育の現場でも、子どもや保護者に適切なアドバイスができる応用力を身につける。

Ⅲ. 学習成果

○栄養に関する基礎知識を身につけ、健康な食生活を実践することができる
○子どもの発育・発達と食生活の関連について理解することができる
○各段階における離乳食の進め方について食品の選択・1回に与える目安量・調理形態の変化を理解し、活用することができる
○咀嚼機能に応じた食支援を保育の現場でも実践することができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:子どもの健康と食生活の意義　食生活と健康のかかわり 「子どもの食と栄養」 授業概要・演習シート・課題についての説明	第1回～第15回までの【予習・復習】については補足説明を参照する テキストP14の避けたい7つの「こ食」について調べる
2:子どもの食生活の現状と課題 社会背景と子どもの食生活	PPTスライドと資料で食を取り巻く現状について整理する
3:子どもの発育・発達と栄養 食べる機能の発達	テキストP16～P20の指定した範囲をシートに書き写し整理する
4:栄養に関する基礎知識　栄養素の消化吸収 栄養素の種類とはたらき(糖質・脂質・たんぱく質)	テキストP23の栄養素の種類をシートに整理する
5:栄養に関する基礎知識 栄養素の種類とはたらき(ビタミン・ミネラル)	ビタミンを多く含む食品と欠乏(過剰)症について課題シートに整理する
6:栄養に関する基礎知識 栄養素の種類とはたらき(食物繊維・水分ほか)	ミネラルを多く含む食品と欠乏(過剰)症について課題シートに整理する
7:栄養に関する制度 日本人の食事摂取基準	テキストP37図1の各指標の概念図を見ながら説明ができるようにする 指定した範囲をシートに整理する
8:献立作成・調理の基本 調理法・だし　①到達度確認小テスト	PPTスライドと資料の要点をまとめ献立作成のポイントをシートに整理する
9:食品表示の見方 食中毒予防と衛生管理	食品表示の見方についてテキストの指定した範囲を書き写し整理する
10:妊娠期と授乳期の食生活 栄養素過不足の問題　②到達度確認小テスト	薬局等のベビーコーナーの取り扱い商品・そのホームページを見ておく 妊娠中に気になる食材・摂り方など食事のポイントをシートに整理する
11:乳児期の食生活 乳汁栄養(母乳・乳児用調製粉乳・離乳期幼児期用粉乳・等)	動画や資料をよく読み、調乳方法を確認し不明点を書きだしておく 粉ミルク・液体ミルクの特徴や使い方をシートに整理する
12:※乳児用調製粉乳の調乳実習 液状乳の試飲	調乳の手順や試飲後の評価をシートに整理し、グループ間で共有する
13:※離乳の意義とその実践　③到達度確認小テスト 離乳食の進め方	離乳の役割をシートに整理する テキストP71図5離乳食の進め方の目安について説明できるようにする
14:※離乳の支援のポイント・献立・調理　④到達度確認小テスト ベビーフードのタイプ別特徴と活用方法・試食および食具の使用体験	試食後の栄養評価等をシートに整理しグループ間で共有する ベビーフードのタイプ別特徴と活用方法・与える量をシートに整理する
15:※乳児期の栄養、食生活上の問題と保育者としての対応 安全を基本に楽しく食べられる配慮　⑤到達度確認小テスト	グループ間でフィーディングスプーンを使った姿勢を含む離乳食介助と評価 子どもが楽しく食べるための環境づくりについてシートに整理する

＊準備学習についての補足説明

事前学習(予習)は内容にそった資料を配付。テキストの指定範囲の不明なところは調べてから受講のこと。詳細は毎回ごとに授業内でアナウンスする。事後学習(復習)はシートを活用し空欄のままにせず記述内容の確認する。(予習・復習に要する時間は各回1時間以上、計画を立て意欲的に取り組む)単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書　(テキスト)「子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本」編著太田百合子，堤 ちはる/羊土社

「子どもの食生活(第6版)-栄養・食育・保育ー」編著上田玲子/ななみ書房　「発育期の子どもの食生活と栄養」/学建書院 「イラスト子どもの食と栄養」/東京教学社
「子育て・子育ちを支援する子どもの食と栄養」編著堤ちはる,土井正子/萌文書林　「子どもの食と栄養(改訂第2版)」編集・執筆児玉浩子/中山書店
「保育所保育指針」「保育所における食事の提供ガイドライン」 「新 食物アレルギーガイドブック」監修海老澤元宏，林 典子/メイト

Ⅵ. 評価方法と評価基準

◉単位認定試験(50%)、
◉提出物の演習シートおよび課題シートはテーマの要点、内容、取り組む姿勢などを加味して総合的に評価する(40%)
◉学習意欲、積極的な発表姿勢、受講態度等(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

※印はアクティブ・ラーニングの手法を用いた演習・実習である。目的を理解し積極的に参加すること
◉質問等は授業前後・昼休みに、提出物は評価後返却、必要に応じて授業内でコメントの提示や学生間で学びの共有をし、往還的理解を深める
◉返却後の提出物・資料等はすべてA4ファイルに綴じ、いつでも活用できるようにしておくこと
◉日頃から“食”にまつわる情報を収集し関心を高めるとともに、自分自身の望ましい食生活を心がけること
◉到達度確認のための小テストの実施(授業内で、指定する範囲や取り組み方を説明)

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
教育原理	CH04102	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
溝田　めぐみ		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

教育に関する基本的な枠組みを作る授業です。その為教育に関する歴史・法律・制度・現代的課題・理論・思想について、
また、五領域のねらいについても学びます。

Ⅲ. 学習成果

基礎的な理論や思想、そして教育の諸要素を知り、それぞれの関わり合いについて理解し、教育を客観的に捉えることができる。そして、教育に関する法的・制度的な基礎知識があり、そこに内在する課題を理解している。これらに関して人に説明したり文書で説明したりすることができる。
五領域のねらいを覚えている。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: 教育とは何か グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
2: 教育と福祉 グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
3: 教育の目的、機能 グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
4: 生涯学習 グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
5: 乳幼児期の発達と教育の特性 グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
6: 就学前教育の制度 グループで準備学習を元に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
7: 乳幼児教育期における教育実践の基礎 グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
8: 乳幼児期における遊びの意義と教育実践 グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
9: 就学前教育と小学校教育の違い グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
10: 保育者の専門性 グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
11: 五領域のねらいを覚えよう グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
12: 日本の教育の歴史 グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
13: 世界の子ども観の変遷 グループで準備学習を基に討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
14: 世界の教育の歴史 グループで準備学習を基に討議、テストについて	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
15:「遊びを通して学ぶ」とは	これまでのミニテストを復習し、記入プリントに結果をまとめる。

＊準備学習についての補足説明

授業の予習プリントを事前に配布しますので、必ず取り組み、授業に持参してください。予習プリントの内容を踏まえて授業を行います。プリントは30分～60分程度で取り組めるものとなっています。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領解説（最新版）文部科学省/著（フレーベル館）、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（最新版）内閣府/著
文部科学省/著　文部科学省/著（フレーベル館）、 保育所保育指針解説（最新版）厚生労働省/編（フレーベル館）

Ⅵ. 評価方法と評価基準

準備学習60%、単位認定試験30%、授業貢献度10%

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

準備学習は翌授業内でグループ討議に活用し採点します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
教育課程総論	CH04106	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
梅田　美穂		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の役割と、教育課程、保育課程の意義について学びます。事前にテキストを読み、積極的に授業に臨みましょう。

Ⅲ. 学習成果

・教育課程、保育課程、指導計画の意義について説明できる。
・具体的な用事の姿から指導計画を立案、実践後の振り返りをすることができる。
・カリキュラムマネジメントについて理解し、説明することができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 保育の基本について学ぶ。	テキストP7-18を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
2:「教育課程」・「全体的な計画」と指導計画 「教育課程」・「全体的な計画」の編成と計画について学ぶ。	テキストP19-31を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
3: 幼稚園の理解 幼稚園の基本と指導計画の実際について学ぶ。	テキストP37-66を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
4: 保育所の理解 保育所の基本と全体的な計画について学ぶ。	テキストP67-100を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
5: 認定こども園の理解 認定こども園の全体的な計画について学ぶ	テキストP32-35を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
6:「教育課程」・「全体的な計画」の作成 「教育課程」・「全体的な計画」の作成するための留意点について学ぶ。	テキストP101-122を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
7: 指導計画の作成 長期計画と短期計画について学ぶ。	テキストP58-65を読を読み、ポイントをまとめる。 授業時間内に終わらなかった課題を完成させておく。
8: 指導計画の作成 期間計画、月の計画について学ぶ。	テキストP90-99をを読み、ポイントをまとめる。 授業時間内に終わらなかった課題を完成させておく。
9: 指導計画の作成 週の計画、一日の計画について学ぶ。	テキストP134-136、P174-177を読み、ポイントをまとめる。 授業時間内に終わらなかった課題を完成させておく。
10: 指導計画の作成の基本とその方法 指導計画案を立て、学生による相互添削を行う。	指導計画の立案に必要な資料、教材を準備する。 授業時間内に終わらなかった課題を完成させておく。
11: 年齢による保育の特徴 0～5歳児の各年齢の特徴と保育について学ぶ。	テキストP137-152を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
12: 実践と評価 保育の評価とPDCAサイクルについて学ぶ。	テキストP153-165を読み、大切だと思うこと、わからないことについてまとめる。
13: 模擬保育の実践 計画に沿った模擬保育を実践する。	模擬保育に向けた準備、練習をする。
14: 模擬保育の振り返り 模擬保育の振り返りをする。	模擬保育終了後のレポートを完成する。 部分案を修正する。
15: 全体のまとめ	これまでの授業の学びについてレポートを作成する。

＊準備学習についての補足説明
教科書を読み、自分なりに理解を深めておくこと。わからない用語、事柄は調べておくこと。各回45分程度の予習時間を必要とする。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「教育課程・保育の計画と評価　書いて学べる指導計画」岩崎淳子　及川留美　粕谷亘正著　(萌文書林)
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)
「認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)
「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

事前学習、レポートなどの課題、学習意欲　50%、　学期末単位認定試験　50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・事前学習については授業時にチェックする。提出レポートはコメントをつけて返却します。
・授業では振り返りシートの記入やグループディスカッションを行います。事前学習をしっかりとし、積極的に授業に臨むようにしましょう。

「実務家教員科目」特記事項:幼稚園教諭、保育士、母子生活支援施設勤務経験あり。教員が経験した事例を紹介しながら、理論が深まるようにする。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
子ども家庭福祉	CH03102	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
河嶋　静代		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

今日の子ども家庭福祉の状況についての理解を深めるとともに、子ども家庭福祉の理念、制度、援助について学ぶ。保育士として子どもや家庭への支援に生かせるような知識を修得することをねらいとしている。

Ⅲ. 学習成果

①現代社会に生起している児童家庭福祉問題について説明できる。
②子どもの権利と子どもの権利擁護に関わる法制度について説明できる。
③児童家庭福祉の専門職としての保育士の役割について、説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:授業ガイダンス、少子高齢社会から見える子どもと家庭を取り巻く状況	図1-1から図1－9までを見て、その特徴を口頭で説明できるようする。
2:子どもを取り巻く環境の変化と生活問題	図1－10と図1－11を見て、その特徴を口頭で説明できるようにする。
3:子どもの人権 子どもの権利条約についてのディスカッション	ワークシートの動画を見て感想を書く。
4:児童家庭福祉の成立と展開(イギリス・アメリカ・日本を中心に)	ワークシートの動画を見て感想を書く。
5:児童家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設	ワークシートの動画を見て感想を書く。
6:子育て支援・次世代育成支援と保育施策	ワークシートの動画を見て感想を書く。
7:母子保健と健やか親子21	ワークシートの動画を見て感想を書く。
8:ひとり親家庭への福祉施策	ワークシートの動画を見て感想を書く。
9:子どもへの虐待問題	ワークシートの動画を見て感想を書く。
10:DV問題、子ども虐待・DV問題への対策 デートDVのロールプレイ	ワークシートの動画を見て感想を書く。
11:社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策	ワークシートの動画を見て感想を書く。
12:障害がある子どもへの福祉施策	ワークシートの動画を見て感想を書く。
13:心理治療を必要とする子どもの支援	ワークシートの動画を見て感想を書く。
14:非行問題を抱える子どもへの支援	ワークシートの動画を見て感想を書く。
15:これまでの授業の振り返り	

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。毎回課題(ワークシート)を出します。課題は遠隔授業時はGoogleclassroomにて提出してください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉』 監修:喜多一憲　編集:堀場純矢　株式会社みらい
その他、必要に応じて資料を配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

①単位認定試験　70%　②課題　20%　③学習の意欲　10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・私語、携帯電話の使用など周囲の迷惑になるような行為は厳に慎しむこと。減点の対象とする。(携帯電話は鞄にしまっておくこと)
・事前学習を行い、授業内容について発言や質問など、積極的な授業参加を望む。
・提出物に対するフィードバックとして、課題提出は毎回チェックを行い次の授業で返却し、総評を述べる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
社会的養護Ⅱ	CH04108	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
飯田　良子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

様々な養護問題を抱え、社会的養護を余儀なくされている児童に対して、それぞれの施設や里親家庭等で生活支援、自立支援、権利の擁護がどのように
3. 児童福祉施設の役割や里親の意義について説明できる。
権利擁護などが主たる内容である。

Ⅲ. 学習成果

1. 児童福祉施設等のそれぞれの処遇内容(生活支援や自立支援など)について説明できる。
2. 児童福祉施設等での児(者)の権利の擁護の保障について説明できる。
3. 児童福祉施設等で働く保育士の役割について説明できる。
4. 児童福祉施設等の社会的役割について説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:児童の権利擁護 グループワーク　児童虐待の事例について	子どもの権利条約の1条についてまとめる。
2:保育士の倫理及び責務 グループワーク　　実習園での子どもへの関わりについて	保育士の守秘義務についてまとめる。
3:施設養護と児童相談所	児童相談所の一時保護所についてまとめる。
4:施設養護の特性及び実際①乳児院 グループワーク　乳児への関わりとホスピタリズムについて	乳児院の養護内容についてまとめる。
5:施設養護の特性及び実際②児童養護施設 グループワーク　入所児童のニーズについて	児童養護施設の養護内容についてまとめる。
6:施設養護の特性及び実際③医療型障害児入所施設 グループワーク　入所者のQOLについて	医療型障害児入所施設の養護内容についてまとめる。
7:施設養護の特性及び実際④福祉型障害児入所施設 ディスカッション　社会参加と自己実現について	福祉型障害児入所施設の養護内容についてまとめる。
8:施設養護の特性及び実際⑤児童発達支援センター	児童発達支援センターの養護内容についてまとめる。
9:施設養護の特性及び実際⑥情緒障害児短期治療施設 ディスカッション　被虐待児童への関わりについて	情緒障害児短期治療施設の養護内容についてまとめる。
10:施設養護の特性及び実際⑦その他の児童福祉施設	その他の児童福祉施設の養護内容についてまとめる。
11:支援計画と内容及び事例分析① グループワーク:養育放棄の事例について検討する。	養育放棄(ネグレクト)を主とした事例についてまとめる。
12:支援計画と内容及び事例分析②	保護者の経済的理由を主とするについてまとめる。
13:記録及び自己評価	自己評価についてまとめる。
14:保育時の専門技術 グループワーク　役割交換面接体験	児童養護施設の個別相談員の役割についてまとめる。
15:社会的養護の課題と展望。まとめ	

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、毎回45分以上行うこと。内容については毎回授業で説明します。課題はプリント、又はGoogle classroomにて提出。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書:子どもの未来を支える社会的養護(ミネルヴァ書房)
参考図書:「最新保育資料集」ミネルヴァ書房、その他授業中に配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(上記内容1～15について、学習成果1～4の観点から出題))50%。レポート10%、。中間試験15%。振り返りシート20%
学習の意欲:5%。(授業中の私語、スマートフォン等の使用、重篤な居眠りは減点評価。積極的な質問や発表、Iシートの記述内容はプラス評価。)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題はコメントをつけて授業で返却します。また授業で数名発表して頂きます。
前回の授業に対する各人のまとめを授業開始時に発表して頂きます。
実務経験:臨床心理士資格。国立療養所障害児病棟で23年間勤務。小中学校スクールカウンセラーを16年間務める。
毎回の授業で現場で経験したり研究した事例や子供の姿、保護者の姿・思いについて紹介して、学生の授業理解を深めるようにしている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
乳児保育Ⅱ	CH04111	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
梅原　眞理子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

乳児保育は，子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期である。 この講義では，0・1・2歳児の発育・発達の理解を深めた上で，子どもの最善の利益を考えた乳児保育の展開や技術について知識を深め，グループワーク重ねながら保育士としての専門性が活かされる力を習得することを目指します。

Ⅲ. 学習成果

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について説明できる。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に説明できる。
3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に説明できる。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 乳児保育の意義 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	前期で学んだ「保育所保育指針」P89～181を振り返り要点をまとめる 受容的な保育・応答的な保育とは何かを調べてノートにまとめる
2: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わり 0～3歳までの発育・発達の特徴	NO.1予習問題　教科書P20～35読み0～3歳までの発達を表にまとめる
3: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 手作りおもちゃ Ⅰ	NO.2予習問題　教科書P103～119及び本やインターネットで調べて問題を解く
4: 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 手作りおもちゃ Ⅱ	0・1・2歳児のわらべうたと絵本について調べてノ問題を解く
5: 発育・発達を踏まえた生活と援助の実際Ⅰ（排泄・着脱・清潔の演習）	NO.3予習問題　教科書P50～89を読み問題を解く 排泄・着脱・清潔の演習で学んだことをノートにまとめて理解を深める
6: 発育・発達を踏まえた生活と援助の実際Ⅱ（食事・睡眠の演習）	NO.4予習問題　教科書P36～67を読み問題を解く 食事・睡眠の演習で学んだことをノートにまとめて理解を深める
7: 3歳未満児の保育内容と保育に関わる配慮事項	NO.5予習問題　教科書P98～113を読み問題を解く
8: 乳児保育における配慮の実際 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	NO.6予習問題　教科書P90～97を読み問題を解く
9: 事例を通して，けがや事故の対応を考える Ⅰ（グループワーク）	NO.7予習問題　配布資料の事例をよく読み問題を解く 積極的にディスカッションに取組めるように自分の考えをまとめておく
10:事例を通して，けがや事故の対応を考える Ⅱ（グループワーク・発表） 環境の変化や移行に対する配慮	グループディスカッションの内容をまとめる 今回の学びについてノートにまとめ理解を深める
11:子どもの生活や遊びを支える環境構成 Ⅰ（グループワーク） 1歳児・2歳児の保育室の環境図	NO.8予習問題　家庭的な環境を整えるために必要な物についてまとめる 積極的に発言や作業ができるように，保育室の環境構成をまとめておく
12:子どもの生活や遊びを支える環境構成 Ⅱ（グループワーク・発表） 1歳児・2歳児の保育室の環境図の発表とまとめ	完成した環境図についてグループで要点をまとめ発表につなげる 今回の学びについてノートにまとめる
13:乳児保育における計画と評価 長期的な指導計画と短期的な指導計画 個別的な指導計画の実際	NO.9予習問題　教科書P120～129を読み問題を解く 0歳児の個別指導計画を作成する
14:子どもの最善の利益と主体的活動が保障された環境	DVDで学んだことをノートにまとめる
15:乳児保育の使命 乳児保育を支える連携	教科書P130～136を読みノートにまとめる これまでの予習問題と振返りテストをまとめる

＊準備学習についての補足説明

授業の終わりに次回の授業についての予習内容を提示するので，次の授業までにノートにまとめておくこと。(加点あり)　振返りテストを実施します。
学習した重要ポイントを出題するのでファイリングをして復習すること。単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

＊「演習で学ぶ乳児保育」善本眞弓編著 わかば社　＊「 保育所保育指針解説 」厚生労働省 フレーベル館
＊「乳児保育　養成校と保育室をつなぐ理論と実践」社会福祉法人福祉会茶々保育園グループ/編　萌文書林
＊ 「乳児保育の実際」 「わらべうた」 コダーイ芸術教育研究所/著 明治図書　　＊その他，必要に応じて資料を配布します。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

＊単位認定試験(70%)
＊課題及び振返りテスト(20%)
＊学習の意欲(10%) 授業中の私語及び携帯電話の使用は減点の対象とします。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

グループ討議や演習，DVD等を取り入れいて授業を進めます。グループワークでの積極的な発言や取り組みができるよう事前学習をすること。
課題については自分が何を学んだか，次回の学習目標を具体的にまとめ，期日を守り提出すること。提出物については評価をして返却します。
配布資料は，ファイリングをして事前学習や復習などに活用すること。
日ごろから乳幼児に関心をもって生活をし，0，1，2歳児の発達や生活と遊びについて積極的な事前学習をすることを求めます。
※「乳児保育」とは，3歳未満児を念頭においた保育を示し，0・1・2歳児を中心に学習します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1・2年
保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	CH04202 CH04203 CH04204	開講時期:	1年後期・2年前期		
		形態:	実習	単位:	4・2・2単位
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	保育士必修・選択		
		履修要件他:			
担当者		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	
梅田　美穂					
姫島　源太郎　他					

Ⅰ．本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅰ　保育実習の構造

保育実習
- 保育実習Ⅰ
  - 保育所・・・指定保育園（10日間）
  - 保育所以外の児童福祉施設（10日間）
  - 施設見学実習（1日）

＊保育実習指導Ⅰ（条件　保育実習Ⅰを履修した人は必ず履修すること）

- 保育実習Ⅱ　保育所（10日間）

＊保育実習指導Ⅱ（条件　保育実習Ⅱを履修した人は必ず履修すること）

- 保育実習Ⅲ　保育所以外の児童福祉施設（10日間）

＊保育実習指導Ⅲ（条件　保育実習Ⅲを履修した人は必ず履修すること）

※保育士資格取得希望者は、保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲのいずれかを必ず選択履修すること。

Ⅱ　事前・事後指導については、

（1）保育実習指導Ⅰのページを参照

（2）保育実習指導Ⅱのページを参照（2年次配布シラバス）

（3）保育実習指導Ⅲのページを参照（2年次配布シラバス）

Ⅲ　現場実習

（1）保育実習指導Ⅰ（現場実習）のページを参照

（2）保育実習指導Ⅱ（現場実習）のページを参照

（3）保育実習指導Ⅲ（現場実習）のページを参照

Ⅳ　事後指導

巡回指導各担当者フォローアップ（施設実習・保育所実習）は、それぞれの実習終了後に実施される。

Ⅴ　その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育実習指導Ⅰ	CH04117	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
梅田　美穂		履修要件他:			
姫島　源太郎		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育実習生としての基本的態度の形成、実習に必要な事前の準備や学習について、演習形式で行う。

Ⅲ. 学習成果

1. 実習生としての基本的態度や心構えを身に付けることができる。
2. 保育実習の意義と目的を理解することができ、実習に必要な準備を行うことができる。
3. 子どもや利用者の方々の人権とプライバシーの保護及び守秘義務について理解するとともに、子どもや利用者の方々の理解を深めることができる。
4. 指導の計画・実践・観察・記録の援方法や内容を具体的に理解しすることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:保育実習について 「保育所・施設実習の仕組みと目的」を知る	テキスト「やさしい保育の教科書」第1回、第2回を読んでおく。
2:はじめての保育実習 はじめての施設実習	テキスト「やさしい保育の教科書」第3回、第4回を読んでおく。 授業中にできなかった課題を完成させる。
3:保育所実習ガイダンス 施設実習ガイダンス	施設実習ガイドP62-75を読んでおく。
4:保育実習について(保育所での一日) 施設見学実習	配布資料を読んでおく。
5:保育実習(乳幼児の理解①) 施設見学実習の振り返り	テキスト「やさしい保育の教科書」第5回、第6回を読んでおく。
6:保育実習(乳幼児の理解②) 施設実習(望ましい実習生とは。日誌の書き方)	保育所保育指針の30～34頁を読む
7:保育実習(乳幼児の部分案の計画)① 施設実習(施設の生活)	保育所保育指針38～58を読み部分実習案を計画する①
8:保育実習(乳幼児の部分案の計画)② 施設実習(施設の生活、実習録の書き方)	保育所保育指針38～58頁を読み部分実習案を計画する②
9:保育実習OR準備(実習生カード作成) 学年間交流(実習園情報交換会)	テキスト「やさしい保育の教科書」第7回、第8回を読んでおく。 ORのための書類の作成する。
10:指定保育園オリエンテーション 指定保育園オリエンテーション	OR準備をする。身だしなみ、服装、持参書類などの確認をしておく。 配布資料を読んでおく。
11:実習録の文章の書き方① 施設実習(自己課題設定)	自己の教育実習時実習録を省みて課題を見つける 保育実習の自己課題を考える
12:実習録の文章の書き方② 保育実習(自己課題設定、実習録の書き方)	施設実習ガイドP47-57を読んでおく。
13:保育実習ガイダンス(実習の書類配布、書類作成、腸内細菌説明) 施設実習ガイダンス(実習の書類配布、書類作成、腸内細菌説明)	保育実習に必要な書類を記入し準備する 施設実習に必要な書類を禁輸し準備する
14:保育実習ガイダンス(外部講師) 施設実習ガイダンス(外部講師)	実習生必携カードを記入する
15:指定保育園実習巡回担当者ガイダンス 施設実習巡回担当者ガイダンス	実習録に、実習園の概況、ORの記録、自己課題、実技表、指導案を綴り準備する 実習録に必要書類を綴る

＊準備学習についての補足説明
積極的に自主実習、ボランティアなどに参加して、保育実践のイメージを深めるようにしましょう。毎回、30分以上の自宅学習が必要である。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「保育所・施設・幼稚園　実習ステップブック」山本美貴子　松山洋平編著(みらい)
「施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習」駒井美智子編(萌文書林)
「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)
「認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題、書類の提出　50%　　学習意欲　50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

保育実習に向けた大切な授業です。授業は全て出席するようにしましょう。指定された課題や提出物は提出期限を厳守すること。
実習園については保育所、施設ともに事前によく調べておくこと。
課題は添削して返却します。
「実務家教員科目」特記事項:幼稚園教諭勤務経験、保育所勤務経験、母子生活支援施設勤務経験あり　現場で実習する際の実習生の動きなど、事例を紹介しながら指導を行っている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育実習Ⅰ	CH04202	開講時期:	後期		
		形態:	実習	単位:	4単位
		履修方法:	卒業選択		
		免許・資格など	保育士必修		
担当者		履修要件他:			
梅田　美穂					
姫島　源太郎		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育所や社会福祉施設で実習を行い、子どもや利用者への理解を深めるとともに、施設の役割と機能、保育士の職務内容を理解する。

Ⅲ. 学習成果

・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
・保育士の専門性と職業倫理について理解する。
・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容

1. 実習施設について理解する
2. 保育所・施設の一日の流れを理解する
3. 子どもや施設利用者・児の実態に触れ、理解を深める。
4. 指導計画・支援計画を理解する。
5. 保育技術、援助技術を習得する。
6. 保育士の役割と職業倫理、他の職員との連携について理解する。
7. 自らの児道観、保育観を高め、現代の家族や社会への理解を深める。
8. 安全対策、健康管理および疾病予防への配慮について学ぶ。

※　保育所で10日間、施設で10日間の保育実習を行います。

＊準備学習についての補足説明

積極的に自主実習、ボランティアなどに参加して保育実践のイメージを深めておきましょう。
実習中は日誌の記述に1時間以上かけること。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「保育所・施設・幼稚園　実習ステップブック」山本美貴子　松山洋平編著(みらい)
「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実習への取り組み、実習園の評価　50%、　実習日誌(実習前後の課題含む)　50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

実習期間中には学科教員が分担し巡回指導を実施します。実習施設の実習指導担当者との連携を基にスーパービジョンを行います。
「実務家教員科目」特記事項:幼稚園教諭勤務経験、保育所勤務経験、母子生活支援施設勤務経験あり　現場で実習する際の実習生の動きなど、事例を紹介しながら指導を行っている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育実習Ⅱ	CH04203	開講時期:	前期		
		形態:	実習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
梅田　美穂		履修要件他:			
姫島　源太郎		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

この科目は、保育実習Ⅰ(保育所における実習)での学びをさらに深め、保育士としての実践力を高めるために、さらに10日間の実習を行う。指導計画の作成と保育実践、記録と省察、自己評価及び計画の改善までの課程を実践的に学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

1. 保育所の機能と役割について、具体的な実践を通して理解を深めることができる。
2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にして保育を理解し、具体的に記述することができる。
3. 保育士の職務内容や職業倫理を踏まえたうえで保育を実践することができる。
4. 指導計画の作成、保育実践、記録、省察及び自己評価を実施し、自己の課題を具体的に飲めることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容

1. 保育全般に参加し、保育技術を学ぶ。
2. 子どもの発達の個人差に応じた援助の方法を学ぶ。
3. 指導計画を立案し、保育活動を行う。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を学ぶ。
5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。
6. 子どもの最善の利益に関わる配慮について学ぶ。
7. 保育士の職業倫理を理解する。
8. 保育士に求められる資質や知識、技能に照らし合わせて自己の課題にする。

※保育所で10日間の実習を行います。

＊準備学習についての補足説明

保育実習Ⅰでの学びを振り返り、課題解決に向けて取り組みましょう。
実習中は日誌の記述に1時間以上かけること。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)
「やさしい保育の教科書＆ワークブック保育所実習の事前・事後指導」佐藤賢一郎著(北大路書房)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実習への意欲、取り組み、実習園の評価　50%　　実習前・実習後の課題書類の提出50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

実習期間中には学科教員が分担し巡回指導を実施する。その際は実習施設の実習指導担当者との連携を基に実習生へのスーパービジョンを行う。

「実務家教員科目」特記事項:幼稚園教諭勤務経験、保育所勤務経験、母子生活支援施設勤務経験あり。現場で実習する際の実習生の動きなど、事例を紹介しながら指導を行っている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育実習Ⅲ	CH04204	開講時期:	前期		
		形態:	実習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
姫島　源太郎		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育実習Ⅰでの学びを踏まえた上で、さらに新たな児童心理治療施設での養護を体験し、施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する
施設と地域の実態に触れて、児童福祉施設等の役割や機能について理解を深める

Ⅲ. 学習成果

児童福祉施設等での保育士の業務や児童に対する支援を身につけている
児童福祉施設等の社会的役割や意義について説明できる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 児童福祉施設(保育所を除く)の養護全般に従事し、養護技術を習得する	
2: 子どもの個人差について理解し、対処の方法を理解する	
3: 発達にかたよりがある子どもや、障がい児者への理解について学び、援助の方法を具体的に身につける	
4: 適切な養育環境で育てられなかった経験を持つ子どもや、情緒障害を有する子どもの理解について学び、援助の方法を具体的に身につける	
5: 被虐待児に対する理解を深め、援助の方法を具体的に学ぶ	
6: 地域社会に対する理解を深め、地域との連携の方法について学ぶ	
7: 子どもの権利の擁護など、子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ	
8: 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ	
9: 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を理解し、実習生同士のディスカッションを通して自己の課題を明確化すること	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
実習中は実習日誌の記入等に1日につき1時間以上は取り組むこと

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:『施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子編著　萌文書林
参考図書:『学生・養成校・実習園がともに学ぶ　これからの時代の保育者養成・実習ガイド』 大豆生田啓友編著　中央法規

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実習施設の評価、実習への取り組み　50%
実習前後の課題や書類提出　25%
学習の意欲　25%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

これまでさまざまな授業で学んできたことを生かし、積極的に実習に臨むこと
実習中に巡回指導を行います。巡回指導の先生への報告・連絡・相談は密に行うこと

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
濱田　尚志　他		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
前期保育教材演習Ⅰでの学びと、実習等保育現場において実践した結果も踏まえ、さらなる理解と技能の向上を図る。
授業開始前に事前登録を行い、前半はあそび(A～Eコース)から1コース、後半は制作(F～J)から1コースを選択する。
前期保育教材演習Ⅰで学んだコース以外を選択する。

Ⅲ. 学習成果

1　学んだ教材を、実習先・就職先において活用できる
2　学んだ内容をふりかえり今後の展開を考えることができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
※以下の10コースから選択	
Aコース(あそび)「ネイチャーあそび」 内容:自然の中で楽しむあそび	各シラバスを参照
Bコース(あそび)「集団あそび」 内容:集団でのさまざまなあそび	各シラバスを参照
Cコース(あそび)「おはなし」 内容:絵本の読み聞かせ・紙芝居・素話	各シラバスを参照
Dコース(あそび)「レクリエーションあそび」 内容:レクリエーションあそび	各シラバスを参照
Eコース(あそび)「劇あそび」 内容:劇あそび	各シラバスを参照
Fコース(制作)「指人形」 内容:指人形・軍手人形製作	各シラバスを参照
Gコース(制作)「エプロンシアター」内容:布・フェルトによるエプロンシアター作成	各シラバスを参照
Hコース(制作)「パネルシアター」 内容:パネル・シート作成	各シラバスを参照
Iコース(制作)「手作りおもちゃ」 内容:音が鳴る、浮く、動く、木工等おもちゃ製作	各シラバスを参照
Jコース(制作)「ペープサート」 内容:手遊びとペープサート製作	各シラバスを参照
※15回の授業を前半7回、後半7回に分け、 前半はあそび(A～Eコース)から1コース、後半は制作(F～J)から1コース、 合計2コースを受講する。 授業開始前に事前登録を行う。 ※15回目は全体会で学びの共有を行う	
※各コースの授業内容はそれぞれのシラバスを参照すること	

＊準備学習についての補足説明
各シラバスを参照
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とする。

Ⅴ. 教科書・参考図書

コースA～Jそれぞれのシラバスを参照すること
参考図書:保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

コースA～Jの評価をそれぞれ45点満点に換算する。
受講した2つのコース(45点×2コース)＋全体会(10点満点)の合計で評価する。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

コースA～Jそれぞれのシラバスを参照すること

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Aコース	CH04121	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
中村　洋子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

体育を展開する上で自然の中で遊ぶ大切さを学び、自然素材を教材とし、それらを使用した指導方法について理解を深め、こどもの能力や成長を促す様々なあそびを知る
ことの大切さを学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

・自然の中で楽しむことのできるあそびの種類を知ることができる
・学びを実際に幼稚園実習や保育実習で展開できるようになる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: ネイチャーあそびとは　～豊かな体験を深める自然体験活動とは～	復習:「五感で体験する」について課題に取り組む
2: 聞く力 聞く力を働かせ、豊かな感性を育むには	復習:　授業内容関するレポート作成
3: 見る力 「見たい！」「見つけたい！」主体的な活動につなげるには	復習:　成果物に関するレポート作成
4: 自然のものを使って室内あそびを考える 指定の素材を使った遊びを考えグループ発表を行う	復習:　成果物に関するレポート作成
5: 小さなものを見るあそび(伝承あそび) 自然の不思議を体験するには	復習:　成果物に関するレポート作成
6: フィールドビンゴあそび(親子レクリ―ション) 仲間と協力しながら自然を体感するには	復習:　成果物に関するレポート作成
7: カモフラージュあそび 生き物に興味を持ち、作品をつくる	復習:　成果物に関するレポート作成。
8:　まとめ	予習:　全7回のレポートを読み直し、自然を使ったあそびを考える
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回、レポートに記入するので、考えたあそびをまとめておくこと
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

感想シート、レポート提出、(50%)　学習の意欲(20%)　発表(30%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

こどもと一緒にあそぶことを意識して授業を進める。長い髪は束ね、アクセサリー類は外すなど、保育者として相応しい服装で授業に取り組むこと
課題へのフィードバックは、課題にコメントを加えて本人に返す

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Bコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
藤田　美雪		履修要件他:			
濱田　尚志		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育教材演習Ⅰで学んだ保育教材の活用方法や技能を、実際に実習現場で実践した結果を持ち寄り、子どもたちの反応や指導された
保育者からの助言、自らの自己評価を各自発表していく中で、さらなる理解と技能の向上を図る。
集団あそびでは、授業を通して幼少期にしていたあそびや知らなかったあそびを体験し、あそびの幅を広げる。
あそびを行うときの注意点もその都度、説明します。

Ⅲ. 学習成果

保育教材演習Ⅰや実習で学んだことを活かしながら新たな教材としての集団あそびを学び、次の実習へ向けて幅広く展開できるようになる。
集団あそびをする時の注意点がわかる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:	オリエンテーション(授業の進め方、自己紹介、役割分担) いろいろな伝承遊び①　ちょちちょちあわわ、ずいずいずっころばし　等	幼少期にしていたあそびについてまとめる。発表するあそびを調べてまとめる(30分程度) 配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。
2:	いろいろな伝承遊び② こんにちは、はしるよきしゃぽっぽ、とおりゃんせ、にんじゃでニン！　等	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。
3:	かくれんぼ、おにごっこ　さんびきのこぶた、ことろおに　等 あそびの個人発表・実演①　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
4:	新聞紙あそび　ボール・輪・刀作り　チャンバラごっこ　等 あそびの個人発表・実演②　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
5:	じゃんけんあそび　げんこつやまのたぬきさん、ダンゴ・くし・皿　等 あそびの個人発表・実演③　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
6:	つくってあそぼう　オセロゲーム、カードめくりゲーム　等 あそびの個人発表・実演④　3～4名	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。
7:	あそびの個人発表・実演⑤　5～6名 まとめ	配布プリントに授業で行ったあそびの補足説明を加筆する。 あそびの個人発表の準備。感想シートの記入・提出。まとめのレポート提出。
8:		
9:		
10:		
11:		
12:		
13:		
14:		
15:		

＊準備学習についての補足説明
準備学習には毎回45分以上かけること
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成プリント配布
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題(感想シート、まとめのレポート)提出　30%　、　あそびの発表内容　30%　、　学習の意欲(授業への参加度)　40%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

①課題に早めに取り組み発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述したりするなど授業に積極的に参加すること。
②提出課題については、提出期限を守ること。提出された「自分の幼少期のあそび」「発表したあそびのプリント」「感想レポート」は
コメントをつけてまとめ、最後に全員に配布します。
③授業の際は、毎回、体操服・体育館シューズ着用。長い髪は束ね、アクセサリー類は外すこと。
④携帯電話・スマートフォンの持込不可。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Cコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
阿久根　千賀子		履修要件他:			
橋本　浩		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技術を高めることを目的とする。
絵本・紙芝居・ストーリーテリングの実践活動から、よりよい「読みきかせ」のスキルと実践力を学ぶ。
グループ活動での「読み手」「聞き手・語り手」の役割を体験することにより、保育現場を想定した実践力を伸ばす。

Ⅲ. 学習成果

学びを実際に教育実習や保育実習で実践する技術を習得することができる。
様々な作品に触れ、絵本、紙芝居の特徴を知り、作品が伝えたい内容が理解できる。
対象とする乳幼児の成長・発達を考慮した絵本、紙芝居の作品選びができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 絵本読みきかせワーク 様々な絵本に触れ、持ち方、めくり方の実践を行う	様々な絵本の種類や形体、つくりについてラーニングシートに記入する。 絵本の"つくり"に応じた持ち方、見せ方の違いを覚えてくる
2: 絵本読みきかせグループワーク・4名程度のグループでの実践 実践のあと、見せ方、読み方についてのグループディスカッションを行う	実践に必要な持ち方、見せ方、読み方についてラーニングシートに記入する 「聞き手」を意識した絵本の音読を実践してくる
3: 絵本と選書についてのグループワーク 発達・年齢を踏まえた選書についてのグループワークとそのいプレゼンテーション	グループワークでの選書内容についてラーニングシートを記入する 対象年齢を意識した絵本選書を実践する
4: 紙芝居ワーク・様々な種類、形体の作品に触れる 紙芝居実演の基本動作についてのグループワーク	紙芝居の特徴を知り、下準備の方法について覚えてくる 紙芝居のより良い持ち方、ぬき方についてラーニングシートに記入する
5: 紙芝居グループワーク・舞台を用いた実践活動 グループでのプレゼンテーション	立ち方・ぬき方及び作品に適した演出方法を覚えてくる 舞台使用の留意点についてラーニングシートに記入する
6: ペーパーシアターワーク・発音、語りについてのグループワーク 受講者1／3による「読みきかせ会」プレゼンテーション	「発音トレーニング」を実践し、明瞭な発音を復習する 「読みきかせ会」を体験し、他者の発表内容及び対応力を記入する
7. 受講者2／3による「読みきかせ会」プレゼンテーション 選書と対象年齢、ねらい、読み語りの技術面からフィードバックを行う	「読みきかせ会」を体験し、他者の発表内容及び対応力を記入す 絵本、紙芝居について「見せ方・読み方・選び方」をラーニングシートに記入する
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回、事前事後学習に30分以上かけること
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成の資料
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

終了時レポート30%　・　授業での学び提出35%　・　発表30%　・　学習の意欲5%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業では"ラーニングシート"を記入し授業内容のまとめ及び次回授業の教材として活用します。
絵本、紙芝居は本学図書館や地域図書館の貸し出しシステムを利用し、下読み等の事前準備が可能です。
また、地域の育児サークル、地域図書館での読みきかせ会等に参加することで体験的理解につながります。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Dコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
柳　幸子		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材について理解を深め、その技能を高めることを目的とする。
乳幼児の発達を考慮し、歌あそび・レクリエーションダンス・わらべうたなどを通して、コミュニケーション力を習得する。
グループワークでそれぞれ役割を持ち、幼児体操を創作及び説明書(図解)を創り上げる、保育現場で保育の展開に繋げていく。

Ⅲ. 学習成果

学びを実際に幼稚園実習や保育実習に展開できるようになる。
乳幼児に関わる様々な方法を身に付け、その際の楽しさや技術を学ぶことができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション　コミュニケーション力についてのノウハウや体験を通して学ぶ。 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを楽しむ。	自己紹介の中で幼いころの歌遊びやレクリエーションダンス、わらべうたを紹介する。 学んだ遊びを記録をとる。
2: 保育教材制作(こぶたぬきつねこ) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。(前回の復習含む)	自己紹介(幼児向け・大人向け)をまとめる。(レポート提出) 制作に必要な物を準備する。(色鉛筆・マーカー・はさみ・のり・定規他)
3: 保育教材制作仕上げ(こぶたぬきつねこ)・実演発表 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。(前回の復習含む)	制作に必要な物を準備する。(色鉛筆・マーカー・はさみ・のり・定規他) 学んだ遊びを確実に覚える。 学んだ遊びを確実に記録を取る。
4: 幼児向け創作体操にチャレンジ(グループワーク①) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
5: 幼児向け創作体操にチャレンジ仕上げ・踊り方作成(グループワーク②) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
6: 幼児向け創作体操発表会及び指導(グループワーク③) 歌あそび、レクリエーションダンス、わらべうた遊びを学ぶ。	各自が積極的に事前に考え、意見を出し合う。
7: 歌あそび、わらべうた指導(個人発表) 学んだ遊びを一人ひとつ、発表し合う。	お互いの発表を見ることで、自分の課題を見つけ参考にする。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
毎回30分以上、事前事後学習を行い次回の内容をきちんと把握しておく。持参品や提出日の厳守。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要な際には、教員作成資料配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習意欲40%　　模擬実演30%　　課題・提出物30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

①授業の際には毎回、マスクを装着し、動きやすい服装。長い髪は束ね、アクセサリー類は安全上、外す。
②課題による提出物はしっかり考え、取り組む。
③創作体操踊り方を冊子にまとめ、全員に配布します。
④実技準備のため毎回、会場設定は全員で行いましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Eコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
山田　裕美子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上で活用する様々な教材についての理解を深め、その技術を高めることを目的とする。
劇あそびの基礎を学び実践していく中で、見通しをもって保育活動を展開していくイメージが持てる保育者を目指す。

Ⅲ. 学習成果

役になりきって表現する楽しさを知り、子どもたちと楽しさを共有しながら劇あそびが展開できるようになる。
劇あそびを通して子どもの創意工夫を引き出す技術を身に付ける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション　自己紹介　劇あそびのねらいについて	復習:劇あそびについてまとめる(レポート)
2: 年齢別劇あそびの紹介、実践	予習:各年齢(0～6歳)の発達段階を把握しておく
3: 絵本を題材とした劇あそび作り(グループワーク)	予習:絵本探し、選んだ理由についてまとめる(レポート) 復習:グループワークでの自分の役割について(レポート)
4: 絵本を題材とした劇あそびのグループ発表	予習:劇あそびへの導入について考えておく 復習:劇あそびの発表を経験した感想や気付きをまとめる(レポート)
5: オリジナル劇あそびについて	予習:幼児期や学童期に発表した劇や観劇についてまとめる(レポート)
6: オリジナル劇あそび作り(グループワーク)	予習:台本作成
7: オリジナル劇あそびのグループ発表	予習:準備、練習、必要であれば小道具作り 復習:授業の振り返り、感想など(レポート)
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
準備学習の内容によっては、グループワークになる場合もあります。詳細は授業内で説明します。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要な際には教員作成資料を配布。参考図書はその都度紹介します。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題(レポート)提出　40%　　発表　30%　　学習意欲　30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業の際は、保育者として相応しく動きやすい服装で参加してください。
課題(レポート)に対するフィードバックは、コメントをつけて返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Fコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
相賀　貴子		履修要件他:			
黒木　知美		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務家教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育教材演習Ⅰで学んだ保育教材の活用方法や技能を、実際に実習現場で実践した結果を持ち帰り、子どもたちの反応や指導された保育者からの助言、自らの自己評価を各自発表していく中で、さらなる理解と技能の向上を図る。
その中でも柔らかな素材(フェルト、毛糸等)、身近で手に入れることのできる物(軍手、はぎれ等)を使って、3つの教材を作る。

Ⅲ. 学習成果

保育教材演習Ⅰや実習で学んだことを活かしながら新たな保育の教材を学び、次の実習へ向けて幅広く展開できるようになることを目指す。
創意工夫を凝らし作成した教材を、様々な方法で活用する力を身につける。
子どもの前に立つときは自信をもって演じること。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:フェルトをつかってつくろう 指人形	自分の裁縫技術を再確認してくる。その中で自分の技術の足りない部分を練習する。(例えば、玉止め・玉結び等)
2:軍手シアターをつくろう　①パーツ(人形等)をつくる	題材となるお話、歌などを覚えてくる。 つくる上で、工夫したい箇所を確認してくる。
3:軍手シアターをつくろう　②土台(軍手)をつくる ・お互いの作品を見ながら演じたり、コメントしあう	出来上がった教材を練習してくる。 みんなの前で演じてみる。
4:軍手をつかってつくろう　①顔のかたちを縫う、首くだをつくる オリジナルの腕人形	何(人・動物)をつくるか、絵本等を見て決めてくる。
5:軍手をつかってつくろう　②顔を仕上げる(パーツを縫う) オリジナルの腕人形	どのような顔・頭の形にしたら、自分の考えている作品に近づくか工夫してくる。
6:軍手をつかってつくろう　③洋服をつくる オリジナルの腕人形	服となる素材を探し、準備してくる。 発表にむけて、練習してくる。
7:軍手をつかってつくろう　④顔に洋服をつけ、仕上げる オリジナルの腕人形　・個人作品発表会及び総合コメント	発表をみて、次の自分の課題を考える。 今後、どのような場面で活用させるのか等。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
作った教材をお話や歌などで保育展開できるよう、毎回事前・事後学習に1時間程度取り組んでください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員作成資料を配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出(80%)　学習の意欲(10%)　発表、作品紹介(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業時間内に作品を完成させるためには、忘れ物がないようにしてください。
各自で準備をしないといけないものは、事前に授業の中でお知らせします。
作品に対するコメントは随時行います。またお互いの完成した作品については、コメント(良い点、改善点等)を出し合い学びを深めます。
長く使える教材に仕上げましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Gコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
林　美波		履修要件他:			
姫島　源太郎		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育教材演習Ⅰで学んだ保育教材の活用方法や技能を、実際に実習現場で実践した結果を持ち帰り、子どもたちの反応や指導された保育者からの助言、自らの自己評価を各自発表していく中で、さらなる理解と技能の向上を図る。
お話や歌などをエプロンシアターとして作成し、子どもの姿を想定した演じ方を考える。

Ⅲ. 学習成果

保育教材演習Ⅰや実習で学んだことを活かしながら新たな保育の教材を学び、次の実習へ向けて幅広く展開できるようになる。
創意工夫を凝らし作成した教材を、様々な方法で活用する力を身につける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション 土台作成	作りたい作品(お話、歌、手遊び、クイズなど)を決める
2:作品作り:各自、一点、エプロンシアターを作成 作品の型紙を作成する	作品のストーリーや設定をまとめる 作品のデザインを考える
3:エプロンシアターの登場人物(3つ以上の人形)を作成する① 材料を揃え、パーツを切る	作りたいものに適した作品の材料を選択する
4:エプロンシアターの登場人物(3つ以上の人形)を作成する② 縫い合わせる、貼りつける	作成した人形の動かし方を考える
5:エプロンに背景(舞台)を作成する	人形の色合い等を考慮した背景のデザインを考える
6:作品(エプロンシアター)を仕上げる	導入、話の展開等を考え、演じ方のポイントを確認して、練習する
7:各自の作品発表会、まとめ	子どもの姿を想定した演じ方を更に工夫し練習する 今後の課題について考え、レポートにまとめる
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回1時間程度行うこと。内容については毎回の授業で詳しく説明します。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
教員作成資料を配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出(50%)、発表(30%)、学習の意欲(10%)、レポート(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

裁縫道具を毎回持参しましょう。
作品は、発表会で互いにコメント(作品作成、発表の良い点、改善点)を出し合い、学びを深めます。
まとめレポートは、コメントをつけて返却します。
エプロンシアターの演じ方や応用力を身に付けていきましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Hコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
梅田　美穂		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

学びを実際の幼稚園実習や、保育実習で展開できるようになることを目指す。
創意工夫を凝らして作製した保育教材を、保育実践の場で活用し、工夫しながら演じることができることを目的としている。

Ⅲ. 学習成果

保育実習・教育実習で実践できる作品を作り上げる。
子どもの姿を想定しながら、工夫して演じることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション パネルシアターを知る。作る手順を知る。	パネルシアターについて調べておく パネルシアターについてインターネットで検索し、イメージしておく
2:作る作品を決める 下絵を描く	作りたい作品を考えておく 下絵の構想を考える
3:作品作り 下絵を描く。絵具で色を塗る。	下絵を完成させておく 絵具の色を考える
4:作品作り 作品のふちを描く	色付けを完成させておく パネルの材料を準備しておく
5:パネルづくり	作品の縁取りまで完成させておく パネルの材料を準備しておく
6:演じ方の練習	演じる時の注意点をまとめておく
7:作品鑑賞会 授業の振り返り	演じる練習をする 今後の課題について考える
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
授業時間内に各回の課題が終わらなかった時には、次の授業までに終わらせておくこと。毎回、30分以上の自宅学習が必要である。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員配布資料
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省(フレーベル館)、「保育所保育指針解説書」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

作品提出 50%、学習の意欲・作品発表　50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

パネル台を制作する為に、材料費が1500円程度かかります。
課題のフィードバックは、コメントをつけて本人に返します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Iコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
杉森　映徳		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務家教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育教材演習Ⅰで学んだ保育教材の活用方法や技能を実際に実習現場で実践した結果を持ち寄り、子供たちの反応や指導された保育者からの助言、自らの自己評価を各自発表していく中で、更なる理解と技能の向上を図る。
児童・幼児の造形活動の指導に必要な基礎技能を実際に保育に利用できる「おもちゃ」の制作を通して学習し、保育者としての資質の向上を図る。

Ⅲ. 学習成果

保育教材演習Ⅰや実習で学んだことを活かしながら新たな保育の教材を学び、次の実習へ向けて幅広く展開出来る様になることを目指す。
学んだ知識・技能等を実際に幼稚園実習、保育実習を含め、保育現場で幼児の援助・指導方法にどの様に応用していくかを習得する。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 動く絵（回転しながら絵が変化する平面）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
2: 剣玉（紙コップを使った玉入れ）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
3: びっくり箱（ビニール袋に描いた絵が空気を利用して飛び出す）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
4: マラカス（ビー玉等を使ったガラガラ）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
5: 動く工作（紙の変化を利用した立体）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
6: 動く工作（紙の変化を利用した立体）	作品の下絵を考える。 作品の制作工程をまとめ、現場でどの様に活かすか指導案を考える。
7: 作品の作り方レポート	全ての作品の制作工程を図等を入れながら分かり易く解説する。 完成作品を自己評価し、技法等の応用、展開を考える。
8:	
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
授業では制作時間が限られている為、30分以上の自宅学習が必要である。 作品を必ず授業中に提出。 詳細については授業中に行う。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領
保育所保育指針
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

提出作品 （80%） レポート （10%） 学習の意欲 （10%）

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要。
遅刻・欠席をしない。
提出した課題は、参考資料として、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育教材演習Ⅱ Jコース	CH04121	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
八尋　理恵		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育教材演習Ⅰで学んだ保育教材の活用方法や技能を、実際に実習現場で実践した結果を持ち帰り、子どもたちの反応や指導された保育者からの助言、自らの自己評価を各自発表していく中で、さらなる理解と技能の向上を図る。

Ⅲ. 学習成果

1. ペープサートの楽しさを子どもたちと共有し、製作する。
2. それぞれ独自の作品を製作できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 手遊び、指あそび、わらべうたをやってみる 実際にペープサートを動かしてみる	実習の時に覚えた物を出しあう ペープサートを動かして皆の前で演じる
2: 手遊び、指あそび、わらべうたのやり方の工夫 簡単なペープサートの製作	子どもたちと独自の手遊び等をつくる 子どもたちの発達段階に応じた作品作り
3: ペープサートの特性を知り、製作	ペープサートの製作の仕方を覚える
4: 製作したペープサートの実演をし、講評しあう	子どもたちと作る時の注意点を考慮する 演じ方の工夫
5: グループで1つの作品を製作①	グループで物語等創作する 脚本・登場人物等内容を考えて製作する
6: グループで1つの作品を製作② 完成した作品を使ってグループ発表の準備	製作した作品をよりよく演じる工夫をする
7: グループで作品発表	他グループの作品を見てお互いを評価し、より良い作品の製作に繋げる
8: まとめ	実践に生かしていくためのやり方を学ぶ
9:	
10:	
11:	
12:	
13:	
14:	
15:	

＊準備学習についての補足説明
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

資料を作成し配布する。 参考図書は、その都度紹介する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

製作物の独自性とより良い作品を作ろうという意欲がみられる(40%) 模擬実演(30%) ミニレポート(20%) 受講態度(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・製作物の評価等コメントをつけて返却します。
・子どもたちの発達等実習時によく観察しておいてください。
・製作のための道具(のり、ハサミ、色えんぴつ等)を忘れないこと。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
子ども家庭支援の心理学	CH05104	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
姫島　源太郎		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育者が子どもを支援するにあたっては、その背景にいる家族全体を支援するという姿勢が不可欠である。そのためには生涯発達の視点と家族・家庭の機能を理解するという視点を持ち、子どもとその家族を包括的に捉えることができなければならない。子ども家庭支援の心理学では、まず生涯発達の考え方を身につけ、愛着関係の構築、家族環境の重要さを学ぶ。その際、子どもの視点からだけではなく、家庭を築く際の親としての育ち、さらにはそれを取り巻く社会全体の課題も含めて理解を行う。

Ⅲ. 学習成果

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解できる
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する
3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 子ども支援と家庭全体を理解することの関連と意義 :子どもにとって家族とは何か、保育者の支援対象について	保育者の支援対象が乳幼児だけではなく保護者や施設に入所する学童期以上であるのはなぜか、考えてまとめておく
2: 生涯発達の理論(1) :乳幼児から学童期にかけての発達と発達課題(プレゼンテーション)	乳幼児期の発達について、発達心理学Ⅰで学んだことをまとめ、発表できるようにしておく
3: 生涯発達の理論(2) :青年期から老年期にかけての発達と発達課題(プレゼンテーション)	各段階の発達課題と、その段階特有の行動がどのように関連しているか、子どもたちの具体的な行動と関連づける
4: 初期経験の重要性と愛着(1)、小テスト :前単元の小テスト、母子相互作用の起こり(ディスカッションと発表)	前単元の復習をしてくる
5: 初期経験の重要性と愛着(2) :愛着理論の発展	愛着関係の構築がその後の人格発達にどのような影響をおよぼすか、学んだことをまとめる(事後学習)
6: 初期経験の重要性と愛着(3) :内的作業モデルの形成、分離一個体化	愛着関係が内在化するとはどういうことか、子どもの行動の特徴と照らし合わせて理解する
7: 青年期の発達課題と心理の理解(1)、小テスト :前単元の小テスト、自己概念とは何か	前単元の復習をしてくる
8: 青年期の発達課題と心理の理解(2) :青年期の自己概念とそれに影響を与える他者の存在	青年期の自己概念と他者の影響について、動画課題を見て理解し、レポートにまとめる
9: 青年期の発達課題と心理の理解(3) :友人関係の発達、アイデンティティの形成	青年期の友人関係特有の難しさについて、自分の経験をふまえ発表できるようにしておく
10: 青年期の発達課題と心理の理解(4) :性同一性について	LGBTやGIDに関する社会的な要請と幼稚園・保育園・施設で行われている対策について、調べてきてまとめる
11: 家族・家庭の理解(1)、小テスト :前単元の小テスト、家族の発達	親世代の発達課題とは何か、自分の考えをまとめてくる 前単元の復習をしてくる
12: 家族・家庭の理解(2) :ライフコースと仕事・子育て(ディスカッションと発表)、不適切な養育	親世代の発達課題をふまえ、子育ての中でその課題がどう解決されていくのか、自分の考えをまとめる(事後学習)
13: 家族・家庭の理解(3) :虐待が生じる家庭を理解する(レポート)	虐待が生じてしまう家庭では何が起こっているのか、親の語りから理解し、レポートにまとめる
14: 家族・家庭の理解(4) :ジェノグラム、家族療法的理解	家族を見立てるためのジェノグラムについて理解し、サンプルとなる家庭のジェノグラムを書く練習をする
15: 家族・家庭の理解(5)、小テスト :小テスト、健康の社会的決定要因(ディスカッションと発表)、まとめ	「家族・家庭の理解」の復習 (小テストを実施)

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。特に小テストの前は十分に復習すること。内容の詳細は毎回の授業で説明します
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(到達目標1－3 の観点から出題)50%
小テストもしくは小レポートの提出25%　学習の意欲25%
たびかさなる私語、授業中の携帯電話の使用は「学習の意欲」に欠けるものとみなします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

小テストは自己採点後提出し、教員が確認してフィードバックします
小レポートや授業中に取り組む課題については、抜粋し教員が全体にフィードバックします
google classroomを使用した課題の提出、小テストの復習用教材の提供を行います

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
子どもの食と栄養Ⅱ	CH06104	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
山田　貴美枝		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

特別な配慮を要する子どもへの対応や支援方法を実践的に学び、保育の現場で給食や間食を安全に提供するための
食品の選択方法などについての理解を深める。
また、食育の基本と内容・食育のための環境づくり、保護者や地域の子育て家庭への支援の必要性についても具体的に学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

○特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての理解を深め、適切な支援をすることができる
○保護者の食の悩みを理解し、保育者として具体的な支援をすることができる
○食育の必要性や取り組みを理解し、食育のための環境について関心を高めるとともに、保育現場で活かすことができる
○保育者として食の楽しさ、大切さを伝えることができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容		準備学習(予習・復習)内容
1:幼児期の発育・発達と食生活 発育・発達の特徴		第1回～第15回までの準備学習については補足説明を参照する 子どもの好きな食品や料理の特徴をシートに200字以上にまとめる
2:※間食の意義とその実践 ①到達度確認小テスト 幼児期の栄養の問題と保育者としての対応	①到達度確認小テスト	赤ちゃんせんべい等市販されているおやつの特徴を調べグループ間で共有 テキストP80～81の間食の役割、与え方についてシートに整理する
3:※弁当と衛生管理、誤嚥と窒息事故 弁当箱・教材の活用と実践	②到達度確認小テスト	消費者庁の新着情報から誤嚥と窒息事故防止のための注意点を整理する テキストP83の食べにくい食品の特徴や工夫をシートに整理する
4:幼児期の栄養の問題と保育者としての対応 悩みの考え方とその対応	③到達度確認小テスト	PPTスライドで幼児食の進め方と調理のコツ・食べ方の支援を整理する テキストP84～86の子どもの食事で困っていることをシートに整理する
5:※幼児期の栄養の問題と保育者としての対応 偏食する、かまない、丸のみする		PPTスライドと合わせて“かめるおロを育てる”ための食支援の要点を整理する
6:学童期・思春期の発育・発達と食生活 食生活の実態と学校給食		今まで経験した給食の内容や食育の思い出を整理し情報交換をする
7:生涯発達と食生活 成人期、高齢期の健康上の課題と対策		テキストの指定する範囲をシートに整理する
8:食育の基本と内容 『保育所保育指針』における食育		テキストP122の表の食育の養護的・教育的側面をシートに整理する
9:※食育のための環境づくり、保護者支援、地域支援 地域における子育て支援活動(食育プログラムの実践例)		PPTスライドと資料で食育事例についての学びを深め整理する 行事食について調べてシートに整理しグループ間で共有する
10:家庭や児童福祉施設における食事と栄養 保育所における給食の進め方と保護者との連携		テキストP137の給食の衛生管理についてシートに整理する
11:※特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、疾患の子どもへの対応		資料のホームケアのポイントについてシートに整理する 市販の経口補水液について調べてシートに整理しグループ間で共有する
12:特別な配慮を要する子どもの食と栄養 障がいのある子どもへの対応		環境整備、食事の姿勢、食物の形態についてシートに整理する
13:アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 食物アレルギーの基礎知識	④到達度確認小テスト	PPTスライドと資料で食物アレルギー対応の知識と理解を深める テキストP163～P165の食物除去の考え方をシートに整理する
14:保育所での食物アレルギー対応 給食および給食以外での対応		PPTスライドと資料で新規発症を防ぐ対応についてシートに整理する テキストP166～P167の給食での対応についてシートに整理する
15:重要事項の整理 食育　楽しく食べるためのサポート	⑤到達度確認小テスト	重要事項の振り返りと確認

＊準備学習についての補足説明

事前学習(予習)は内容にそった資料を配付。テキストの指定範囲の不明なところは調べてから受講のこと。詳細は毎回ごとに授業内でアナウンスする。事後学習(復習)はシートを活用し空欄のままにせず記述内容の確認する。(予習・復習に要する時間は各回1時間以上、計画を立て意欲的に取り組む)単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書　(テキスト)「子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本」編著太田百合子，堤 ちはる/羊土社

「子どもの食生活(第6版)-栄養・食育・保育ー」編著上田玲子/ななみ書房 「発育期の子どもの食生活と栄養」/学建書院「イラスト子どもの食と栄養」/東京教学社
「子育て・子育ちを支援する子どもの食と栄養」編著堤ちはる,土井正子/萌文書林 「子どもの食と栄養(改訂第2版)」編集・執筆児玉浩子/中山書店
「保育所保育指針」「保育所における食事の提供ガイドライン」 「新 食物アレルギーガイドブック」監修海老澤元宏，林 典子/メイト

Ⅵ. 評価方法と評価基準

◉単位認定試験(50%)、
◉提出物の演習シートおよび課題シートはテーマの要点、内容、取り組む姿勢などを加味して総合的に評価する(40%)
◉学習意欲、積極的な発表姿勢、受講態度等(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

※印はアクティブ・ラーニングの手法を用いた演習・実習である。目的を理解し積極的に参加すること
◉質問等は授業前後・昼休みに、提出物は評価後返却、必要に応じて授業内でコメントの提示や学生間で学びの共有をし、往還的理解を深める
◉返却後の提出物・資料等はすべてA4ファイルに綴じ、いつでも活用できるようにしておくこと
◉日頃から“食”にまつわる情報を収集し関心を高めるとともに、自分自身の望ましい食生活を心がけること
◉到達度確認のための小テストの実施(授業内で、指定する範囲や取り組み方を説明)

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育内容Ⅲ(環境)	CH07104	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
寺地　亜衣子		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容を理解する。
・子どもの育ちと環境の関わりについて具体的に学び、保育実践への基礎を築く。

Ⅲ. 学習成果

・身近な環境に興味を持ち関わる中で、環境を捉える視点や感性を豊かにする。
・保育者として環境に対する意識を高める。
・子どもの育ちと環境の関わりについて理解し、子どもの育ちを支える保育の環境について考えられるようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション 領域「環境」について	三法令の領域「環境」について読み、ノートに書き出し整理する。
2: 身近な環境 ・自然環境と子どもの関わりについて(フィールドワーク)	大学内の自然環境と、子どもの身近な環境について考え、 レポートを作成する。
3: ・子どもと身近な動植物とのかかわり ・栽培活動 (グループワーク)	秋から冬にかけて飼育、観察できる生き物や、栽培できる植物を 調べ、レポートを作成する。
4: 保育における行事(グループワーク、プレゼンテーション)	地域の文化や伝統について調べ、保育と行事について考え レポートを作成する。
5: 子どもの遊びと環境 ・物的環境について	保育における物的環境についてレポートを作成する。
6: ・人的環境について	保育における人的環境についてレポートを作成する。
7: 園内の環境について考える ・保育室、園内の環境(グループワーク、プレゼンテーション)	保育室や園内の環境について考察し、レポートを作成する。
8: ・園庭、地域の環境(グループワーク、プレゼンテーション)	地域の公共施設を見学し、レポートを作成する。
9: 子どもの発達と環境 ・乳児の保育、1歳以上3歳未満児の保育	保育所保育指針解説の第2章を読み、大切だと思う事柄について ノートにまとめる。
10: ・3歳以上児の保育	幼稚園教育要領、保育所保育指針の該当箇所を読み、大切だと 思う事柄についてノートにまとめる。
11: 身近な環境にかかわる保育実践 ・屋外での遊び(1)	園庭での遊びを調べ、レポートを作成する。
12: ・屋外での遊び(2)(グループワーク・模擬保育)	園庭での遊びについて部分案を作成する。
13: 身近な環境にかかわる保育実践 ・屋内での遊び(1)(グループワーク・児童文化教材の作成)	屋内での遊びを考え、レポートを作成する。
14: ・屋内での遊び(2)	作成した児童文化教材を使った部分案を作成する。
15: まとめ	この授業で学んだことや考えたことをまとめ、レポートを作成する。

＊準備学習についての補足説明
各回、60分程度の授業準備や課題に取り組む時間を必要とする。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「幼稚園教育要領解説」文部科学省(フレーベル館)
「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

事前学習、レポート課題　40%　学習意欲　15%　学習ポートフォリオ　45%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・日頃から身近な環境に目を向け、子どもや保育と関連付けて考えるようにすること。
・グループ活動では、各自が責任を持って取り組むこと。
・課題の提示、作成、提出にあたってはGoogleClassroomを活用し、クラウド上で共有することもある。授業内での共有や課題へのコメントにてフィードバックを行う。
「実務経験教員科目」特記事項:・保育士経験有。実践事例の紹介や写真を通して、保育現場がより身近に感じられるように講義を行う。
また、実際に保育現場で行う活動や遊びを体験しながら、領域「環境」についての学びを深めていけるよう工夫する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
保育内容Ⅳ（言葉）	CH07105	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など 履修要件他:	幼稚園2種必修 保育士必修		
橋本　浩		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

「言葉は人としての証し」とはよく言われる。子どもはいかにして言葉を獲得し人間らしくなるのか、そのためにはどのような援助が必要とされるのか。また、適切な援助とはどのようなものであるのか。こうしたテーマについて、講義や演習、対話や討議・討論などにより考察を深め、実践的な力の基盤をつくる。

Ⅲ. 学習成果

1、子どもの言動（言葉や動き）について理解を深めることができる。
2、子どもの言葉の発達について理解し、言葉の発達段階に応じた保育者の適切な援助について考え、実践できる力を養うことができる。
3、保育者の言動の子どもに及ぼす影響について認識を深め、保育者としての言動やその在り方について認識を深めることができる。
4、保育者として、①豊かな言葉、豊かな世界の持ち主となることができる。 ②正しく美しい言葉で話す力、書く力を身につけることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1　オリエンテーション　講義 序章　乳幼児の豊かな言葉が育つための領域	課題1、予め教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習1、国語常識・国語教養　小テスト第一回範囲
2: 第一章　乳児期の言葉の発達過程　講義・ポイント協議 ①言葉の発達過程　②乳児期の保育における配慮	課題2、予め教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習2、国語常識・国語教養　小テスト第二回範囲
3: 第二章　幼児期の言葉の発達過程　講義・ポイント協議 ①乳幼児期から幼児期へ　②個と集団　③仲間関係と言葉	課題3、教科書35Pの演習問題を行う。 予習3、国語常識・国語教養　小テスト第三回範囲
4: 講義・演習協議 ④言葉と思考表現　⑤言葉の楽しさや美しさ　⑥幼児期と児童文化財	課題4、予め教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習4、国語常識・国語教養　小テスト第四回範囲
5: 第三章　幼児期から児童期の言葉　講義・ポイント協議 ①接続期と言葉　②言葉による伝え合い　③言葉に関する家庭との連携	課題5、予め教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習5、国語常識・国語教養　小テスト第五回範囲
6: 第四章　保育者の専門性と言葉　講義・ポイント協議 ①保育者の役割　②保育者の援助　③保育を語る言葉	課題6、教科書69Pの演習問題を行う。 予習6、国語常識・国語教養　小テスト第六回範囲
7: 第五章　保育環境と言葉　講義・演習協議 ①保育環境　②文字環境　③児童文化財（演習）　④指導計画と評価	課題7、予め教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習7、国語常識・国語教養　小テスト第七回範囲
8　第六章　遊びと生活のなかの言葉　講義・ポイント協議 ①様々な遊びと言葉　②言葉のリズムや響き・言葉遊び　③カルタ	課題8、カルタの種類について調べる。 予習8、国語常識・国語教養　小テスト第八回範囲
9　カルタつくり(1)　班別カルタ作成 保育内容「環境」と教科間連携。「言葉」では、読み札の文言を作成	課題9、カルタ作成と作成意図やねらいについてまとめる。 予習9、国語常識・国語教養　小テスト第九回範囲
10　カルタつくり(2)　班別カルタ作成・発表・協議 班ごとに作成したカルタのねらいや工夫事項等について発表・協議を行う	課題10、次回教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 予習10、国語常識・国語教養　小テスト第十回範囲
11: 第七章　言葉の問題と援助　講義・ポイント協議 ①領域「言葉」や園生活適応のための配慮や支援について	課題11、教科書120Pの演習問題を行う。 予習11、国語常識・国語教養　小テスト第十一回範囲
12: 講義・演習協議 ②個別の支援・指導計画　③家庭・地域・関係機関との連携	課題12、指導案作成（カルタ遊び） 予習12、国語常識・国語教養　小テスト第十二回範囲
13: 第八章　保育計画と評価　講義・演習協議・指導案協議 ①言葉の環境と活動　②全体的な計画　③指導案作成（課題の修正）	課題13、次回教科書の該当箇所を読みポイントをおさえる。 復習13　指導案完成（提出）
14: 講義・ポイント協議 ④主体的・対話的で深い学び　⑤家庭との連携	課題14、次回教科書の該当箇所にある事例についてまとめる。
15: 第九章　保育・幼児教育の現代的課題と領域　課題発表、講義 まとめ	これまでの振り返り。（これまでの学習資料持参）

＊準備学習についての補足説明
○国語常識・国語教養小テストの予習、課題については「Ⅶ. その他」に記載のとおり。しっかり取り組むこと。○事前学習は毎回45分以上行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

○「保育内容　言葉」（秋田喜代美・野口隆子　編著　光生館）
○幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
○補充テキスト（授業者作成プリント）　○補充資料「国語常識・国語教養」（プリント）

Ⅵ. 評価方法と評価基準

1、単位認定試験（55%）
2、学習の意欲（15%）　3、小テスト・発表・課題への取組み（30%）

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

○課題については指示された教科書の箇所を読みポイントをまとめておくこと。それについては授業始めに発表や協議を行い、学びの共有を図るとともに、学習意欲を喚起する。
○国語常識・国語教養小テスト（指定範囲）を毎時間実施する。このための予習を前日までに指定原稿用紙に書き提出すること。
○フィードバックについては課題・予習の点検・解説等を実施する。また発表等においては担当者によるコメントの他、学生間相互評価も取り入れる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
音楽Ⅱ	CH08102	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
黒木　知美　他		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

音楽Ⅰで習得した知識・技術をもとに、さらに技術や表現力の向上を目指す。
授業は音楽Ⅰと同様に、週2コマ行なわれ、ピアノ実技(個人指導)と声楽(集団授業)で構成される。
ピアノは最低でもバイエル終了が単位修得の条件の1つとなる。

Ⅲ. 学習成果

・楽譜を正しく音に表現できる力を養う
・正しい音程で歌うことのできる呼吸法・発声法を身につける。また歌唱の楽しさの理解を深める。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:(声楽)　オリエンテーション 2:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	シラバスに目を通しておく 課題曲の中から自分で選択し、3～5曲練習しておく
3:(声楽)　園生活のうた 4:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	授業で行なった呼吸法・発声法を意識しながら試しておくこと 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
5:(声楽)　行事のうた 6:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
7:(声楽)　季節のうた① 8:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
9:(声楽)　季節のうた② 10:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
11:(声楽)　季節のうた③ 12:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
13:(声楽)　季節のうた④ 14:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
15:(声楽)　季節のうた⑤ 16:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
17:(声楽)　季節のうた⑥ 18:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
19:(声楽)　いろいろな子どものうた① 20:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
21:(声楽)　いろいろな子どものうた② 22:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
23:(声楽)　いろいろな子どものうた③ 24:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
25:(声楽)　いろいろな子どものうた④ 26:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
27:(声楽)　いろいろな子どものうた⑤ 28:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	指定された曲を音程やリズムに気をつけながら譜読みしておく 前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておく
29:(声楽)　まとめ 30:(ピアノ)個別の進度に応じた個人レッスン	これまでの振り返りをし、試験の準備をする 試験の課題曲・自由曲を練習しておく

＊準備学習についての補足説明
日頃の個人練習の積み重ねが重要です。毎日欠かさず最低でも初心者は120分/日、経験者は90分/日、練習(学習)してください。
練習は、1号館6階の練習室を使用してよいが、時間その他、決められたルールに従うこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「こどものうた200」「続こどものうた200」(小林美実編・チャイルド本社)
「ピアノテキスト　楽典・身体表現付」(カワイ出版)、必要に応じてプリント配布
ピアノ個人レッスン…進度に応じて指定する(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネ・ソナタ等)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実技試験及び筆記試験(80%)、自宅学習の取り組み【チェックシート】(15%)、学習意欲(5%)
出席については、ピアノ15回、声楽15回のそれぞれ75%以上で受験資格を与える

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業理解に対するフィードバックを行なう。
レッスン中は他学生の演奏も聴き、時にはディスカッションしながらお互いに学びあうこと。
爪は切り、必要な楽譜、資料、5線ノート等の忘れないように準備すること。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	1年
図画工作Ⅱ	CH08106	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
杉森　映徳		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

児童・幼児の造形活動の指導に必要な基礎技能を理論と実際の両面より学習し、保育者としての資質の向上をはかり、
美術教育が全人教育の一環として重要であることを知らせ、現代幼児教育の動向に関心を持たせる。

Ⅲ. 学習成果

図画工作Ⅰで学んだ知識・技能等を現場で幼児の援助・指導方法にどの様に応用していくかを習得する。
造形、図画工作に使用する各種の教材を使って学び、それらを応用しながら自らの発展性を深め、幼児の制作過程での援助、指導方法を学ぶ。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 授業内容説明	授業内容を理解する。
2: 色遊びⅠ 「はみ出す絵画技法」 色鉛筆、水彩絵の具を用いて画面の枠に捕らわれない表現を学ぶ。	制作作品の制作の「ねらい」を考える。 色鉛筆、水彩絵の具の特性、着色法等について調べる。
3: 色遊びⅡ 「型取り絵画技法」① 円、三角形、四角形等の形を切り取り、形を構成し型紙を制作する。	制作作品の制作の「ねらい」を考える。
4: 色遊びⅡ 「型取り絵画技法」② 制作した型紙を使用して、スタンピング技法を用いて着彩し、形と色彩について学ぶ。	作品のアイディアを出し、イメージドローイング(下絵制作)を行う。 完成作品のプレゼンテーションを行う。
5: 色遊びⅢ 「型抜き絵画技法」① テーマに沿って下絵を描き、下絵の形を切り抜き型紙を制作する。	制作作品の制作の「ねらい」を考える。
6: :色遊びⅢ 「型抜き絵画技法」② 制作した型紙を使用して、ステンシル技法による着彩方法を学ぶ。	作品のアイディアを出し、イメージドローイング(下絵制作)を行う。 完成作品のプレゼンテーションを行う。
7: 造形遊び 「ペーパークラフト(クリスマスツリー制作)」① 画用紙を使用し、ツリーのパーツを切り出す。	参考作品を調査し、ペーパークラフトについての知識を深める。
8: 造形遊び 「ペーパークラフト(クリスマスツリー制作)」② 切り出したパーツを組み合わせ、立体造形について学ぶ。	作品のアイディアを出し、イメージドローイングを行う。
9: 造形遊び 「ペーパークラフト(クリスマスツリー制作)」③ クリスマスツリーに着彩、デコレーションし立体作品への着色法を学ぶ。	作品の質を高める工夫を考え、必要な材料等を準備する。 完成作品のプレゼンテーションを行う。
10: 教材研究Ⅰ 「紙版画による表現」① 画用紙、段ボール紙、紐等を使用し、版を制作する。	参考作品を調査し、紙版画についての知識を深める。
11: 教材研究Ⅰ 「紙版画による表現」② 水彩絵の具を用い、多色刷りによる色彩表現について学ぶ	作品の質を高める工夫を考え、必要な材料等を準備する。
12:教材研究Ⅱ 「グループワーク」① グループ(4～5名)を作り、保育現場の実践的なテーマによる作品制作を行う。	制作作品の制作の「ねらい」を考える。
13:教材研究Ⅱ 「グループワーク」② グループ(4～5名)を作り、保育現場の実践的なテーマによる作品制作を行う。	作品のアイディアを出し、イメージドローイング(下絵制作)を行う。
14:教材研究Ⅱ 「グループワーク」③ グループ毎に創作作品についての発表を行い、成果、課題等を全体で共有する。	保育現場に於いて、より実践的な作品とする工夫を考える。 完成作品のプレゼンテーションを行う。
15: まとめ　作品講評 作品の講評を参考に、制作した作品の自己評価を行う。	作品の講評を参考に、制作した作品の自己評価を行う。 授業内容、制作工程を写真と併せてまとめ保育現場用の資料とする。

＊準備学習についての補足説明
保育現場では様々な知識が必要となる為、参考資料を事前に準備する。制作作品については、指定された条件で実施が可能かどうか必ず自己検証すること。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

資料プリント等を適宜配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

提出作品（８０％），レポート（１５％），学習の意欲（５％）

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要。
遅刻・欠席をしない。
提出した課題は、参考資料として、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

総　合　演　習

教　養　科　目

２　　年

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
総合演習Ⅲ	CH01103	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など 履修要件他:			
専任教員		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

この科目は、教養・専門教科外の学習活動を、学訓を基に体系的に編成したものである。本学学生としての帰属意識を持つとともに、卒業後の社会人としての一般常識(心構えや基礎的マナーなど)を身につけることを目的としている。また、保育者としての職業意識の形成を図り、保育者としての資質の向上の基礎を培うことを目的としている。

Ⅲ. 学習成果

・社会人としての心構えや基礎的なマナーなどが身につく。
・様々な学習会や交流会に主体的に参加し、人間関係力(メンバーシップ、リーダーシップ)、コミュニケーション能力、企画運営力などを持つ。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う ガイダンスの内容を整理する
2: 基礎講座 Ⅲ ・就職ガイダンス	履歴書の書き方について予め資料を読む ガイダンスの内容を整理する
3: 基礎講座 Ⅲ ・就職ガイダンス	履歴書を記入する 履歴書を完成させる
4: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う
5: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な課題・準備を行う
6: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う
7: 基礎講座 Ⅲ ・OG 懇談会	OGに対する質問事項をあらめてまとめておく
8: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う
9 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	前期の授業中間振り返りとして履修カルテを記入する 履歴書を記入する
10: 基礎講座 Ⅲ ・専門教育にかかる催し	終了後学びのレポートを提出する
11: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う
12: 基礎講座 Ⅲ ・就職説明会	就職活動に必要な準備を再確認する 就職活動時に行う質問事項を考える
13: 基礎講座 Ⅲ ・マナー講座	学んだ内容をまとめる
14: 基礎講座 Ⅲ ・クラスミーティング	必要な準備を行う
15: 基礎講座 Ⅲ ・まとめ	前期の授業振り返りとして履修カルテを記入する

＊準備学習についての補足説明
毎回の内容を各自でノートに記述し、資料と共にファイルに綴じ、まとめていくこと。課題は、資料・参考図書を参考にしながら取り組むこと(時間厳守)。課題は30分以上かけて行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

就職支援ガイドブック。シラバス。その他、各回必要に応じて資料の配布、参考図書の紹介を行う。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

授業への参加状況・取り組み(学習の意欲)70%、レポートなどの課題提出30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題で取り組んだ内容の発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述したりするなど、授業や活動に主体的に参加すること。
また、授業以外でも、個人面談を実施する。
提出されたレポートは返却する。良いものは全体で紹介することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
総合演習Ⅳ	CH01104	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など			
専任教員		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

この科目は、教養・専門教科外の学習活動を、学訓を基に体系的に編成したものである。本学学生としての帰属意識を持つとともに、卒業後の社会人としての一般常識(心構えや基礎的マナーなど)を身につけることを目的としている。また、保育者としての職業意識の形成を図り、保育者としての資質の向上の基礎を培うことを目的としている。

Ⅲ. 学習成果

・ 専門教育にかかる催し等を通して保育者としての資質が向上している。
・ 卒業後の社会人としての一般常識(心構えやマナーなど)が身についている。
・ 就職ガイダンス、支援講座、就職説明会等を通して、就職活動の心構えができている。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授業内容	準備学習(予習・復習)内容
1: 基礎講座Ⅳ ・学年集会・クラスミーティング	必要な準備を行う 事後学習として指示された課題を提出する
2: 基礎講座Ⅳ ・就職講座(面接について①)	就職採用面接にて想定される質問の答えを準備する 面接に必要な準備を行う
3: 基礎講座Ⅳ ・就職講座(面接について②)	就職採用面接にて想定される質問の答えを準備する 面接に必要な準備を行う
4: 基礎講座Ⅳ ・OG 懇談会	就職後の保育実践についての疑問、OGに対する質問内容を事前にまとめる
5: 基礎講座Ⅳ ・学園祭ミーティング	学園祭の進行状況を確認し、必要な準備を進める
6: 基礎講座Ⅳ ・就職対策講座	筆記試験や面接試験の対策をまとめる 内定届等必要な書類を提出する
7: 基礎講座Ⅳ ・クラスミーティング	学園祭の振り返りレポートをまとめる 後期の授業中間振り返りとして履修カルテを記入する
8: 基礎講座Ⅳ ・専門教育にかかる催し	終了後学びのレポートを提出する
9: 基礎講座Ⅳ ・就職講座	筆記試験や面接試験の対策をまとめる 内定届等必要な書類を提出する
10: 基礎講座Ⅳ ・学年間交流	事前に1年生に説明する内容をまとめる これまでの実習録・指導案を確認する
11: 基礎講座Ⅳ ・クラスミーティング	卒業・就職に向け必要な準備を行う
12: 基礎講座Ⅳ ・就職講座	筆記試験や面接試験の対策をまとめる 内定届等必要な書類を提出する
13: 基礎講座Ⅳ ・クラスミーティング	卒業・就職に向け必要な準備を行う
14: 基礎講座Ⅳ ・学年間交流(2 年生を送る会)	2年間の振り返りを行う
15: 基礎講座Ⅳ ・まとめ	2年間の振り返りを行う 後期の授業振り返りとして履修カルテを記入する

＊準備学習についての補足説明

毎回の内容を各自でノートに記述し、資料と共にファイルに綴じ、まとめていくこと。課題は、資料・参考図書を参考にしながら取り組むこと(時間厳守)。課題は30分以上かけて行うこと。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

就職支援ガイドブック。その他、各回必要に応じて資料の配布、参考図書の紹介を行う。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

授業への参加状況・取り組み(学習の意欲)70%、レポートなどの課題提出30%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

課題で取り組んだ内容の発表や質問を行ったり、実践しながら気づいたことや学んだことを記述したりするなど、授業や活動に主体的に参加すること。
また、授業以外でも、個人面談を実施する。
提出されたレポートは返却する。良いものは全体で紹介することがある。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
日本国憲法	CH02104	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
池田　宏子		履修要件他:	幼稚園2種必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

2年

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	◎
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

国の根本法である憲法の基礎知識を学ぶ。
国の仕組みや基本的人権の重要性にいて説明する。
重要な憲法判例や時事問題を利用して憲法学習の理解を深める。

Ⅲ. 学習成果

国民主権の基本的な制度を説明できる。
基本的人権について学び、人権尊重の重要性を十分に理解する。
自分で考え、意見を的確に表現できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 憲法の成立までを学ぶ 憲法に関するDVDを視聴します。	
2: 法の種類と憲法 身近な法律問題をテーマに法律と憲法の関係性を学びます。	講義で指定された法律の条文を調べる。
3: 憲法の基本理念 憲法の基本理念を確認し、諸外国の憲法と比較検討します。	指定された憲法の条文に目を通す。
4: 国の仕組み 三権分立について学びます。	国の3つの機関と三権分立の利点をまとめる。
5: 国民主権 天皇主権から国民主権への転換の歴史を学びます。	
6: 議院内閣制 国会と内閣の関係性を学び、大統領制と比較検討します。	新聞やニュースから国会と内閣に関連した情報を収集する。
7: 前半のまとめ 国の仕組みについて意見交換し、日本の抱える課題について議論します。	
8: 基本的人権(自由、平等の権利について) 自由と平等の権利ついて学びます。	人権の歴史について、指定されたテーマについて情報を収集する。
9: 憲法14条の平等権(絶対的平等と相対的平等) 絶対的平等と相対的平等の違いを学びます。	身近にある男女差別の事例を探す。
10: 新しい人権(代理母出産や安楽死など) 代理母出産や安楽死の権利などの新しい人権を学びます。	代理母出産の権利について、様々な意見を聞き自身の考えを構築する。
11: DVD視聴 新しい権利についてのDVDを視聴し、レポートをまとめます。	DVDについてレポートをまとめる。
12: レポート講評 提出されたレポートの紹介を通して皆さんの様々な考えを理解します。	様々な意見を知り、さらに自身の意見を深める。
13: 人権の保障の重要性 人権問題の重要性について確認します。	講義で学んだ各種の人権問題を整理する。
14: 重要判例の紹介 再婚禁止期間、尊属殺人罪等に関する判例を学びます。	指定されたテーマについて情報を収集する。
15: 後半のまとめ	基本的人権の重要性を憲法の各条文を確認しながら学ぶ。

＊準備学習についての補足説明
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

指定する教科書はありません。
適宜配布する資料と、各自が収集する情報を講義の資料とします。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験80%
レポート提出10%
学習の意欲10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出されたレポート(課題)は次回の講義で紹介し、意見交換の資料として活用します。各レポートは評価の対象となります。
講義中は常によく考え、自身の意見をまとめるよう心がけてください。
積極的な意見交換ができる雰囲気づくりに努めますので、皆さんの活発な議論を期待しています。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
文学B	CH02101	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
橋本　浩		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

わたしたちの先人は、それぞれが生きた時代における自らの生活の中で、なにを見つめ、なにを感じてきたのか。そして、人の姿というものをどのような言葉で表現してきたのか。この授業では、日本の神話をはじめとする古典(物語・散文)から近現代の文学の代表作を中心に、鑑賞・探究を通して、文学に対する興味関心を高め、その感性や生き方に触れていき、自身の人生に広がりと深さとをもたらすことを目的として行います。

Ⅲ. 学習成果

(1)それぞれの時代を生きる人の姿を読み解くことができる。　(2)作品世界の「体験」を通して、人間や人生への考察を深める。即ち、人の喜びや悲しみ、苦しみや悩みなどをとおして、人としての在り方・生き方を知ることができる。また、真・善・美はどのように追及されてきたのか、知識や理解を深め、自らの人生を豊かなものにすることができる。　(3)それぞれの作品を読み味わい、楽しむ視点や自分なりの読み方を作ることができる。また、これを通して語彙力を高め、文化への理解を深める中で、豊かな言葉・豊かな世界の持ち主となるとともに、自分の言葉で話す力、書く力を高めることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容		準備学習(予習・復習)内容
1: 文学概観とオリエンテーション～文学を学ぶ意義	講義・協議	課題1、近現代の作品を読む①
2: 上代の文学(1)　神話や伝説1:古事記(神々の誕生)	講義	課題2、近現代の作品を読む②
3: 上代の文学(2)　神話や伝説2:古事記(天照とスサノオ) 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	○発表者決定(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題3、近現代の作品を読む③
4: 上代の文学(3)　上代歌謡:万葉集(第1期・第2期) 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・発表・協議	課題4、近現代の作品を読む④
5　上代の文学(4)　上代歌謡:万葉集(第3期・第4期) 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	○発表者決定(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題5、近現代の作品を読む⑤
6: 中古の物語(1)　歌物語:伊勢物語 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・発表・協議	課題6、近現代の作品を読む⑥
7: 中古の物語(2)　日記文学:土佐日記 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	○発表者決定(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題7、近現代の作品を読む⑥
8: 中古の物語(3)　日記文学:蜻蛉日記 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・発表・協議	課題8、近現代の作品を読む⑦
9: 中古の物語(4)　日記文学:更級日記 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	○発表者決定(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題9、近現代の作品を読む⑧
10 中古の文学(5)　随筆:枕草子 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・発表・協議	課題10、近現代の作品を読む⑨
11: 中古の文学(6)　物語:源氏物語 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	課題11、近現代の作品を読む⑩
12: 中世の文学(1)　軍記文学:平家物語・源平盛衰記 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	○発表者決定(発表の要領については下欄「Ⅶ、その他」を参照のこと。) 課題12、近現代の作品を読む⑪
13: 中世の文学　　隠者文学:方丈記 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・発表・協議	課題13、近現代の作品を読む⑫
14: 中世の文学　　隠者文学:徒然草 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義	課題14、近現代の作品を読む⑬
15: 総まとめ 課題の近現代文学の感想について(協議)	講義・協議	これまでの振り返り。(これまでの学習資料持参)

＊準備学習についての補足説明

○班による発表は、二回。二冊以上のテキストや書籍により調べること。指定した近現代文学作品の概要、感想について発表する。○事前学習は毎回45分以上行うこと。

単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

○授業担当者作成の補充資料(教科書は使わない)

全て資料は担当者で準備する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

(1)単位認定試験(55%)　　(2)発表・課題・レポート(25%)

(3)学習の意欲(20%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

1、毎時間の課題に誠実に取り組むこと。(近現代作品をしっかりと読み、感想をまとめる)

2、発表者は、作品の概要について、A4一枚に次の事項をまとめる。①成立　②作者等　③文体　④文学史的意義等　⑤主な内容　⑥鑑賞や感想

パワーポイントの使用可。発表後は協議の時間を取り入れ、内容の理解を深める。

フィードバックについては、毎回担当者による発表に対するコメントの他、学生間評価も取り入れる。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
歴史	CH02102	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
金子　晋右		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

私たちが、日本の歴史から学ぶべき最も大切なことは、何でしょうか。それは、先人達が、何を大切にし、何を築いてきたのか、ということです。つまり、日本人のエートスは何か、ということです。エートスとは、M.ウェーバーが人類学の用語として明確化したもので、人々の行動を最深部で規定し、一定の方向に向かわせる内面的原理のことです。日本人が形成してきた社会システムは、日本文明と呼ぶことができます。日本文明は、大きく分けると、3つの層が重層的に積み重なって形成されています。それらの層は、古い層から順に、縄文時代、弥生時代、天皇時代です。天皇時代は、①古墳時代、②律令国家時代(㋐飛鳥時代、㋑奈良時代、㋒平安時代)、③武家政権時代(㋐平家政権時代、㋑鎌倉幕府時代、㋒室町幕府時代、㋓江戸幕府時代)、④近代国家時代(㋐大日本帝国時代、㋑戦後日本国時代)に小分類できます。こうした視点から、各時代において、日本人が何を大切にしてきたのかを学び、日本人のエートスについて考えます。

Ⅲ. 学習成果

日本の歴史の学修を通して、日本人が何を大切にし、どのような社会を築いてきたのかについて理解し、説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: イントロダクション:日本の歴史から何を学ぶのかー日本文明のエートスー アクティブ・ラーニング:自分達が大切にしていることをディスカッションする。	今村啓爾『縄文の豊かさと限界』(山川出版社;日本史リブレット)などを読んで、縄文時代についての理解を深める
2: 縄文時代(1):縄文文明とは何かー人類史的意義と日本文明史的意義ー	安田喜憲『文明の環境史観』(中公叢書)などを読んで、気候変動と縄文時代についての理解を深める
3: 縄文時代(2):縄文文明の誕生ー文明はどのように誕生するのかー	小林達雄『縄文の思考』(ちくま新書)などを読んで、縄文人の暮らしについての理解を深める
4: 縄文時代(3):縄文文明のエートスー家族愛と縄文的社会保障ー	吉田敦彦『縄文土偶の神話学』(名著刊行会)などを読んで、縄文土偶の役割についての理解を深める
5: 縄文時代(4):環境保全と人道主義の両立ー女性型土偶の目的は何かー	渡辺誠『よみがえる縄文の女神』(学研パブリッシング)などを読んで、縄文時代と日本神話との関係についての理解を深める
6: 弥生時代(1):格差、戦乱、環境破壊の発生	武末純一『弥生の村』(山川出版社;日本史リブレット)などを読んで、弥生時代についての理解を深める
7: 弥生時代(2):寒冷化と「倭国大乱」	小路田泰直『卑弥呼と天皇制』(洋泉社;歴史新書)などを読んで、卑弥呼と邪馬台国についての理解を深める
8: 天皇時代(1):古墳建設とヤマト政権の誕生	金子晋右『グローバリズムの終焉と日本の成長戦略』(論創社、2018年)の第3章などを読み、古墳建設の目的について、理解を深める
9: 天皇時代(2):天皇とは何かー祭司王(priestking)としての天皇ー	金子晋右『グローバリズムの終焉と日本の成長戦略』(論創社、2018年)の第4章などを読み、祭司王の目的などについて、理解を深める
10: 天皇時代(3):白村江の戦いと「日本」「天皇」の誕生	岡田英弘『日本史の誕生』(弓立舎)などを読んで、古代日本が直面した国際秩序の変動についての理解を深める
11: 天皇時代(4):絆と分かちあいー大嘗祭の開始と天皇清貧伝説ー	金子晋右『グローバリズムの終焉と日本の成長戦略』(論創社、2018年)の第4章などを読み、大嘗祭の目的などについて、理解を深める
12: 武家政権時代(1):武士とは何かー法制史・経済史・宗教史的見解ー	金子晋右『文明の衝突と地球環境問題:グローバル時代と日本文明』(論創社)の第6章などを読んで、武士道と仁政についての理解を深める
13: 武家政権時代(2):武士道と仁政ー活人剣の精神と軽税福祉国家ー	金子晋右『世界大不況と環境危機:日本再生と百億人の未来』(論創社)の第1章などを読んで、仁政と軽税政策についての理解を深める
14: 近代国家時代:日本文明圏の拡大と挫折	渡部昇一『増補決定版　日本史』(扶桑社)の第4章などを読んで、近代の日本が直面した国際情勢についての理解を深める
15: 総括:我々の先人達は何を大切にしてきたのか アクティブ・ラーニング:先人達が大切にしてきたことについてディスカッションする。	これまでの授業の内容についてまとめ、日本人のエートスについて考える

＊準備学習についての補足説明

準備学習は、シラバスや授業で提示した参考図書などを読み、授業中に指示した博物館等のホームページを閲覧して、遺跡や遺物等の特徴・役割についてまとめること。本講義科目は1回の授業に対し、教室外における4時間程度の準備または学習を必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書は使用しない。教員作成資料を配付する場合がある。

参考図書:金子晋右『文明の衝突と地球環境問題:グローバル時代と日本文明』論創社、2008年

金子晋右『世界大不況と環境危機:日本再生と百億人の未来』論創社、2011年

金子晋右『グローバリズムの終焉と日本の成長戦略』論創社、2018年

Ⅵ. 評価方法と評価基準

＊期末レポート試験　60%(長い歴史の中で、日本人が何を大切にし、どのような社会を築いてきたのかについて説明できているか)

＊中間レポート　20%(参考図書の内容を理解できているか)

＊小テスト(講義内容を理解できているか)と、講義への貢献度(授業への熱意や、良い質問はプラス評価とする)20%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

＊提出した課題については、個人名を伏せて、授業で紹介・解説する場合があります。

＊授業中の私語やスマートフォンの使用は減点の対象です。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
教育学	CH02103	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
溝内　亮佑		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

社会に埋め込まれた教育の姿を探究する授業です。特に我々が生きる現代社会と教育がどのような関係にあるのか、いくつかのキーワードから考えていきます。そのための方法として文献を読んで、毎回の発表担当者を決め、発表をして頂いた内容を中心に討論を行います。この過程を通して、
①教育に関する文献の読み方、②教育に対する自らの考えを書く力、③他者との議論により考えを共有し、深める技法
以上の3点を習得します。

Ⅲ. 学習成果

①教育を社会との関係の中で理解することができるようになる。
②教育を”こうあるべきだ”ではなく、”なぜそうなのか”という観点から語ることができるようになる。
③教育の話題を他者に伝わる形で議論することができるようになる。
④これから教育現場に関わっていくことについて深く考えることができるようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:オリエンテーション(授業の概要、自己紹介、発表を担当する文献の決定)	予習:最近読んだ面白い本を一言で紹介してください。 復習:
2:社会と教育の関係を考える上での諸論点について(1) 古典的な概念から社会と教育の関係について学習します。	予習:下記の参考文献から一項目を選んで読む。 復習:学んだことを具体的な事象に脳内変換してきてください。
3:社会と教育の関係を考える上での諸論点について(2) 講師の研究内容から社会と教育の接点について学習します。動画を見ます。	予習:”夜間中学”について簡単な文献を指示します。 復習:教育が抱える矛盾について考えてきてください。
4:社会と教育の関係を考える上での諸論点について(3) 夜間保育を取り上げ同上のテーマについて実践的に考えます。動画を見ます。	予習:別途で簡単な文献を指示します。 復習:夜間保育について様々な立場から考えてください。
5: 社会と教育の関係を考える(1)レジュメ発表、ディスカッション 初回はレジュメ作成の模範を示した上で、本を読んで議論することに慣れます。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
6: 社会と教育の関係を考える(2)レジュメ発表、ディスカッション 社会の問題を俯瞰的に理解するポイントを押さえます。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
7: 社会と教育の関係を考える(3)レジュメ発表、ディスカッション 社会の問題を”批判的に捉える”とは何かを一緒に勉強します。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
8 :社会と教育の関係を考える(4)レジュメ発表、ディスカッション 批判的に捉えたことをレジュメに落とし込む方法を習得します。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
9: 社会と教育の関係を考える(5)レジュメ発表、ディスカッション 批判的に議論することを実際にします。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
10:中間ディスカッション これまでの振り返り及び次回の導入(社会の中の教育)を行います。	予習:別途指示します。 復習:別途指示します。
11: 社会と教育の関係を考える(6)レジュメ発表、ディスカッション 扱っている本における教育的なものとは何なのかを議論します。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
12: 社会と教育の関係を考える(7)レジュメ発表、ディスカッション 教育と社会が繋がっているということを理解する。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
13: 社会と教育の関係を考える(8)レジュメ発表、ディスカッション 社会と教育の繋がりにおける諸論点を自分で見つけられるようになる。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
14: 社会と教育の関係を考える(9)レジュメ発表、ディスカッション 社会と教育の繋がりを文章に書いて他者に説明できるようになる。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。
15: 社会と教育の関係を考える(10)レジュメ発表、ディスカッション 社会と教育の繋がりについて他者と議論を交わすことができるようになる。	予習:発表担当者はレジュメ作成、他の方は文献を熟読してください。 復習:授業後にリアクションペーパーを提出してください。

＊準備学習についての補足説明
5回以降は、該当文献(毎回20-40ページ)を熟読の上、受講してください。そのために毎回60分の予習時間を確保して頂きます。
分からない単語、概念は事前に調べてきてください(辞書以外の幅広い方法でも可)　単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

討論に使う文献はいくつかの選択肢を提示しますので、その中からご自身の関心に合うものを選択してください。
事前購入は不要です。(第1回目の講義で、発表を担当する文献が決まった後、各自ご準備ください)
教育学の基礎知識:汐見稔幸ほか(2011)『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房
教育学に対する思考方法:植上一希/寺崎里水(2018)『わかる・役立つ教育学入門』大月書店。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

通常授業へのとりくみ・学習の意欲(毎授業のリアクションペーパーへの記述)20%、課題作成・発表30%、期末テスト50%。
※この授業は、次の形式で行います。講師の提示した文献の中から関心のあるものを1冊選んでもらいます。その本を読み込み、レジメを作成し、発表します。発表を受けて、受講生全員でディスカッションを行います。また、毎授業終盤にリアクションペーパーの記述をお願いしています。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

文献に関しては次のキーワードを中心にご紹介します。異なる関心をお持ちの方はご相談頂ければ別途でご紹介差し上げます。
【ことばと文字、貧困、シチズンシップ、韓国、スポーツetc…】
レジュメの作成方法についてはーからご教示致しますので事前知識不要です。
教育について様々なことばで書き/語る時間となりましたら幸いです。
リアクションペーパーの内容は授業中に紹介させて頂きますので、好ましく思われない方は別途でご相談ください。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
食育学	CH02105	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
豊﨑　俊幸		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

「食育」という言葉、聞いたことがある人も多いと思います。「食育」とは文字通り、色により人を育てることを意味しています。しかし、一体何を育てるのでしょうか。単に、子供の身体を育てるだけなら、わざわざ「食育」という言葉を使用しなくても、お腹いっぱいに食べればよいはずです。
しかし、「食」が育てるのは、それだけでではありません。幼児に対する食育が、一体どのような変化をもたらすのか、ここでは本当の意味の食育について考えることを趣旨としています。

Ⅲ. 学習成果

1. 保育士として、「食育」に対する理解度を高めることができる。
2. 「食育」を通して、幼児への食行動が説明できる。
3. 幼児の栄養・健康Ⅱ対する専門意識を高めることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: 「食育」の概要 食育の意義、食育基本法についての概要	「食育」に対する定義あるいは食育基本法について厚生労働省のHPを利用してまとめる。
2: 幼児の栄養と健康：：：炭水化物の化学的性質と特徴・・・・1	炭水化物についての化学的性質・特徴をまとめる。
3. 幼児の栄養と健康：：：炭水化物の栄養・・・・2	炭水化物の栄養についてまとめる。
4: 幼児の栄養と健康：：：脂質の化学的性質と特徴・・・・1	脂質についての化学的性質・特徴をまとめる。
5: 幼児の栄養と健康：：：脂質の栄養・・・・2	脂質の栄養についてまとめる。
6: 幼児の栄養と健康：：：タンパク質の化学的性質と特徴・・・1	タンパク質についての化学的性質・特徴をまとめる。
7: 幼児の栄養と健康：：：タンパク質の栄養・・・・2	タンパク質の栄養についてまとめる。
8: 幼児の栄養と健康：：：ビタミン、ミネラルについての化学的性質・特徴・・・・1	ビタミン、ミネラルについての化学的性質・特徴をまとめる。
9: 幼児の栄養と健康：：：：ビタミン、ミネラルの栄養・・・・2	ビタミン、ミネラルの栄養についてまとめる。
10: 日本の食文化 健康・維持・増進の立場から日本食の優れた特徴について考える。	日本食の優れた特徴について調査し、それらの特徴についてまとめる。
11: 食べ物の消化・吸収 五大栄養素（炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラル）の消化・吸収	五大栄養素の消化・吸収についてまとめる。
12: アクティブラーニング形式の授業：：：1（ディスカッション） テーマ：食べ物の栄養	平素の食事から食べ物の栄養についてまとめる。
13: アクティブラーニング形式の授業：：：2（ディスカッション） テーマ：バイキング給食にチャレンジ	バイキングに関する情報を入手する。
14: アクティブラーニング形式の授業：：：3（ディスカッション） 食べ物はどこから	食べ物に関しての輸入・輸出に関する情報を入手する。
15: アクティブラーニング形式の授業：：：4（ディスカッション） 朝ご飯の重要性について	朝ご飯を食べる目的に関して調査・まとめる。

＊準備学習についての補足説明
準備学習として、毎回の授業の理解度を高めるために、食に関する様々な情報を入手しておくことは必須です。そのために必要な準備時間として1時間以上を費やしてください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書：子どもの食と栄養; 羊土社　2400円＋税
授業内容に応じてプリント教材を配布します。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験 60%、課題　20%、学習の意欲 20%
いねむり、私語、スマートフォンの使用に関しては「学習意欲」の評価の対象とします。

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

本教科目を受講することで、保育士の立場から「食育」とは何かが理解できます。幼児の健全な成長は「食育」がとても重要です。
保育士を志す学生たちの日々の努力を期待します。
課題のフィードバックは、ポイントとなる内容あるいは着眼点などを共有することを目的として、その内容について説明する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
化学B	CH02106	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
坂根　康秀		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

私たちの身の回りには化学の力を利用したものが数多く存在します。私たちの体も化学反応を利用しています。
この授業は私たちの身近な題材を取り上げ、化学的な見方、考え方(特に論理的な考え方)を養うことを目的に進めます。
また保育の現場で起こる事故(感染症やアレルギーなど)にどう対処するかについても解説します。この科目を履修すると、私たちの生活と化学の関連が分かるようになります。

Ⅲ. 学習成果

1　論理的思考力(順序だてて物事を考える力)ができる。
2　保育現場で化学的な思考、判断ができる。
3　子ども達に科学への興味を抱かせる話ができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 大切な命と日本人の寿命(生命と化学の関係)	寿命と余命の違いを調べる。 保育現場で起こる生命の危機とはどのようなものがあるか調べる。
2: 微生物とウイルス 地球温暖化とバイオエネルギー	地球温暖化の背景を調べる。
3: 甘いものと虫歯(ブドウ糖や果糖、子どもの虫歯)	幼児の歯磨きの行い方を調べる。 歯の重要性を深く考えてみる。
4: 少糖類、多糖類(私たちのエネルギー源として重要なでんぷん) 日本人が主食としてきた米	でんぷんはどのような食品に含まれるか調べる。 米の特徴とは何か。
5: 食物繊維と大腸がんの関係(腸内細菌と便秘の予防・改善) 体を作っているたんぱく質。そしてアレルギー	食物繊維とダイエタリーファイバーは同じものを指しているか調べる。 食物アレルギーは何が困るのか調べる。
6: ガンと食べ物の関係 ガンの発生や抑制と私たちの食生活に関りがあるか。	自分の親戚にガンを患った人がいるか調べておく。 またそのガンはどの部位のガンかを調べておく。
7: 油脂とは何か。私たちは油脂を摂り過ぎているのか。 コレステロールと動脈硬化	日常的に『油』や『油脂』という言葉を使うが、何を指しているか考えておく。 動脈と静脈の働きを調べておく。
8: 油のとりすぎは悪い？(子どもの時から油の摂取には注意が必要か)	自分の生活で何から油をとっているか考えておく。 油脂の摂取量を減らす方法を考える。
9: 夜更かしの子どもが増えている！なぜ悪い？(睡眠の化学とホルモンの働き) Googleクラスルームによる双方向授業	ホルモンという言葉は何を指しているか、またホルモンには何があるか調べる。 自分の生活を振り返り夜更かしが悪いと思われる理由を考える。
10: 動物に見る親子関係と行動 グループワークによる課題提出	動物の親子の行動にはどのようなものがあるか考えておく。
11: 保育現場での嘔吐下痢症や食中毒はどうやって防ぐ？(細菌とウイルスによる病気)	ウイルスとばい菌は同じか、違うのか調べる。 ノロウイルスとは何かを調べる。
12: ビタミンをたくさんとれば元気になるか？(サプリメントでの補給) 脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン	ビタミンAが不足するとどうなるか調べる。 紫外線の功罪を考える。
13: 一番身近な水溶性ビタミンであるビタミンCの性質や働き	ビタミンCが多い果物、少ない果物を調べる。
14: 元気な子どもになるためにカルシウムは必要か。大人のカルシウムは十分か。 ナトリウムや鉄の働き	カルシウムが不足するとどうなるか調べる。 自分の食生活でカルシウムが不足していないか考える。
15: 合成洗剤 アルコール飲料の注意点	台所用洗剤の使用法を確認してくる。 なぜ20歳未満の飲酒は禁止されるのか考える。

＊準備学習についての補足説明
準備学習に要する時間は約1時間ですが、重要なことは自分で考えてみる時間をしっかりとることです。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書:テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考図書:「知るほどハマル！化学の不思議」(技術評論社)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(50%)、事後学習の課題(50%)
事後学習の小テスト、課題がほぼ毎回課されます。その課題は毎回評価しますので、必ず提出してください。欠席すると課題の個人平均点が下がります。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

小テストを実施した場合、誤答が多い問題については次回の授業の時に解説する。
課題が課された場合には、良い回答、好ましくない回答例をあげ、全員で共有する。
受講者数がおおむね25名以下の場合には、前回の課題に対する解答等をグループ発表していただく。
Googleクラスルームを使用するので、スマホ、タブレット、ノートPCがあると便利。なければ学校のPCを使用すること。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
生理学	CH02107	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	教養科目		
中川　緑		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	○
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	○
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

私たちの体は組織や器官が状況に応じて複雑に調節されることで健康を保っているが、幼児の身体は成長過程にあり、成人よりも細やかなケアが求められる。そのため、ヒトの体の構造や機能について基本的な知識を身に着けることは、保育者にとって必要かつ重要なことである。
本講義は、ヒトの体を形成する体の各器官の構造、機能と疾病との関連を学び、人体と健康について正しく考えられることを目的としている。

Ⅲ. 学習成果

ヒトの体の基本的な構造と機能を知ることができ、その調節について理解できる。
健康に関する情報を正しく理解でき、必要な情報を選択することができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 生命のしくみと人体の構造	人体のしくみと組織についてまとめる(30分～1時間程度)
2: 体を作る物質、細胞の構造	細胞とそれを構成する物質についてまとめる(30分～1時間程度)
3: 遺伝情報と生命	遺伝子とその発現についてまとめる(30分～1時間程度)
4: 人の生殖と発生のしくみ	減数分裂から形態形成までをまとめる(30分～1時間程度)
5: 神経細胞のしくみ	神経細胞の形態や機能をまとめる(30分～1時間程度)
6: 感覚受容器	ヒトの感覚受容器についてまとめる(30分～1時間程度)
7: 骨格筋の働き	筋肉の種類や動き方をまとめる(30分～1時間程度)
8: 神経系	中枢神経と末梢神経についてまとめる(30分～1時間程度)
9: 消化と吸収	食物の消化・吸収と、栄養素についてまとめる(30分～1時間程度)
10: 循環系と排泄系	循環系、体液の維持についてまとめる(30分～1時間程度)
11: 内分泌系の基本	ホルモンのしくみについてまとめる(30分～1時間程度)
12: 内分泌系:ホルモンによる体の調節	身体の恒常性の維持についてまとめる(30分～1時間程度)
13: 生体防御1:自然免疫と獲得免疫	免疫の基本をまとめる(30分～1時間程度)
14: 生体防御2:感染症、免疫異常	病気と免疫の関連をまとめる(30分～1時間程度)
15: アクティブラーニング:現代社会と生命科学の関わりを考えよう	資料を確認、話し合われた内容をまとめる(30分～1時間程度)

＊準備学習についての補足説明

気になる科学ニュースを調べる。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書は特に指定しない。授業時に参考資料を配布。
参考図書:みんなの生命科学　ISBN 978-4-7598-1811-6

Ⅵ. 評価方法と評価基準

定期試験(80%)　・　学習の意欲(20%)で評価する。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業内容と無関係な私語、私的なラインやメールなどは慎み、授業に集中すること。
受講態度に特に問題がある場合は、退出を促す場合がある。

保　育　学　科

２　　年

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
幼児体育Ⅰ	CH08107	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業必修		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
中村　洋子		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

「幼児体育」とは、身体運動(運動あそび・スポーツごっこ・ダンスなど)を通して、幼児のすこやかな心と体を育成する意味を持つ。そこで本講座では、「運動あそび」のレパートリーを増やし、運動あそびのバリエーションや工夫の仕方を知る等、指導者としての内容の充実を図るとともに、それに伴う「指導方法や補助の仕方」を実際にからだを動かして学習する。

Ⅲ. 学習成果

1、幼児の運動あそびを経験し、「運動」の楽しさとその重要性を知る。
2、幼児の身体発達やそれに応じた運動プログラムの知識を得て、保育現場で保育内容の質を向上させる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション「幼児の体育」とは？　発達に応じた運動あそびとは？ グループ分け	シラバスを持参する 復習:　子ども向けのテレビ番組を鑑賞し、課題に取り組む
2: 幼児向けダンス作成(振付・指導方法・見本・練習方法について) グループディスカッション　選曲・振付・発表スタイル・小道具など検討する	復習:　ダンス練習後、「振付ノート」を記入
3: 幼児向けダンス作成(グループ別練習・小道具の使い方) グループディスカッション　選曲・振付・発表スタイル・小道具など検討する	復習:ダンス練習後、「振付ノート」を記入・完成 ダンスの見本をするための練習を行う
4: 幼児向けダンス(発表・ディスカッション・シェアリング) グループごとに発表。学生間相互評価	復習:　レポート作成
5: からだを使った運動あそび(仲間作り・鬼あそびなど)	予習:　仲間作りあそび・鬼あそびを考えてまとめておく 復習:　授業内で学習した仲間づくりのあそび方をノートにまとめておく
6: からだを使った運動あそび(仲間作り・鬼あそびなど)	復習:　遊び方の手順・注意点をまとめておく
7: 運動会種目(競技種目・レクリ―ション種目など) バルーン遊び	復習:　授業内で習ったバルーンの遊び方、作品構成をまとめておく
8: 運動会種目(競技種目・レクリ―ション種目など) バルーンあそび	復習:　バルーン指導の注意点などをまとめておく
9: 運動会種目(競技種目・レクリ―ション種目など) サーキットあそび	復習:　年齢別サーキットメニューを考える
10: 移動遊具を使った運動あそび(マットの見本・補助練習) スマートフォンの動画機能で動きを撮影。モデルプレイ・改良点などを可視化し指導のポイントを探す	復習:　見本や補助に必要な注意点や言葉がけをまとめる
11:　移動遊具を使った運動あそび(マット・跳び箱の見本・補助練習・実技テスト) スマートフォンの動画機能で動きを撮影。モデルプレイ・改良点などを可視化し指導のポイントを探す	復習:　見本や補助に必要な注意点や言葉がけをまとめ、実技テスト練習を行う
12:　移動遊具を使った運動あそび(マット・跳び箱・鉄棒の見本・補助練習・実技テスト) スマートフォンの動画機能で動きを撮影。モデルプレイ・改良点などを可視化し指導のポイントを探す	復習:　見本や補助に必要な注意点や言葉がけをまとめ、実技テスト練習を行う
13:　移動遊具を使った運動あそび(マット・跳び箱・鉄棒の見本・補助練習・実技テスト) スマートフォンの動画機能で動きを撮影。モデルプレイ・改良点などを可視化し指導のポイントを探す	復習:種目別の指導方法をまとめておく
14: 幼児体育指導上の留意点 安全環境・教材の工夫・指導の配慮・服装や靴など	復習:　実習前に運動遊びを行う上で注意すべき点をまとめる
15: まとめ	復習:　今までのノートをまとめる

＊準備学習についての補足説明
ファイルを準備しておく。授業時に資料やノートをまとめ綴っておくこと。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布する

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実技テスト60%、課題プリント30%、学習の意欲10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

学年ジャージ、体育館シューズを使用する。長髪者は髪をゴムで結び、前髪などもまとめておく。アクセサリー、腕時計は外す。保育現場での運動指導者にふさわしい服装で取り組むこと。課題提出の遅れや忘れ、服装の準備が整っていない場合は減点対象となる。
課題プリントに対し、授業内でコメントを提示する

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育者論	CH04101	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
寺地　亜衣子		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園・児童福祉施設における保育者の意義と役割・職務内容・課題について理解し、自らの学習課題を明らかにする。
・グループワークやディスカッションを通して自分の保育観や子ども観を明らかにし、保育者としての自分と向き合いながら学びを深めていく。
・社会にも目を向け子どもに関する時事的な内容についても取り扱い、考えを深めていく。

Ⅲ. 学習成果

・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園・保育所以外の児童福祉施設のそれぞれの特徴を理解し、説明することが出来る。
・保育者の役割と職務内容について具体的に学び、理解しようと努めることができる。
・保育者の職務内容の全体像や、専門職として学び続けることの必要性を理解することができる。
・他者と話し合ったり、自分の考えを伝えたりしようとし、学んだことや考えを深めながら保育職に向き合おうとすることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	保育者になりたいと思ったきっかけや、自身の目指す保育者像について書く。
2: 保育者の役割と倫理 ・役割　・倫理	3法令を読み、保育者の役割について書き出す。
3: 保育者の制度的位置づけ(幼稚園教諭、保育士、保育教諭) ・資格、要件、責務　・レポートの共有(グループディスカッション)	事例をもとに、自分の考えとその後の保育の展開についてレポートを作成する。
4: 保育士の専門性 ・養護と教育　・事例学習(グループワーク、プレゼンテーション)	養護と教育について調べ、レポートを作成する。
5:　・保育者に求められる資質能力とは ・レポートの共有(グループディスカッション、プレゼンテーション)	保育者にはどんな資質能力が求められているか調べ、レポートを作成する。
6:　・知識・技術及び判断 ・子ども理解	事例を読み、知識、技術、判断に当たる部分を考え、レポートを作成する。
7:　・保育の省察、自己評価 ・保育の記録	実習で記憶に残るエピソードを書き出し、省察する。 保育所における自己評価ガイドラインを読み、大事だと思う個所や分からない箇所をチェックしておく。
8:　・記録の意義 ・記録から読み取れたことについて(グループワーク、プレゼンテーション)	実習録を読み返し、記録からわかることを書き出す。
9: カリキュラム・マネジメント、保育の展開について ・保育の循環について	事例を読み、保育の展開について考えレポートを作成する。
10: 保育者の協働 ・保育にかかわる協働(チーム学校)(グループディスカッション、プレゼンテーション)	保育における協働について調べたり、考えたりしてレポートを作成する。
11:　・保護者支援にかかわる協働 ・保育者としての対応について(グループワーク)	保護者支援とはどのようなことか考え、レポートを作成する。
12:　・専門職間及び地域社会との協働 ・協働、連携の事例について(グループワーク)	児童福祉施設について種類や内容を調べ、レポートを作成する。
13:　・保護者及び地域社会との協働 ・小学校との接続、連携(要録)	自分の地元の子育てに関する社会資源について調べ、レポートを作成する。
14: 保育者の専門職的成長 ・専門性の発達	自分のライフコースを書き出してみる。
15:　・生涯発達とキャリア形成 まとめ	授業を通して自分なりの保育者像にどのような変化があったか、考えたことをまとめて記述する。

＊準備学習についての補足説明
準備学習をもとに授業内でグループワークやディスカッション等を行う。各回、60分程度の予習時間を必要とする。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「幼稚園教育要領」文部科学省(フレーベル館)
「保育所保育指針」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府(フレーベル館)
保育所における自己評価ガイドラインとハンドブック　その他資料は適宜配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学習の意欲(レポートなどの課題)40%、学期末単位認定試験60%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・レポート課題は、基本的にPCでの作成とする。提出についてはGoogle classroomを利用するが、プリントアウトしたものの提出を求める場合もある。
・レポート課題をもとにグループワークを行う中で、課題へのフィードバックを行う。提出レポートにコメントを入れて返却することもある。
・「実務経験教員科目」特記事項:保育士勤務経験有。毎回授業の始めに、子ども理解を深めるための遊びの紹介や保護者支援のきっかけづくりのヒントなどを紹介する。現場に出て同僚と自分の子ども観や保育観を語れるようになることを目指し、グループワークやプレゼンテーションを多く取り入れる。現場での事例を盛り込みながら、学生たちが保育の様々な場面を身近な課題として捉えられるように講義を行う。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
家庭教育	CH04105	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
森山　久子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

わが国では、高度経済成長政策以降、家庭を取り巻く環境が変貌し（都市化、少子化、核家族化、国際化、IT機器の過熱化など）、家庭の教育力が低下していると言われている。この科目では親の庇護が求められている就学前の子どもに焦点を絞り、家庭教育の目的・内容・方法を理解する。
一年後には保育現場に立つこと前提に、子育てに悩む母親に寄り添いながら、子どもたちの成長を見守るにはどのような関わりが求められるのか、グループ討議を重ねながら、自分なりの教育観・保育観を確立する。

Ⅲ. 学習成果

様ざまな家庭教育の現象（育児を放棄する親、過熱する早期教育、情報に振り回される親、基本的生活習慣の欠如）などについて、DVDやエッセイを通して、望ましい家庭教育の在り方を考えることができる力を獲得する。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: オリエンテーション　親は何を大切にして、しつけてくれたのか振り返る。	
2: 現代社会における家庭教育の課題　①－1 DVD「誰も知らない」を視聴して学んだことをまとめる。	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。 視聴したDVDの感想をまとる。
3: 現代社会における家庭教育の課題　①－2 グループディスカッション	前回の演習でまとめたことやグループで話し合ったこと、気付いたことをまとめる。
4: 現代社会における家庭教育の課題　②－1 DVD「円卓」を視聴して自分なりに三世代家族の長所・短所をまとめる。	視聴したDVDの感想をまとめる。
5: 現代社会における家庭教育の課題　②－2 グループディスカッション	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
6: 現代社会における家庭教育の課題　③－1 DVD「そして父になる」を視聴し父親の役割をまとめる。	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。 視聴したDVDの感想をまとめる。
7: 現代社会における家庭教育の課題　③－2 グループディスカッション	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
8: 現代社会における家庭教育の課題　④－1 DVD「はなちゃんのみそ汁」を視聴し母親の役割をまとめる。	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。 視聴したDVDの感想をまとめる。
9: 現代社会における家庭教育の課題　④－2 グループディスカッション	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
10: 望ましい家庭教育の在り方　「早寝　早起き　朝ごはん」の大切さを学ぶ	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
11: 望ましい家庭教育の在り方 グループディスカッション	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
12: 「社会の宝」として育てる　（集団の人間関係と地域社会の再生）	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
13: 「社会の宝」として育てる　（これからの子育て支援、社会支援とは） グループディスカッション	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。
14: DVD「世界の果ての通学路」を視聴し学んだことをまとめる。	配布資料を読み、より知りたいと思うことをまとめる。 視聴したDVDの感想をまとめる。
15:　まとめ　学んだことを発表し、グループで学びを共有する。	家庭教育でディスカッションを通して学んだことをまとめる。

＊準備学習についての補足説明
事前に配布された資料を読み、問題点をノートにまとめ、ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝに臨む課題のテーマは、それぞれの演習時に伝える。事前学習は、与えられた課題について20～30分かけて準備すること。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書「正しいパンツのたたみ方」―新しい家庭科勉強法―南野忠晴著　岩波ジュニア新書647　の指定した部分、及び、配布したプリントをよく読んでおくこと。
※参考図書　『女の子はどう生きるのか―教えて、上野先生！』岩波ジュニア新書929　・『おやこストレス』　（汐見稔幸著　　平凡社新書　）
『母性愛神話とのたたかい』（大日向雅美著）　・『この子はこの子のままでいいと思える本』（佐々木正美　著　主婦の友社）

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学びのレポート5回③⑤⑦⑨⑭（50点）　課題レポート1回（30点）　授業への参加度（ディスカッションに積極的に意見を発表するなど）（20点）

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

過度な私語、スマホの使用は減点の対象になることがあります。
ノート提出は期日中に行うこと。
提出されたレポート等は、コメントをつけて、各自に返却します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
教育方法指導論	CH04109	開講時期:	前期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
溝田　めぐみ		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

これからの子どもたちに求められる資質・能力について考え、教育の方向性について考えたり基礎理論について学び、保育の方法を支える4つのサイクルを学ぶと共に保育の評価方法について理解する。また、子ども主体の保育をする上での保育者の援助について学ぶ。そして、保育者が用いる基礎的な技術や指導案作成の目的や方法について学び、実際に執筆してみる。情報機器及び教材の活用については、パソコンを活用した指導案の作成を行う。

Ⅲ. 学習成果

ことができる。また、保育の方法を支える4つのサイクル(幼児理解、評価、実践、省察)の基礎とその重要性について理解している。そして、幼児

作成する目的とその重要性を理解し、書くことができる。また、パソコンで指導案を作成できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 幼稚園教育において育みたい資質能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
2: 保育方法を支える4つのサイクル、幼児理解に基づいた評価の方法等 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
3: 様々な保育　自由保育、コーナー保育 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
4: 主体的・対話的で深い学びとは 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
5: 主体的・対話的で深い学び(リレー活動を例に)	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
6: 教材研究とは　教材研究の2つの側面 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
7: 指導案の作成　遊びの選定と教材研究 準備学習についてグループで討議する	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
8: 指導案の作成　遊びの準備と披露 指導案についてグループで討議	事前に配布するプリントに取り組んでから授業に出席してください。
9: 指導案の執筆　ねらいと流れの検討 指導案についてグループで討議	グループ討議で指導案について指摘を受けた点を改善する
10: 指導案の執筆　配慮の検討	グループ討議で指導案について指摘を受けた点を改善して完成させる
11: 作成した指導案に基づいたミニ実践 グループ内で感想を交換	ミニ実践の準備
12: 作成した指導案に基づいたミニ実践 グループ内で感想を交換	ミニ実践の準備
13: ミニ実践に基づいた指導案の変更と報告	指導案の変更
14: 指導案の発表	指導案の完成
15: 指導案の発表	

＊準備学習についての補足説明

授業の予習プリントを事前に配布しますので、必ず取り組み、授業に持参してください。予習プリントの内容を踏まえて授業を行います。プリントは30分～60分程度で取り組めるものとなっています。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

幼稚園教育要領解説(最新版)文部科学省/著(フレーベル館)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版)内閣府/著
文部科学省/著　文部科学省/著(フレーベル館)、 保育所保育指針解説(最新版)厚生労働省/編(フレーベル館)

必要に応じて授業内でプリントを配布する。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

指導案30%、準備学習50%、授業貢献度20%

Ⅶ. その他(課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

準備学習の内容に基づいてグループで討議し採点します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
乳児保育Ⅲ	CH04112	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
長谷川　明美		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

乳幼児期の発達に大切なことは、人との豊かな相互作用の中で育ちます。人の幸せな人生を考えた時、今乳幼児教育や保育が果たす役割は重要です。乳児保育Ⅲでは赤ちゃんの発達と愛着(アタッチメント)について学び、保育者としての視点やかかわりについてグループワークなどを通して、掘り下げて学んでいきます。また入園前の面談では、保育者、保護者、の役割を担当し、ロープレ(ロールプレイング)を行う中で、入園前の子どもの生活状況をつかむ技術を学びとることができます。その中で課題を見出し園生活がスムーズにいく様、指導案につなげていきます。保護者支援に欠かせない連絡帳の書き方についても、実践例よりどのようなものが望ましいのか書き方を学びます。保育士としての専門的な知識と技術が身につく内容です。

Ⅲ. 学習成果

1. 乳児保育の歩みをたどる中で、関連する法律を知り、福祉の原点に根ざした保育観・職業観を持つ。
2. 赤ちゃんの発達とアタッチメント理論を学び、乳児保育で大切にしたいことが何なのかを考えていく。
3. 保護者との連携の取り方(入園時の面接・連絡帳の書き方・個別支援計画・育児相談)等ロープレ(ロールプレイング)等を通して、体験的に学ぶ。
4. グループディスカッションなどを通して主体的、対話的で深い学びが出来るようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 乳児保育の意義や役割と社会的背景	少子化をたどる中で子どもの育つ保育環境は、大きく様変わりしている。乳児保育の意義や役割についてのレポート課題(google classroom)
2: 児童福祉法や児童福祉最低基準などの法律を知る ※	児童福祉法制定後、保育ニーズは多様化し改革が進められ、保育を行う上で知っておくべき法律について、レポート課題(google classroom)
3: 乳児保育の意義・養護と教育が一体となった保育とは ※グループワーク	子どもの最善の利益を考慮した保育について理解できるよう保育所保育指針を読んでおく乳児保育に即応できるよう養護と教育に関しての課題(google classroom)
4: 愛着関係を育む保育　① 世界の研究より	世界の愛着研究や、長期縦断研究による非認知力の重要性について話す。非認知力について調べ、内容をまとめる(google classroom)
5: 愛着関係を育む保育　②	乳児保育の基本となることを押さえていく(google classroom)
6: 愛着関係を育む保育③ 「泣き・ぐずり」「反抗」	泣きやぐずり、反抗などに対して、愛着関係が育まれていくのか学び、ディスカッションしたことをレポートにする(google classroom)
7: 泣きについて考える ※グループディスカッション	実際保育現場で、泣く子どもたちの写真をみて、子どもたちの心の状態をつかみ支援の方法をディスカッションしたことをレポートにする(google classroom)
8: 基本的生活習慣と保育　(食事)	0・1・2・歳児の食事場面での援助や留意点について調べる(google classroom)
9: 基本的生活習慣と保育　(排泄・睡眠)	0・1・2・歳児の排泄・睡眠場面で援助や留意点について調べる(google classroom)
10: 対人関係の発達と保育　(言葉)	各月例や年齢別に言語発達の道筋を学ぶ。各年齢にふさわしい絵本を紹介する。言語的応答性についての課題(google classroom)
11: 対人関係の発達と保育　(人間関係)	人と関わる力を身に付けていく為の援助の在り方や、好奇心や探求心を育てる為の環境とのかかわりについてのレポート(google classroom)
12: 乳児保育と指導計画　(入園時の面接　・　個別支援計画) ※	入園の際の面接はどのようになされるのか、ロープレする中で体験的に学ぶ個々の状態をとらえ、個別支援計画を作成する(google classroom)
13: 乳児保育に関わるねらい及び内容 ※	指針改定により3歳未満児の保育は「乳児」と「1歳以上3歳未満児」として記載されています乳児の発達を押さえどうかかわっていくのか指針を読みましょう
14: 保護者との連携　(連絡帳の書き方) ※	連絡帳は保育園と家庭を結ぶメッセージであり、園での様子や保育士の願いを伝える連絡帳を書く。連絡帳作成課題(google classroom)
15: 地域の子育て ※	地域の子育て支援でできる遊び道具を作成(google classroom)

＊準備学習についての補足説明
・準備学習は課題に対して30分～1時間調べたり、じっくりと考えることが大切です。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書　:　テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考図書 :　萌文書林　養成校と保育室をつなぐ理論と実践　乳児保育

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50%　授業の取り組み・レポート提出(提出期限厳守)30%　グループ学習の取り組み20%による総合評価
学習の意欲は授業の取り組み・グループ学習の取り組みの中で判断する。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

・google classroomに提出された課題は個別にコメントを行います。またレポート課題は基本的にPCで作成し、提出に関してはgoogle classroomを利用します。
・乳児保育Ⅲでは乳幼児時期における愛着(アタッチメント)と非認知的な心の発達について保育の実践例を加え、より専門性を深める授業です。
・※印はアクティブラーニングの手法を用いた演習です。事前学習を行い積極的に参加してください。
・保育現場で生かすことができる様遊びの紹介やグループワークや　DVDなどを取り入れた授業です。
・課題やレポート提出期限は厳守すること。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
特別支援教育総論	CH04113	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
濱田　尚志		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

特別の支援を必要とする幼児が、幼稚園・保育所において集団の良さや達成感をもちながら生活し、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の生活上の困難を理解し、個別のニーズに対し、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための必要な知識や支援方法を学ぶ。
障がいはないが母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児の困難と対応についても学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

1特別の支援を必要とする幼児の障がいの特性が理解できている
2特別な支援を必要とする幼児の発達について理解できている
3特別な支援を必要とする幼児の支援方法が理解できている
4障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児の生活上の困難と対応について理解できている

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:障がいの概念と歴史的変遷、合理的配慮について	障がいの概念に関する課題
2:特別支援教育制度(インクルーシブ教育システムを含む)、障害児保育の基本	福岡市の特別支援教育制度についての課題
3:視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を持つ幼児の心身の発達及び心理的特性	視覚障がい・聴覚障がいに関する課題
4:視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を持つ幼児の学習上又は生活上の困難について	肢体不自由児に関する課題
5:発達障がいを持つ幼児の心身の発達及び心理的特性	発達障がいに関する課題
6::発達障がいを持つ幼児の学習上又は生活上の困難について	発達障がいを持つ子どもの生活面の問題に関する課題
7:発達障がいの幼児に対する支援の方法	発達障がいの支援方法に関する課題
8:知的障がいや肢体不自由の幼児に対する支援の方法	肢体不自由児の支援に関する課題
9:発達障がいを持つ幼児のニーズを踏まえた個別の指導および支援計画	個別支援計画に関する課題
10:知的障がいや肢体不自由の幼児の幼児のニーズを踏まえた個別の指導及び支援計画	個別支援計画に関する課題
11:教育課程・保育課程における配慮	教育課程・保育課程における配慮に関する課題
12: 園内における支援体制、保育カンファレンス	保育カンファレンスについての課題
13:母国語や貧困の問題など特別な教育ニーズのある幼児に対する理解と支援	母国語についての配慮に関する課題
14:特別な教育ニーズのある幼児の保護者に対する理解と支援 グループワーク:言葉の問題を持つ保護者への行事お知らせプリント作成	特別な教育ニーズについての課題
15:関係機関や家庭、園の職員等との連携	連携に関する課題

＊準備学習についての補足説明
準備学習は各回45分以上行うこと。復習課題を毎回出します。課題はプリントまたはGoogleclassroomにて提出してください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「障がいのある子どもの保育・教育の実践」中山智哉他,学文社

参考図書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(上記内容1-15について、学習成果1-4 の観点から出題)70%
提出物20%
学習の意欲10%:私語、授業中の携帯電話の使用は減点の対象とします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出物のうち他の学生の参考になるものは授業内で紹介します。
Googleclassroomにて提出された課題は個別にコメントを行います。
実習以外の援助活動(ボランティア活動等)にも取り組むと良いでしょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
子どもの理解と援助	CH04115	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
姫島　源太郎		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

2年

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

本科目は、保育士が子どもを理解するために必要な発達や学びの基礎理論を習得し、それをもとに子どもを理解することの意義を説明できるようになることを目的とする。
そして、その理解をもとに子どもの発達を促すための援助方法や態度を身につけられるようにする。

Ⅲ. 学習成果

1. 子どもの心身の発達と保育実践の関連について答えることができる
2. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を説明できる
3. 保育場面における援助について説明できる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 幼児理解と関わりにおける教育心理学の意義 :多面的に発達を見る視点を身につける、理解と養護・教育の一体的展開	幼児理解に基づいて保育実践がなされているということについて、保育実習Ⅰの経験をふまえて自分の考えをまとめる
2: 認知機能の発達(1) :ピアジェの基礎理論、同化と調節、シェマ	同化と調節とはどのようなことを指すか、具体例を考えてくる(事後学習)
3: 認知機能の発達(2) :ピアジェの発達段階	ピアジェの各発達段階に見られる特徴的な子どもの行動についてまとめる(事後学習)
4: 認知機能の発達(3) :発達の最近接領域、ヴィゴツキーの理論	発達の最近接領域を意識した子どもへの援助についてまとめる
5: 記憶・学習・思考の理論(1)、小テスト :前単元の小テスト、記憶の諸理論	「認知機能の発達」の復習(小テストを実施)
6: 記憶・学習・思考の理論(3) :古典的条件づけ(ディスカッションと発表)	コマーシャルと条件づけの関連についてまとめる。報酬・罰と条件づけの関連について具体例をあげてまとめる(事後学習)
7: 記憶・学習・思考の理論(3) :オペラント条件づけ(ディスカッションと発表)、モデリング	強化、罰などの学習が教育や保育の中でどう活用されているかの事例をまとめる(事後学習)
8: 記憶・学習・思考の理論(4) :推論の種類、メタ認知と省察	実習において反省会、ふりかえりがどのようになされていたかをまとめてくる
9: やる気を出すにはどうすればいいか(1)、小テスト :前単元の小テスト、内発的動機づけと外発的動機づけ(ディスカッションと発表)	「記憶・学習・志向の理論」の復習(小テストを実施)
10: やる気を出すにはどうすればいいか(2) :原因帰属、locus of control、学習性無力感(ディスカッションと発表)	子どもたちに学習性無力感が生じてしまう保育者の言葉かけとは何か、自分の考えをまとめて議論できるようにしておく
11: 自分を好きになる(1)、小テスト :前単元の小テスト、自尊感情(ディスカッションと発表)	「やる気を出すにはどうすればいいか」の復習(小テストを実施)
12: 自分を好きになる(2) :自己効力感、コンピテンシー(ディスカッションと発表)	自尊感情と自己効力感の異同について学んだことをまとめ、説明できるようにしておく(事後学習)
13: 人格の基礎理論(1)、小テスト :前単元の小テスト、人格理解の基礎	「自分を好きになる」の復習(小テストを実施)
14: 人格の基礎理論(2) :防衛機制の理解	防衛機制の復習を行い、自分たちの生活の中に現れている心の働きを見つけ、記述してくる
15: 人格の基礎理論(3)、小テスト、まとめ :防衛機制の理解、本単元の小テスト	「人格の基礎理論」の復習(小テストを実施)

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。特に小テストの前は十分に復習すること。内容の詳細は毎回の授業で説明します
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(学習成果1-3の観点から出題)50%
小テストもしくは小レポートの提出25%　学習の意欲25%
過度な私語、授業中の携帯電話の使用は「学習の意欲」に欠けるものとみなします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

小テストは自己採点後提出し、教員が確認してフィードバックします
小レポートや授業中に取り組む課題については、抜粋し教員が全体にフィードバックします
google classroomを使用した課題の提出、小テストの復習用教材の提供を行います

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育実習指導Ⅱ	CH04118	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
梅田　美穂　他		履修要件他:			
専任教員		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識と技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育実習Ⅰの学びを深め、保育士として実践力を養うために、子ども理解、指導計画の立案、保育実践について演習形式で授業を行う。

実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー守秘義務等について理解する。
実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。

Ⅲ. 学習成果

1. 保育実習Ⅰを踏まえた学習の意義と目的を理解し、すでに学んだ教科の内容と関連付けて、子どもの発達に応じた保育内容を考え、指導案を作成することができる。
2. 保育の知識、技術をいかした保育実践の力を習得し、保育士の専門性と職業倫理について考えを述べることができる。
3. 保育観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、考えを述べることができる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:保育実習Ⅰでの実習体験により保育実習を総合的に学ぶ 保育実習Ⅰの振り返りを基に保育実習Ⅱの意義と目的を考える。	保育実習Ⅰを振り返りレポートにまとめる
2:観察実習総括① 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り:実習体験(観察、部分保育)を振り返る	保育実習Ⅰの振り返りレポートをもとに観察実習についてまとめる
3:観察実習総括② 保育実習Ⅰ(保育所)の振り返り:実習体験(観察、部分保育)を振り返る	保育実習Ⅰの振り返りレポートをもとに観察実習についてまとめる
4:部分実習総括① 保育所の振り返り	保育実習Ⅰの振り返りレポートをもとに観察実習についてまとめる
5:部分実習総括② 部分実習総括:自己評価、課題設定	保育実習Ⅰの振り返りレポートをもとに観察実習についてまとめる
6:「保育実習Ⅱ」の実習内容について① 「保育実習Ⅱ」の内容と今後の方向性について確認する	保育実習Ⅰの振り返りをもとに各自が実習の総括をレポートにまとめる
7:「保育実習Ⅱ」の実習内容について② 保育所保育指針を深く理解し、子どもの発達について知る	保育所保育指針を熟読し子どもの発達につてまとめる 未満児の発達についてまとめる
8:「保育実習Ⅱ」の実習内容について③ 保育所のディリープログラムを知り指導実習の計画を立てる(乳児)	保育所のディリープログラムを知り、乳児の生活についてまとめる
9:実習施設(保育所の機能)を理解する 保育所の役割を理解し、DVD鑑賞等により乳幼児の生活について理解する	保育所での子どもの様子についてまとめる
10:保育士の専門性と役割、職業倫理について理解する 保護者とのコミュニケーション、子育て家庭への支援とその対応について学ぶ	保育士の業務内容を理解する
11:「保育実習Ⅱ」に向けた課題の明確化と課題設定をする 実習において達成する自己課題を明確にする	「保育実習Ⅰ」での自己評価をもとに「保育実習Ⅱ」の自己課題を設定する
12:実習録の書き方 実習記録の意義、方法を具体的に学ぶ	「保育実習Ⅰ」での実習録をもとに記録の取り方や自己課題を考える
13:指導案作成 保育計画、指導計画(参加、総合)について理解する	参加実習の「指導案を」立てる 総合実習の指導計画を立て責任実習(全日実習)を考える
14:実習ガイダンス。必要書類の配布(腸内細菌検査について) 事務手続きについて理解し、実習の心構えについて確認する。	実習に必要な指定された書類を準備し確認する 実習に対する心構えについてまとめる
15:「保育実習Ⅱ」に向けて巡回担当者ガイダンス 教員の巡回指導についての意義や内容について理解する。	実習録に必要事項を記入し、必要書類を確認する 実習生必携カードを準備し巡回担当教員に渡す

＊準備学習についての補足説明
自主実習、ボランティアなどを通して、普段から乳幼児と関りを持つようにしましょう。毎回、30分以上の自宅学習が必要である。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)
「やさしい保育の教科書＆ワークブック保育所実習の事前・事後指導」佐藤賢一郎著(北大路書房)
その他教員作成資料

Ⅵ. 評価方法と評価基準

課題、書類等の提出　50%　　学習の意欲 50%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

書類、提出物の提出期日は厳守すること。指導案等の課題に対しては添削します。
保育実習Ⅱに向けた大切な授業です、授業は全て出席するよう心がけて下さい。
「実務家教員科目」特記事項:幼稚園教諭勤務経験、保育所勤務経験、母子生活支援施設勤務経験あり。現場で実習する際の実習生の動きなど、事例を紹介しながら指導を行っている。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育実習指導Ⅲ	CH04119	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
姫島　源太郎　他		履修要件他:			
専任教員		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

施設実習の目的と意義を理解し、施設保育士の役割について総合的に学ぶ
1年次の保育実習Ⅰの事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、施設保育に対する課題を明確にする
施設保育の実践や事例を通して、保育実践力を養うとともに、施設保育士の専門性や職業倫理について理解を深める

Ⅲ. 学習成果

1. 施設利用児童に対する援助内容について説明できる
2. 施設保育の課題について説明できる
3. 施設保育士の専門性と職業倫理について説明できる
4. 自分なりの施設保育の基本と方向性を説明できる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:「保育実習Ⅰ」(実習指導及び実習代替授業)の振り返り:評価と反省 :保育実習Ⅰ(児童福祉施設)の自己課題を振り返り、保育実習Ⅲの課題設定を行う	「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)の自己課題を振り返りながら、実習で身についたことを確認し、残された課題を洗い出す
2:「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)の振り返り:施設の役割と機能 :児童養護施設の役割や機能について検討を行う(ディスカッション)	実習した施設の役割と機能について各自まとめてくる
3:「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)の振り返り:保育士の役割と専門性 :保育実習Ⅰ代替授業で学んだ保育士の役割と専門性について検討を行う(ディスカッション)	「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)で学んだ施設の保育士の役割を各自まとめてくる
4:「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)の振り返り:施設の児童理解 :保育実習Ⅰ代替授業で学んだ施設の児童理解について検討を行う(ディスカッション)	「保育実習Ⅰ」(児童福祉施設)で学んだ施設に入所している子どもたちの特徴についてまとめてくる
5:「保育実習Ⅲ」(児童福祉施設)の実習内容について(1) :保育実習Ⅲの実習先施設について学ぶ	実習施設の種類、その根拠法、養護内容についてまとめる
6:「保育実習Ⅲ」(児童福祉施設)の実習内容について(2) :保育実習Ⅲの実習先施設の種類、その養護内容について学ぶ	自らが実習する施設の理念や目的について調べてくる
7:子どものニーズとその背景、その対応について(養護系)(1) :養護系施設に入所する子どもたちの背景を考える(各自で調べる)	児童養護施設に入所する子どもたちの背景について、各自で調べてくる
8:子どものニーズとその背景、その対応について(養護系)(2) :前回調べてきた事柄についてのディスカッション	調べたことをレポートとしてまとめ、提出(事前)、授業時間のディスカッションの内容を反映し、まとめる(事後)
9:子どものニーズとその背景、その対応について(情緒障害)(1) :情緒障害とは何か考える(各自で調べる)	情緒障害とは何か、各自で調べてくる
10:子どものニーズとその背景、その対応について(情緒障害)(2) :前回調べてきた事柄についてのディスカッション	調べたことをレポートとしてまとめ、提出(事前)、授業時間のディスカッションの内容を反映し、まとめる(事後)
11:保護者支援:支援と連携について :施設利用児者の家族、保護者に対する支援について検討を行う(ディスカッション)	施設職員と家族の関わりについて、代替授業で学んだことをまとめ、議論の材料とする
12:他専門機関や地域との連携について :児童福祉施設と連携する諸機関について学び、検討を行う	児童福祉施設に関連する機関には何があるか、本やインターネットで調べてくる
13:施設保育士の職業倫理 :施設保育士の職業倫理を学び、実習生の倫理を考える(ディスカッション)	施設保育士の職業倫理、守秘義務についてまとめるとともに、実習生にもとめられる倫理について議論ができるよう準備しておく
14:「保育実習Ⅲ」の実習目標、課題の作成 :保育実習Ⅲに向けた実習目標、課題、計画の設定を行う	保育実習Ⅲの実習目標を考える
15:「保育実習Ⅲ」の実習目標、課題の相互確認、計画、確認 :前回作成した実習目標について実習生同士で確認し、ディスカッションする	保育実習Ⅲの前に必要な準備を再度整える(事後学習)

＊準備学習についての補足説明
準備学習は各回30分以上行うこと。内容については毎回説明します
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:『施設実習ガイド　保育者として成長するための事前事後学習』 駒井美智子編著　萌文書林
参考図書:『学生・養成校・実習園がともに学ぶ　これからの時代の保育者養成・実習ガイド』 大豆生田啓友編著　中央法規

Ⅵ. 評価方法と評価基準

レポート・課題の提出　50%
学習の意欲　50%
過度な私語、授業中の携帯電話の使用は「学習の意欲」に欠けるものとみなします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

保育実習Ⅲ(施設実習)に臨むための大切な授業です。すべて出席することが原則です
課題、レポートの提出期限は厳守すること

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
発達心理学Ⅱ	CH05102	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
姫島　源太郎		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育者が子どもの健全な発達を支援していくにあたり、重要なことのひとつが保育者自身の心身の健康である。この講義では、保育者のストレスや職務上出会うであろう困難な事例について考えながら、保育者自身の保育という仕事への向き合い方と、そこから生じるストレスにいかにして対処していくかを学ぶ。その際、自分自身を知り、自分にあったストレスへの対処ができること、状況に応じた対処ができることといった柔軟性を身につけるべく演習等をとりいれながら進めることとする。

Ⅲ. 学習成果

1　保育者に起こりやすいストレスの状況や背景について説明できる
2　保育者自身が感じやすいストレスやその影響について把握し、自覚することができる
3　保育を困難にするような事例に対して、建設的な見立てと対処を考えることができる
4　災害等、園・施設全体を揺るがすような深刻な状況における、子ども・保育者への(心理的)影響を学び、その対処法を身につけることができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 保育の質の向上とメンタルヘルス :保育の質の向上と保育者自身の心身の健康の関連	保育の質を向上させることと保育者の心身の健康がどのように関連しているか、自分の考えをまとめる
2: ストレスを知る(1) :ストレスとは何か、ストレスのメカニズム(ディスカッションと発表)	ストレスにはどのようなものがあるか、現在の自分をふりかえり体験を発表できるようにする
3: ストレスを知る(2) :抗ストレスとはどういうことか(ディスカッションと発表)	ストレスに対処するにはどのような方法があるか、現在の自分をふりかえり体験を発表できるようにする
4: バーンアウト :バーンアウトの概念の理解	バーンアウトが生じてしまう背景を理解し、防止するためにはどのような方法が有効かを考え、まとめてくる
5: 感情労働とは何か :感情労働の理論、保育における感情労働とは	感情労働が生じやすい職業にはどのようなものがあるか、ホックシールドの理論をもとにして自分の考えをまとめる
6: 子どもとの関わりにおける感情労働 :子どもとの関わりの中で生じるストレスについて考える(ディスカッションと発表)	子どもとの関わりの中でどのようなストレスが生じるか、実習などの経験をもとにして考えを発表できるようにしておく
7: 保護者・同僚との関わりにおける感情労働 :保護者・同僚との関わりにおけるストレス(ディスカッションと発表)	保護者との関わりの中でどのようなストレスが生じるか、実習などの経験をもとにして考えを発表できるようにしておく
8: ストレスを知る(3) :うつ病等のストレスが関連した疾患について学ぶ	うつ病について授業で学んだことをもとに、必要な対応についてレポートを作成する(事後学習)
9: 自己理解、セルフメンテナンス(1) :自分の性格やストレスの傾向を理解する(演習とグループワーク)	自分の性格やストレスの傾向を知る演習を行い、そこから気づいた自分の特徴をまとめる(事後学習)
10: 自己理解、セルフメンテナンス(2) :ストレスがかさんだときにどう対処すべきかを考える(演習とグループワーク)	自分の傾向をふまえて、自分にはどのようなストレス対策が有効かを考えてまとめる(事後学習)
11: 理解が難しいとされる事例を考える(1) :事例をもとに子ども理解と対処を考える(演習とグループワーク)	理解が難しいとされる事例について、どう見立ててどう対処すべきか、まとめてくる
12: 理解が難しいとされる事例を考える(2) :前回のレポートの発表、フィードバック	前回の授業をもとに、課題に取り組む
13: 理解が難しいとされる事例を考える(3) :映像教材を見てレポートを作成する	授業で視聴した教材についてレポートを作成する(事後学習)
14: 心の危機から子どもを守る(1) :事件事故、災害等による子どもの心身の反応の基本	子どもたちに心理的危機をもたらすできごとには何があるか考え、それに関連する記事などを紹介できるようにしてくる
15: 心の危機から子どもを守る(2) :事件事故、災害後に保育者ができることは何か(ディスカッションと発表)	心理的危機の後の子ども支援について、ニュース等の事例を調べて紹介できるようにしてくる

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。レポートはgoogle classroomで提出する
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定レポート(到達目標1－3 の観点から出題)50%
小レポートの提出25%　学習の意欲25%
たびかさなる私語、授業中の携帯電話の使用は「学習の意欲」に欠けるものとみなします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

小テストは自己採点後提出し、教員が確認してフィードバックします
小レポートや授業中に取り組む課題については、抜粋し教員が全体にフィードバックします
google classroomを使用した課題の提出を行います

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
子どもの健康と安全	CH06102	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
緒方　まゆみ		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している ○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1 さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2 その1 必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2 その2 「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

子どもの健康増進や安全に関わる保健活動の計画や評価について、講義と演習を取り入れて具体的に授業を進めていきます。保育の現場では、子どもの健康・安全の確保が生活の基本です。そのために、子どもの心身の発育・発達を促し、子どもの病気とその予防、及び対応法や救急時の対応、事故防止、安全管理について具体的に学びます。また、現代社会における心身の健康問題や地域保健活動についても理解を深めていきましょう。 将来母親になった時の育児の参考にもなるでしょう。

Ⅲ. 学習成果

1 発達段階に応じた日常生活の養護・支援技術が実践できる。
2 子どもの健康状態の把握、子どもの疾病とその予防、および対応について説明できる。
3 救急時の対応や事故防止、安全管理について説明できる。
4 集団保育における健康管理・健康教育・保健活動計画について説明できる。
5 心の健康問題や地域保健活動等について説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 本科目について説明・導入を行う。子どもの健康と保育の環境。 本科目を学ぶ意義や評価方法について説明を行う	望ましい保育環境とは何かを考えてみる。幼稚園・保育所の設置基準について比較しながら理解する
2: 子どもの保健に関わる健康と安全・衛生管理 子どもに多い感染症等を見据え衛生管理についてディスカッションを行う	衛生管理の考え方について学び,自身の衛生管理に当てはめてみる。
3: 事故防止と安全対策 不慮の事故にはどのようなものがあるか、その予防策についてディスカッションを行う	子どもの日常で起こりやすい事故について調べ、その対応策を調べる。事故の現状を近年のデータ等を踏まえて理解する
4: 災害への備えと危機管理 災害体験などを出し合い、災害に対す裏備えについてグループワークを行う	予測される災害について過去の出来事なども考慮して考えてみる 危機管理災害対策など具体的に理解する
5: 子どもの体調不良への対応ーおもな症状と対応ー 子どもに多い発熱、腹痛、下痢、嘔吐、発疹等の対応方法について具体的対応を学ぶ	自分自身の体調不良時の症状についてかんがえてみる。子どもの体調について観察のポイントについて考える。
6: 子どもの体調不良への対応ー応急処置ー 子どもの時期に多い怪我、やけど、打撲等の応急手当について演習を通して学ぶ	応急処置が必要な場合はどのような時か、また自分の周囲で起きた経験についても考えてみる。
7: 救急処置及び救急蘇生法の習得(AED対応) 救急の場合の処置について学び、関連するDVD視聴を通して蘇生法の演習を行う	AEDについて図書館等を利用して調べておく。
8: 子どもと薬:飲み薬、塗り薬への対応 保育園等でも依頼を受けて取り扱う薬について演習を通して学ぶ	自分自身が服用したことのある薬について調べてみる。
9: 感染症の予防と対策ー集団発症の予防 感染症に関するDVDを視聴し保育園などの集団での予防策についてグループワークを行う	自身が体験したことのある感染症について母子健康手帳などを使い調べておく
10: 感染症の予防と対策ー3大要因に対する対策 病原体、感染経路、宿主について、およびその予防についてディスカッションを行う	感染症の要因にはどのようなものがあるか調べる。また、感染症対策やガイドラインを近年のデータベースをもとに理解する
11: 3歳未満児への対応ー抱っこ、排せつ、入浴ー 乳児の抱っこの基本、オムツ交換の方法などを演習を通して学ぶ	機会があれば3歳未満児と接してみる。または映像などを観てみる
12: 3歳未満児への対応ー抱っこ、排せつ、入浴ー 抱っこ、オムツ交換の技術に加え沐浴の方法を演習を通して学ぶ	ドラッグストアー等で、抱っこ、排せつ(おむつなど)、入浴に関するグッズを調べてみる
13: 特別な配慮を必要とする子どもへの対応 ーアレルギー疾患、循環器疾患、てんかん等ー	アレルギー疾患やてんかんについて図書館等を利用して情報を集めておく
14: 障がいがある子どもへの対応 ー身体障害、発達障害、重症心身障害などー	発達障害について図書館等を利用して情報を集めておく
15: 健康安全への取り組みー組織や地域連携ー ー母子保健法とその活用について福岡市以外の例を調べるー	地域保健活動について自分の居住地域の情報を集めておく

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。内容については毎回の授業で詳しく説明します。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書:小林美由紀・他 『子どもの健康と安全演習ノート』(改訂第2版) 診断と治療社
参考書:巷野悟郎『保育のための救急傷病看護ハンドブック』 同文書院 ＊その他の参考書は適宜紹介します

Ⅵ. 評価方法と評価基準

期末試験(70%) レポート(20%) 受講態度、演習に取り組む姿勢(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

実技演習はグループ編成で行います。演習後に提出する課題レポートは評価しフィードバック後に返却します。
グループワーク、実技演習は積極的におこないましょう。
授業中の私語、スマートフォンの使用、長時間の居眠りは減点の対象です。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育内容Ⅰ（健康）	CH07102	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
中村　洋子		履修要件他:	保育士必修		
竹村　亮子		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

昨今、社会生活や環境の変化により、子どもたちが健康な心と体を育む機会が減少し、運動能力や身辺自立の低下が問われている。現代の乳幼児・幼児期の子どもたちが健康な生活習慣を獲得し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことができるよう、保育者としてどのような働きかけ、心や身体を動かす経験づくり、工夫が必要であるかを学習する。

Ⅲ. 学習成果

1、指針に基づき、健康の領域を実際の保育現場に即した形で理解できる
2、1の内容を第三者（保護者や職場関係）に理解できる形で伝えるプレゼンテーション能力（話す・文章化する・まとめる）を身につける。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: オリエンテーション　第1章　子どもの健康とは　ねらい・内容について A.C.P（アクティブ・チャイルド・プログラム）について	予習:　教科書　「はじめに」を読んでおく 復習:　A.C.Pの指定サイトを閲覧
2: 第2章　領域「健康」とは　各年齢段階ごとのねらい・内容　など ・A.C.P実践	復習:　領域　「健康」のねらいと内容をまとめる 復習:　A.C.Pの指定サイトを閲覧
3: 第3章　子どものからだと発育発達 ・子どもの心と身体の発達を促す場面　・A.C.P実践	予習:　幼児期運動指針の重点事項の要約 復習:　A.C.Pの指定サイトを閲覧
4: 第4章　実習：乳幼児期の生活と健康 ・乳幼児向け応急処置手当（対面実習orオンライン実習）	予習:　課題①応急手当WEB講習を受講➡修了書をWEB提出 復習:　資料をもとに実技の手順の復習を行う。
5: 第5章　子どもを取り巻く環境と健康　小テスト①（オンライン） ・A.C.P実践	予習:　居住自治体における子育て支援・行政の相談支援機関を調べる 復習:　小テスト①再チャレンジ（満点にする）
6: 第6章　子どもの基本的生活習慣と健康 ・A.C.P実践	予習:　課題②課題テーマについて調べ、レポートを作成（WEB提出&授業時提出） 復習:　教科書第6章を読む
7: 第9章　子どもの課外活動体験と健康 ・A.C.P実践　・前半の振り返り　レポート課題添削・修正作業	予習:　教科書第9章を読む 復習:　課題③（動画提出）➡子ども健康とは（3分以内）
8: 第7章　子どもの運動・体力と健康 ・A.C.P実践	予習:　A.C.Pの指定サイトを閲覧 復習:　幼児期運動指針の重点事項の理解
9: 第8章　子どものあそびと健康　小テスト②（筆記） ・A.C.P実践	予習:　小テスト②対策（これまでの振り返り） 復習:　小テストの誤答箇所の復習
10: 第10章　子どもの食と健康 保護者又は子ども向け啓発資料の作成（グループワーク）	予習:　教科書第10章を読む 復習:　課題④啓発資料作成準備（参考資料、文献の調査・収集）
11: 第11章　子どもの睡眠と健康 保護者又は子ども向け啓発資料の作成(グループワーク)	予習:　教科書第11章を読む 復習:　課題④啓発資料（動画又はプレゼンソフト）素案作成
12: 第12章　子どもの病気とケガ 保護者又は子ども向け啓発資料の作成(グループワーク)	予習:　教科書第12章を読む 復習:　課題④啓発資料作成及びプレゼン練習
13: 第13章　特別な配慮を要する子どもとは 保護者又は子ども向け啓発資料の作成(グループワーク)	予習:　教科書第12章を読む・動画撮影（課題提出準備） 復習:　課題④啓発資料WEB提出　評価シート記入
14:　プレゼンテーション学生間評価　ディスカッション ・A.C.P実践	予習:　全グループの動画を見て、評価シートに記入する 復習:　全授業内容・重要項目の確認。全提出物の確認
15: まとめ及び優秀プレゼンの解説、評価	予習:　テキスト及び配布資料を一読し、理解不足の箇所がないか確認 復習:　自分のグループの資料及びプレゼンの改善点を把握

＊準備学習についての補足説明

授業理解度を確認する小テストを2回、課題提出を4回（個人3回、グループ1回）行う。予・復習による理解の整理、課題作成及び提出スケジュール管理を各自行っておくこと。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「保育内容　健康」高橋弥生　臼井達矢　青鞜社　編著
「みんなで遊んで元気アップ！アクティブ・チャイルド・プログラム」ガイドブック　公益財団法人　日本体育協会
教員作成配布資料

Ⅵ. 評価方法と評価基準

小テスト（20%）　課題レポート（50%）　授業時の発言、課題発表時などのプレゼンテーションスキル（30%）

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

課題レポートに対し、授業内で少人数ごとに面談し、評価に対する相互理解を促す。
提出物の締め切り厳守（基準に満たない内容・提出遅れ・未提出は減点対象）。
A.C.P（アクティブ・チャイルド・プログラム）実践があるため、軽運動ができる服装で受講すること。私服で良いがスカート、ヒール靴は不可。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育内容Ⅱ（人間関係）	CH07103	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
梅田　美穂		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

・人間が人としてこの社会を生きていく上で、避けて通ることができないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人との関りが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。
・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。
・附属園に赴き、実際子どもと触れ合うことで、理論と実践を結び付ける。

Ⅲ. 学習成果

・保育内容「人間関係」のねらい及び内容について説明できる。
・「人間関係」に関する保育場面において、保育者の援助の仕方を主体的に考え、説明できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:オリエンテーション 子どもを取り巻く人間関係「人間関係」について学ぶ。	テキストP12-23を読み、わからない言葉をまとめる。
2:領域「人間関係」に求められるもの 3法令における「人間関係」について学ぶ。	テキストP24-35を読み、保育内容「人間関係」の変遷についてまとめる。 3法令を読み、違いを見つける
3:乳児期の人間関係について学ぶ 人間関係の発達、愛着の形成、0歳児の遊びについて学ぶ。	テキストP36-45を読み、わからない言葉をまとめる。 0歳児の遊びにとって、保育者が行う援助についてまとめる。
4:1歳以上3歳未満児の人間関係について学ぶ 人間関係の発達、遊びと生活を中心に体験する。	テキストP46-58を読み、わからない言葉をまとめる。 3歳未満児の遊びにとって、保育者が行う援助についてまとめる。
5:3歳以上児の人間関係について学ぶ 3歳以上児の人間関係の発達、遊びと生活を中心に体験する。	テキストP59-70を読み、わからない言葉をまとめる。
6:子どもの人間関係と社会性・道徳性について学ぶ 子どものものの考え方について、道徳性を中心に体験する。	テキストP71-82を読み、わからない言葉をまとめる。 「社会性」の発達についてレポートを作成する。
7:家庭や地域との関わり 保護者連携、専門機関との連携、地域とのかかわりについて学ぶ。	テキストP83-103を読み、わからない言葉をまとめる。
8:領域「人間関係」とは何か 構造や目標など、基本事項について学ぶ。	テキストP103-111を読み、わからない言葉をまとめる。
9:生活の中で育まれる力について 生活の中での役割や環境の工夫を中心に学ぶ。	テキストP112-122を読み、生活の中の役割についてまとめる。
10:遊びの中で育まれる力について 遊びの中で育まれる力と環境の工夫について体験する。	テキストP123-131を読み、保育の展開についてまとめる。
11:保育の展開と指導計画 指導案を立案する	テキストP132-141を読み、指導立案の留意点をまとめる 保育の展開の構想を考える
12:指導計画と保育実践 作成した指導案を元に、模擬保育を実践する	テキストP142-145を読み、保育の展開の構想を考える 指導案を完成させておく
13：保育実践の評価 PDCAサイクルについて学ぶ	テキストP145-149を読み、保育実践の評価のポイントをまとめる 保育実践の振り返りをする
14:多様な配慮と保育構想について	テキストP150-158を読み、個別の配慮の具体的な方法についてまとめる。
15：小学校生活への接続と地域連携について 豊かな人間性を育むために、保育者に求められること	配布資料（小学校学習指導要領）を読み、領域「人間関係」との関連についてまとめる。

＊準備学習についての補足説明
事前準備としてテキストに目を通し、目的意識をもって授業に臨みましょう。各回45分程度の予習時間を必要とする。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「ワークで学ぶ保育内容人間関係」菊地篤子（みらい）
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省（フレーベル館）、「保育所保育指針解説書」厚生労働省（フレーベル館）
「認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

Ⅵ. 評価方法と評価基準

定期試験　50%、 授業内の小テスト・レポート課題・提出物・意欲　50%

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

小テストは、次の授業で返却します。レポート課題、指導案は添削・講評し返却します。
自分の考えを自信をもって発言できるようにしましょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育内容Ⅴ（表現）	CH07106	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
黒木　知美		履修要件他:	保育士必修		
河野　博行		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ．本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ．概要

豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを、様々な形で表現する意欲を養い、創造性を豊かにするという観点から、特に「感性と表現」について、音楽と造形の実技を通して乳幼児の生活する姿を捉え、援助指導の方法を学ぶ。

Ⅲ．学習成果

・幼児の表現の中で、遊びを通した造形活動の援助、指導方法を、個と集団という観点で習得する。（造形表現）

Ⅳ．授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容		準備学習（予習・復習）内容
1:造形表現 遊びについて	音楽表現 感性と表現について	（造形）資料等を準備する。 （音楽）シラバス及び幼稚園教育要領・保育指針の領域（表現）部分を読みまとめておく。
2:遊びから造形表現活動へ	子どもの表現の芽生え 幼児理解	（造形）資料等を参考に表現についての理解を深める。 （音楽）乳幼児の発達について確認しておく。
3:絵本作りⅠ構想をねる	音楽遊び	（造形）絵本の下絵を考える。 （音楽）幼少時の遊びの種類について考えておく。
4:絵本作りⅡストーリー作成	歌うことについて①	（造形）資料、材料等を準備する。 （音楽）自分の幼少期に歌った印象に残っている曲を思い出して書き出しておく。
5:絵本作りⅢストーリー完成	歌うことについて②	（造形）絵本のストーリーを完成させる。 （音楽）自分が歌唱指導する事をイメージして、1曲指導案を考えておく。
6:絵本作りⅣ彩色	手作り楽器	（造形）絵本に彩色を施す。 （音楽）身の回りの音についての気付きや考えをまとめておく。
7:絵本作りⅤ完成	幼児の楽器について	造形）表紙を含め絵本を完成させる。 （音楽）自分が幼少期に体験した楽器についてのエピソードとともに思い出しておく。
8:音楽表現 感性と表現について	造形表現 遊びについて	（造形）資料等を準備する。 （音楽）シラバス及び幼稚園教育要領・保育指針の領域（表現）部分を読みまとめておく。
9:子どもの表現の芽生え 幼児理解	遊びから造形表現活動へ	（造形）資料を参考に表現についての理解を深める。 （音楽）乳幼児の発達について確認しておく。
10:音楽遊び	絵本作りⅠ構想をねる	（造形）絵本の下絵を考える。 （音楽）幼少時の遊びの種類について考えておく。
11:歌うことについて①	絵本作りⅡストーリー作成	（造形）資料、材料を準備する。 （音楽）自分の幼少期に歌った印象に残っている曲を思い出して書き出しておく。
12:歌うことについて②	絵本作りⅢストーリー完成	（造形）絵本のストーリーを完成させる。 （音楽）自分が歌唱指導する事をイメージして、1曲指導案を考えておく。
13:手作り楽器	絵本作りⅣ彩色	（造形）絵本に彩色を施す。 （音楽）身の回りの音についての気付きや考えをまとめておく。
14:幼児の楽器	絵本作りⅤ完成	（造形）表紙を含めを絵本を完成させる。 （音楽）自分が幼少期に体験した楽器についてのエピソードとともに思い出しておく。
15:自己評価、まとめ		（造形）授業を通して習得した内容をまとめ、保育現場での指導方法につなげていく。 （音楽）保育においてどのような展開ができるかを考える。

＊準備学習についての補足説明

河野　制作に必要な資料、材料は必ず準備しておく。　　黒木　準備物は忘れずに持参すること。

単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ．教科書・参考図書

河野　必要に応じて参考資料を配布。参考文献、教科書紹介

黒木　教員作成資料を配布。（各自でファイルを準備すること）

・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ．評価方法と評価基準

河野　提出作品（70%）　レポート（20%）　学習意欲（10%）

黒木　レポート等の提出物(50%)　授業態度や意欲(50%)

Ⅶ．その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

クラスにより造形表現先行クラスと音楽表現先行クラスがある。7回終了後に入れ替わり15回実施する。

造形表現は制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要である。

造形表現に於いて提出した課題は、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

音楽表現は授業終了後は必ず資料を読み直したり、曲については理解を深めるため各自復習すること。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
音楽Ⅲ	CH08103	開講時期:	前期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
黒木　知美　他		履修要件他:	保育士必修		
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

2年

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育を展開する上での具体的な方法や、表現技術を習得する。
授業は週2コマで、子どもの歌の弾き歌い(個人指導)と保育現場における様々な活動を支援するための簡易伴奏演習(コード付けを含む)の集団授業から構成される。初回授業で課題曲が提示されるのでその中から選曲をし、レパートリーを広げる。

Ⅲ. 学習成果

・子どもの歌を弾きながら歌い、レパートリーを増やす(生活・行事のうた、季節<春・夏>のうた等)
・常に子どもを意識したテンポと表現を探る
・ハ長調の主要三和音およびコードネームを理解し簡単な伴奏付けができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	シラバスに目を通しておく
2: 弾き歌い個人レッスン	課題曲の中から自分で選曲し、3～5曲練習しておくこと
3: メロディーとハーモニーについて	前回授業の復習(鍵盤楽器で練習する)
4: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
5: 和音・主要三和音	前回授業の復習(鍵盤楽器で練習する)
6: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
7: 属7の和音	主要三和音について復習し、覚えてくる
8: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
9: 非和声音について<経過音と刺繍音>	属7の和音と転回形について復習し覚えてくる
10: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
11: 非和声音について<倚音と逸音>	非和声音について復習し、他の曲で練習しておくこと
12: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
13: 非和声音について<練習問題>	非和声音について復習し、他の曲で練習しておくこと
14: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
15: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<基本>	非和声音について復習確認し、ノートや資料をまとめておくこと
16: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
17: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<例題①>	ハ長調の音階・カデンツの練習と簡易伴奏付けした曲を弾いて練習しておくこと
18: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
19: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<例題②>	ハ長調の音階・カデンツの練習と簡易伴奏付けした曲を弾いて練習しておくこと
20: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
21: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<応用①>	ハ長調の音階・カデンツの練習と簡易伴奏付けした曲を弾いて練習しておくこと
22: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
23: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<応用②>	ハ長調の音階・カデンツの練習と簡易伴奏付けした曲を弾いて練習しておくこと
24: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
25: ハ長調簡易伴奏の実践と変奏<応用③>	ハ長調の音階・カデンツの練習と簡易伴奏付けした曲を弾いて練習しておくこと
26: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
27: まとめ①	これまでの学びをまとめ、理解を深めておくことこと
28: 弾き歌い個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
29: まとめ②	すべての課題から学んだことをもとに応用練習しておくこと
30: 弾き歌い個人レッスン	試験の課題曲・自由曲を練習しておくこと

＊準備学習についての補足説明
日頃の個人学習の積み重ねが重要です。毎日欠かさず最低でも初心者は120分/日、経験者は90分/日、練習してください。
練習は1号館6階の練習室を使用してよいが、時間、その他決められたルールに従うこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「こどもの歌200」、「続こどものうた200」(小林美実編・チャイルド本社)
「ピアノテキスト　楽典・身体表現付」(カワイ出版)、必要に応じてプリント配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実技<ピアノ>および筆記試験<伴奏法>(80%)、自宅学習の取り組み【チェックシート】(15%)、学習意欲(5%)
出席については、ピアノ15回、伴奏法15回のそれぞれ75%以上で受験資格を与える

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業内容の理解に関して、フィードバックを行ないます。
授業中はお互いの演奏を聴き合い、学びを深めること。(ディスカッションを含む)
受講できる環境を常にととのえること。(長い爪、忘れ物、私語は減点対象とする)

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
子ども家庭支援論	CH03103	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
稲吉　真美子		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

講義を通して，子どもを育てる保護者や家族が直面しやすいことがらを理解し，支援の際に必要な視点や心がまえ、援助知識やスキルを実践的に身につけることを目指します。

Ⅲ. 学習成果

1　子育て家庭に対する支援の意義・目的を説明できる。
2　子ども家庭支援における保育者の役割と職務内容について把握し、養育者支援に活かすことができる。
3　子育て家庭の多様なニーズを理解し、さまざまな人々と連携した支援方法の基礎を習得する。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:子ども家庭支援とは、目的と機能について	(事前課題)保育所保育指針の第4章「子育て支援」を読み、重点的に配慮すべき事柄についてまとめる。
2:子ども家庭支援の意義と必要性	(事前課題)周りの子育て経験者に「子育てで心配だったこと」「不安だったこと」についてインタビューしてまとめる。
3:子ども家庭支援の基本的価値・倫理 （育ちの喜びを共有する、子育てを自ら実践する力の支援）	(事前課題)実習時に気になった子を思い起こし、自分だったらどう支援につなげるかを考えてまとめる。
4:支援時の基本的姿勢と態度 （保育の専門性を活かした支援と意義）	(事前課題)自分が人に相談する時に、相手にどう対応されると安心するかを考える。
5:支援時の基本的技術	(事前課題)教科書P31-37を読み、わからないワードを調べる。
6:園内・園外の連携・協力と社会資源	(事前課題)教科書P39-45を読み、どういった要因が虐待の引き金になりそうかを考えてまとめる。
7:連携に向けた記録と評価の方法	(事前課題)ステップファミリーの養育者が直面しやすい課題と、子どもが抱えやすい困難について調べる。
8:日常会話を活用した支援 （グループワーク:「電話連絡にトライしてみよう！」）	(事後課題)これまでの講義について、ワークシートの内容を整理・復習を行う。
9:文書を活用した支援 （グループワーク:「謝罪のお手紙を考えてみよう！」）	(事前課題)連絡帳に対して養育者が期待している内容を、ツイッターや、インスタグラム等SNSで調べる。
10:行事などを活用した支援	(事前課題)教科書P73-79を読み、保護者懇談会の内容を考える。
11:環境を活用した支援	(事前課題)教科書P81-87を読み、実習先でどんな環境的支援が行われていたかまとめる。
12:地域の子育て家庭への支援	(事後課題)就職先や居住地の子育て支援拠点のサービスを調べる。
13:要保護児童等及びその家庭に対する支援	(事前課題)施設保育士の役割と内容について調べ、養育者への支援内容についてまとめる。
14:通所施設における子育て支援	(事後課題)保育所にはどのような障がいを有する子どもが入所する可能性があるかを調べてまとめる。
15:まとめ　子ども家庭支援に関する現状と課題	(事後課題)ワークシートの○×問題など、これまでの内容を整理・復習する。

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回60分以上行うこと。
単位取得のためには,上の準備学習時間に自主学習を足した、計240分の学習が必要となります。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教科書: 二宮祐子 『子育て支援:15のストーリーで学ぶワークブック』 萌文書林
参考図書:保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領、幼稚園教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験 60%（上記内容1-15について、学習成果1-3 の観点から出題）
学習の意欲 20%（グループワークでの積極性・ボランティアなどの課外活動含む。授業中の携帯電話の使用、私語・居眠りは減点の対象とします。）
課題の提出 20%（提出期限に遅れた場合は、減点の対象となります。）

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出物のうち他の学生の参考になるものは授業内で紹介します。
実習以外の援助活動(ボランティア活動等)にも、ぜひ積極的に取り組まれてください。
状況により、講義内容の順番等で変更がある場合があります。その時は随時連絡します。
提出課題については、個別にコメントを行います。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
特別支援教育演習	CH04114	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
濱田　尚志		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

2年

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

特別の支援を必要とする幼児の特性と支援方法について、実習での経験も交えより具体的に学ぶ。
家族への支援、関係機関との連携、小学校との連携など、保育者として想定される具体的な動きについても学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

1特別の支援を必要とする幼児に対し、その理解を踏まえた支援方法について理解している
2保育現場における支援の実際について理解している
3家族の支援について理解している
4本人と保護者を支える専門機関やその他の社会資源について知識を持っている

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:障がい児保育の実際・合理的配慮の実際	実習先における経験についてまとめる
2:障がい児保育の実際・子ども同士のかかわりと育ち合い	集団のあり方についての課題
3:障がい児保育の実際・発達を促す生活や遊びの環境	発達を促す環境についての課題
4:教育課程・保育課程に基づく指導計画の作成と記録・評価	指導計画についての課題
5:保護者や家族に対する理解と支援	保護者の会について調べる
6:地域の専門機関との連携の実際と個別支援計画 地域の児童発達支援センターについて	専門機関を調べる
7:生涯を支える―サポートブックについて	サポートブックについて調べる
8:小学校等との連携	就学相談についての課題
9:本人と保護者を支えるネットワーク サークルの例	本人と保護者を支えるネットワークについての課題
10:保健・医療における現状と課題	保健・医療における現状と課題について調べる
11:福祉・教育における現状と課題	福祉・教育における現状と課題について調べる
12:事例をもとに考える グループワーク：歯みがきの手順を細分化する	事例から支援のあり方を考える課題
13:事例をもとに考える	事例から支援のあり方を考える課題
14:事例をもとに考える	事例から支援のあり方を考える課題
15:まとめ	事例から支援のあり方を考える課題

＊準備学習についての補足説明
準備学習は各回45分以上行うこと。毎回準備学習課題を出します。課題はプリントまたはGoogleclassroomにて提出してください。
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「障がいのある子どもの保育・教育の実践」中山智哉他,学文社（前期特別支援教育総論で使用したもの）

参考図書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験（上記内容1-15について、学習成果1-4 の観点から出題）60%
提出物30%
学習の意欲10%：私語、授業中の携帯電話の使用は減点の対象とします

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

提出物のうち他の学生の参考になるものは授業内で紹介します。
Googleclassroomにて提出された課題には個別にコメントを行います。
実習以外の援助活動（ボランティア活動等）にも取り組むと良いでしょう。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
子育て支援	CH04116	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士必修		
寺井　知香		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

保育所保育指針を通して保護者に対する「子育て支援」の基本を理解する。保育の専門性を有する保育士がその知識と技能を背景としながら行う保育指導、保護者への子育てや、保育相談についての支援の方法や助言について事例を通して学びます。
また、地域の保護者に対する子育て支援についても学びます。

Ⅲ. 学習成果

・子育て支援や保育指導の意義と原則について学び保護者支援の基本について理解する。
・子育て中の保護者の相談内容や方法について理解する
・事例を通して保育相談支援の実際について理解する
・保育士の専門性について理解を深める

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:授業ガイダンス 保育士の専門性について理解する	テキストの1章1節を読んで授業にいどむ 保育所保育指針4章を読む
2:子育て支援の実際を知る。 「現代社会と子育て」「子育ち」。これまでの子育て支援の施策について学ぶ	実習先での保護者との関わりについてまとめる
3:子育て支援の意義について学ぶ 専門職としての支援について	自分ができる保護者支援について考えをノートにまとめる 保育所保育指針4章を読みノートにまとめる
4:子どもの最善の利益について学ぶ 各々が考えた「子どもの最善の利益」を発表しながら意見を述べ合う	各々が考える子どもの最善の利益とはどういったものか レポートにまとめる
5:保護者との共感及び保護者の養育力向上への寄与とは 保護者の自己実現を支える保育者の専門性について理解する	現代の保護者がかかえる問題点についてまとめる
6:保育所の特性を生かした支援(DVD視聴) 親子関係の理解を深めるために保育者ができる支援について考える	現代の保護者がかかえる子育ての問題に対し、自分なりの 対応の仕方を考える
7:子育て支援の実際と方法①　連絡帳の書き方について DVDを視聴しその様子を連絡帳に書き、発表し批評しあう	実習先での園だより、連絡帳についてまとめる
8:子育て支援の実際と方法②　相談の受け方について 子育て支援の技術と留意点を理解する	保護者の子育ての悩みを調べ、その対応方法を自分なりに考えてくる
9:子育て支援の実際と方法③　相談の受け方について カウンセリング技法を理解しながらロールプレイを行う	テキスト4章を読んでまとめる
10:保育所における保育相談支援①事例研究 就労と子育ての両立、保護者理解について学ぶ	実習先・テキスト内での相談内容について考える
11:保育所における保育相談支援②事例研究 特別な配慮を要する子どもと保護者支援、コンサルテーションについて学ぶ	特別な配慮を要する子どもの支援についてまとめる
12:地域子育て支援における保育相談支援 講義＋調べた地域での子育て支援について発表し、情報を共有する	地域で行われている子育て支援について調べる 調べた内容は授業内で発表できるよう準備する
13:児童福祉施設における保護者支援 社会資源の活用と関係機関の連携について理解する	施設実習先で行われていた保護者支援についてまとめる
14:保護者支援の実際 虐待家庭の「課題図書」を読み、ディスカッション行い、保護者理解について学ぶ	課題図書を読み感想をレポートにまとめる
15:まとめ　保育と保育指導 保護者支援に求められる保育士の「豊かな人間性」について考える	支援者、援助者としての保育者である「自分」について考える 自分の目指す保育者像を明確にする

＊準備学習についての補足説明
日頃から子育てに関する様々な情報収集を心がけること。地域で行われている子育て支援に関心を持つこと。
支援者としての「自分」を意識しながら生活をする。 単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「シードブック子育て支援演習」太田光洋編著(建帛社)
「保育所保育指針解説」厚生労働省(フレーベル館)
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省(フレーベル館)

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験　60%　　学習の意欲、レポート等の課題提出　40%
いねむり、私語、スマートフォンの使用に際しては減点の対象とします。

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出した課題、またはレポートは各自またはグループで発表します。発表に際しては教員の講評をいたします。
日頃から「保育者としての自分」を意識するようにしましょう。
「実務経験教員科目」特記事項:幼稚園教諭勤務経験あり.授業第1回より第15回まで現場で行った事例を紹介している。第7回では実際に現場を想定した連絡帳を書いてみる。その他の回でも現場で求められる演習課題を学生に求め、ロールプレイを行う。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
保育・教職実践演習（幼稚園）	CH04205	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など 履修要件他:	幼稚園2種必修 保育士必修		
濱田　尚志		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	○
溝田　めぐみ/寺地　亜衣子/山田　裕美子					

2年

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

園長や現場保育者との意見交換を通して保育職の意義や役割、職務内容、子どもに対する責務等を理解する。事例研究において、短大での学びと実習での学びを往還的に理解する。模擬保育を通して保育者としての指導力を高める。集団としてまとめて行く手法について学ぶ。保護者や地域との連携・協力の重要性について学ぶ。30コマを2コマ連続の15回授業で行い、1時間目に受けた講演や講義内容をもとに、2時間目は個々で気づきや学びをレポートにし、それを小グループやクラスで発表し合う中で、学びを共有・深化させていく。

Ⅲ. 学習成果

・保育者としての使命感、責任感、教育的愛情を持って保育にあたることの重要性を理解している。
・協働力（他者との協力、コミュニケーション）が身に付いている。
・子どもの理解やクラスを経営する基礎力が身に付いている。
・様々な指導方法や保育の内容を理解した上で、子どもの姿からねらいや内容を考え指導計画を立案することを理解し、実際に立案できる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1:オリエンテーション 2:実習のふり返り・自己評価	2年次8･9月の総合実習をよくふり返り、 学びのレポートを書き上げ臨む。
3:講演「これからの保育者に望むこと」幼稚園園長 4:ディスカッション：講演を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	演題を元に、講演者に質問したいことを考えたり調べたりしておく。
5:講演「クラス運営・保育の展開」保育所所長 6:ディスカッション：講演を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	予習として、実習先で見聞きした「子どもの力を引きだす保育者の関わり」についてまとめておくこと。
7回目～14回目（4週目～7週目）：事例学習 学年を4グループに分け、グループ別に事例学習Ⅰ～Ⅳを1回ずつ受講する ◆事例学習Ⅰ「子どもの視点を活かした行事　～子どもの主体性の尊重～」 ◆事例学習Ⅱ「気になる子ども　～一人ひとりに合った援助～」 ◆事例学習Ⅲ「保護者支援　～保育者による保護者支援～」 ◆事例学習Ⅳ「保育環境　～環境を通して行う教育～」 ＊それぞれ授業・ディスカッション、発表、まとめを行う	Ⅰ「子どもの視点～」の復習は、授業後に主体性の尊重について関連書籍を読む（推薦図書は授業内で紹介）。 Ⅱ「気になる子ども」の予習として、「実習中に見聞きした個別支援」について各自まとめておくこと。 Ⅲ「保護者支援」の予習は、保護者支援に関するキーワード10個以上とそれを学んだ科目名をA4のレポート用紙1枚にまとめる。 Ⅳ「保育環境」には、保育・教育の基本である“環境を通して行う教育”について幼稚園教育要領を再度読み直して臨むこと。
15:懇談会「子育て中の保護者の思い」附属幼稚園保護者4名 16:ディスカッション：懇談会を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	幼稚園の保護者について質問したい内容を事前に想定しておく。
17回目～24回目（9週目～12週目：実践学習　（模擬保育） クラス別に実践学習Ⅰ～Ⅳを1回ずつ受講する ◆実践学習　（模擬保育）Ⅰ「おはなし、言葉遊び」 ◆実践学習　（模擬保育）Ⅱ「音楽遊び」 ◆実践学習　（模擬保育）Ⅲ「造形遊び」 ◆実践学習　（模擬保育）Ⅳ「保育の質の向上　～記録と自己評価～」 ＊それぞれ授業・ディスカッション、発表、まとめを行う	Ⅰ「おはなし、言葉遊び」の予習として、実習先で体験または観察した「おはなし、言葉遊びの工夫」をまとめること。 Ⅱ「音楽遊び」の予習として、実習先で体験または観察した「音楽遊びの工夫」をまとめること。 Ⅲ「造形遊び」の準備学習は、実施した指導案について、授業中に出たコメントを整理したり調べたりして現場で活かせるようにしておく。 Ⅳ「保育の質の向上」の準備学習は、保育の計画や記録の意義について、これまで受けてきた講義内容や実習をふり返って、まとめておく。
25:講演「地域ネットワークを活かした保護者支援」 26:ディスカッション：講演を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	復習として、現状の保護者支援の実態とその改善点についてまとめる。
27:講演「保育者としての成長・現職者研修について」幼稚園園長 28:ディスカッション：講演を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	就職後に行われる園内研修・自主研修について、どのようなものがあるか調べる。
29:OG懇談会「保育現場の話　～社会人としてのスタートに向けて～」 30:ディスカッション：講演を通して気づいたことや考えたことについて、発表・まとめ	自分自身の実践力の実際を再確認し、就職してからの自分の課題について明らかにしてみる。

＊準備学習についての補足説明
復習として、授業で学習した内容や配布プリントから要点・キーワードを別紙に抜き出し詳細を調べること、現場実習での具体事例を挙げてみることを行う。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎週必要とする。

Ⅴ. 教科書・参考図書

授業中に資料配布する。また、参考図書については授業中に随時紹介する。
参考図書：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

学びのレポート・課題の提出80%、学習の意欲（ディスカッションの参加度）20%
単位認定に当たっては、模擬保育、グループディスカッション、レポート等の内容を踏まえ、教員としての最小限必要な資質能力を身につけているかを確認したうえで行う。

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

各回の授業で提出された学びのシート（課題）は、フィードバックや評価後に返却するので、配付資料と共に各自でファイルし復習すること。

「実務経験教員科目」特記事項：
寺地教員は保育所での勤務経験がある。その経験から講演やディスカッション後に現場に即したコメントを行う。
事例学習・模擬保育においても、実際の保育現場での視点から解説・指導を行う。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
発達心理学Ⅲ	CH05103	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
入江　真之		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

1. 乳幼児の発達段階に応じて、対象児や家庭に行き届く保育活動を実践するために必要な発達心理学の知識を得る
2. 保育園や児童発達支援事業所など保育場面において、客観性のある発達の評価方法、具体的な保育援助方法を学ぶ

Ⅲ. 学習成果

1. 保育領域に関する発達心理学の基礎的知識を習得できる
2. 保育士が勤務する福祉サービスの中で必要な発達客観的評価手法について、その基礎を習得する
3. 乳幼児母子保健との連携の必要を理解し、地域と乳幼児施設との連携の必要を理解できる
4. 利用家庭の抱える心理社会的背景を理解し、保護者との対話を円滑に進める基本的な対話技術を学ぶ

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 保育というフィールドに出る前に(オリエンテーション) フィールドに出るために必要なものについてのグループディスカッション	学習した内容についてまとめる
2: 基礎知識:乳児院・児童養護施設・児童相談所・児童館・　子育て世代包括支援センター・児童発達支援事業所・放課後等デイサービス・放課後児童クラブ	実習園・就職園近辺にある機関について調査する
3: 今後新たに保育士の力が求められる領域 児童発達支援事業所と放課後等デイサービスの特性について	実習園・就職園近辺の児童発達支援事業所と放課後等デイサービスについて調査する
4: 保育士のおかれている社会的状況とそのミッションの重要性 子育て世代包括支援について	子育て世代包括支援についてまとめる
5: 「対象の気持ちをほぐし、笑顔になってもらう、できれば仲良くなる、 その状態に持っていく」技術の基本を学ぶ	技術の復習をする
6: 「話を最後まで聞く」「自分の考えを押し付けない」技術 ロールプレイを行う	ワークの復習をする
7: 客観的評価手法1　乳幼児支援の現場で使用される 「遠城寺式乳幼児分析的発達検査表」の使い方を学ぶ	技術の復習をする
8: 客観的評価手法2「田中ビネー知能検査」	検査の特徴、注意点をまとめる
9: 客観的評価手法3「新版K式発達検査」	検査の特徴、注意点をまとめる
10: 保育士のセルフケア技術:「十分な睡眠をとる方法」 「タッピング」「呼吸法」等、自身のからだと気持ちの回復について	学んだ技術を実践してみる
11: ケースフォーミュレーション:発達障がい1　オーダーメイドの対処法	学習した内容についてまとめる
12: ケースフォーミュレーション:発達障がい2　ケーススタディについて	学習した内容についてまとめる
13: ケースフォーミュレーション:構音障がいについて	学習した内容についてまとめる
14: ケースフォーミュレーション:小児期逆境体験	学習した内容についてまとめる
15: まとめ	学習した内容についてまとめる

＊準備学習についての補足説明
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「健診とことばの相談―1歳6か月児健診と3歳児健診を中心に―」中川信子　ぶどう社

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験50%、小テスト30%、提出物10%、学習の意欲10%

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出物はその後の授業で全体または個別にフィードバックします。
保育士が働くフィールドをバトルエリアに見立て、そのメタファーの枠組を利用して、必要な考え方・技術を身につけるための動機づけを高めていきます。
詳細は第1回目に説明します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
幼児理解と教育相談	CH05105	開講時期:	後期		
		形態:	講義	単位:	2単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
姫島　源太郎		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

臨床心理学では、1)幼児理解の意義と原理、2)幼児理解の方法、3)教育相談の理論及び方法を取り扱う。保育では個別的かつ総合的に子どもたちを理解していく必要があり、本講義ではその意義と理念が理解できることを目指す。また、発達心理学Ⅰ・Ⅱおよび教育心理学では平均的な子どもの姿を学んだが、実際的には子どもは様々な特性や個性を有しており、個別の理解を行うために必要な視点を身につける。さらに、その理解に基づいた個別対応の手段として教育相談を取り上げ、園での生活と遊びを考慮し、よりよい適応を支援する教育相談の基礎的手法を身につける。

Ⅲ. 学習成果

1. 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する
2. 幼児がつまづきやすい発達上の課題や問題を理解する
3. 幼児理解の方法を具体的に理解する
4. 幼稚園・保育所における教育相談の意義と理論を理解する
5. 教育相談を進める際に必要となる方法(受容・共感・支持等)を身につける

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: 幼児理解のための臨床心理学 :正常と異常、乳幼児の心理・発達支援における保育者の役割	乳幼児の心理・発達支援における保育者の役割に関して、これまで他教科で学んだことをまとめ、発表できるようにしておく
2: 子どもの発達上の課題、つまづき、精神医学的問題(1) :子どもの心身相関、子どもが経験しうる発達上の課題とは	子どもの発達上の課題とは何か、学んだことをもとに新聞、インターネット等で事例を収集する(事後学習)
3: 子どもの発達上の課題、つまづき、精神保健(2) :小児の心身症、排泄障害、習癖、チック	子どもの習癖にはどのようなものがあるか、具体例を調べてくる
4: 子どもの発達上の課題、つまづき、精神保健(3) :睡眠障害、場面かん黙、反応性愛着障害　等	場面かん黙の子どもへの対応について調べ、まとめてくる
5: 子どもの発達上の課題、つまづき、精神保健(4) :うつ状態(子ども、保護者)	うつ状態とはどのような状態か、子育てへの影響などを調べ、まとめてくる
6: 子どもたちの気になる様子をどう理解するか(1)、小テスト :前単元の小テスト、事例をもとに考える～言語発達の遅れ等(グループディスカッ	「子どもの発達上の課題、つまづき、精神保健」の復習(小テストを実施)
7: 子どもたちの気になる様子をどう理解するか(2) :事例をもとに考える～登園しぶり等(グループディスカッションと発表)	子どもたちの気になる様子について、実習の経験をまとめて発表できるように準備しておく
8: 子どもたちの気になる様子をどう理解するか(3) :事例をもとに考える～保護者理解等(グループディスカッションと発表)	子どもたちの気になる様子について、実習の経験をまとめて発表できるように準備しておく
9: 幼児理解の意義と方法(1) :前単元の小テスト、心理アセスメントとは何か、観察法、関与しながらの観察	「子どもの発達上の課題、つまづき、精神保健」の復習(小テストを実施)
10: 幼児理解の意義と方法(2) :発達検査・知能検査に触れる(ディスカッションと発表)	観察法の視点について重要な点をまとめる
11: 幼児理解の意義と方法(3) :知能検査の構成の理解、面接法	発達検査や知能検査の工夫について学んだことをまとめてくる
12: 教育相談・子ども援助(1)、小テスト :前単元の小テスト、セラピストの3条件、共感的理解(ディスカッションと発表)	「幼児理解の意義と方法」の復習(小テストを実施)
13: 教育相談・子ども援助(2) :傾聴、受容と共感、支持(ロールプレイ)	グループワークの体験をまとめ、発表する 参考動画を視聴し、そこからわかることについて発表する
14: 教育相談・子ども援助(3) :わかるとはどういうことか、コミュニケーションとしての遊び	遊びによる子どもとのコミュニケーションについて、実習での経験をもとにまとめる
15: 教育相談・子ども援助(4)、他職種連携、小テスト、まとめ :遊びに見る子どもの心、自己理解、小テスト、全体のまとめ	「教育相談・子ども援助」の復習(小テストを実施)

＊準備学習についての補足説明
準備学習は、各回30分以上行うこと。特に小テストの前は十分に復習すること。内容の詳細は毎回の授業で説明します
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した240分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料を配布
参考図書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園保育・教育要領

Ⅵ. 評価方法と評価基準

単位認定試験(到達目標１－５ の観点から出題)50%
小テストもしくは小レポートの提出25%　学習の意欲25%
たびかさなる私語、授業中の携帯電話の使用は「学習の意欲」に欠けるものとみなします

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

小テストは自己採点後提出し、教員が確認してフィードバックします
小レポートや授業中に取り組む課題については、抜粋し教員が全体にフィードバックします
google classroomを使用した課題の提出、小テストの復習用教材の提供を行います

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
造形表現研究	CH07107	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
河野　博行		履修要件他:			
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

図画工作Ⅰ、Ⅱ、及び表現の授業で学習した事を保育園・幼稚園実習の中で実践 し、その結果を個々の学びの成果として自己評価した上で
力不足と思われる部分を補う為、より具体的、実践的な保育現場での活動を意識した絵画・造形表現技法の獲得を主とする授業を通して、
乳幼児の絵画・造形表現活動の援助及び指導法を学ぶ。

Ⅲ. 学習成果

幼児の絵画・造形活動で表現する為の様々な材料、及び技法について特性を理解しながら、
絵画・造形表現活動に必要な基本的な知識を習得し、創作活動に活用できるようになる。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1:　様々な技法を使った作品制作Ⅰ(テーマは現場の行事を意識して) 下絵については互いにアドバイスを行う。	テーマに沿った下絵を考える。
2:　様々な技法を使った作品制作Ⅱ(テーマに従って) 制作中の互いの作品を参考にし活かしていく。	作品に使用した技法とその特性をまとめ、理解する。
3:　様々な技法を使った作品制作Ⅲ(テーマに従って) 完成作品について自己評価、プレゼンテーションを行う。	完成作品の自己評価をし、次の課題に活かしていく。
4:　造形表現制作Ⅰ(立体的、動きがあるもの) 行事を意識したカード制作	作品の技法とその特性をまとめ理解し展開していく。 参考資料を活用できるように準備する。
5:　造形表現制作Ⅱ(立体的、動きがあるもの) メカニックな動きを互いに話し合いながら見つけていく。	作品の応用、展開を考える。
6:　造形表現Ⅲ(立体的、動きのあるもの) 作品について話し合いをし自分の作品に活かしていく。	作品の仕上り等を考える。
7:　造形表現Ⅳ(立体的、動きのあるもの) 完成作品について互いに評価し、現場に活かしていく。	完成作品を自己評価し、応用、展開を考える。
8:　環境を意識した造形表現Ⅰ(壁面構成の原画) グループワークで作品制作を行う。	作品の下絵を考える。
9:　環境を意識した造形表現Ⅱ(壁面構成の原画) 内容について話し合いを互いに納得できるまで行う。	作品に使用した技法とその特性をまとめ、理解する。
10:　環境を意識した造形表現Ⅲ(壁面構成の原画) グループ同士でアドバイスする。	作品を自己評価し、応用、展開を考える。
11　環境を意識した造形表現Ⅳ(壁面構成の原画) 完成した作品発表を各グループ評価	文献等の資料を読み、造形活動についての理解を深める。
12:　立体作品制作Ⅰ(粘土を使った陶芸作品等) 粘土からの陶芸作品になるまでの知識を学び。	陶芸作品の技法とその特性をまとめ、理解する。
13:　立体作品制作Ⅱ(粘土を使った陶芸作品等) 粘土を使った制作を体感する。手びねりを中心に作陶	作品を自己評価し、応用、展開を考える。
14:　立体作品制作Ⅲ(粘土を使った陶芸作品等) 轆轤体験を制作中に実施する。	互いにアドバイスをしながら学んでいく。
15:　立体作品制作Ⅳ(粘土を使った陶芸作品等) 完成品を互いに鑑賞し評価する。	完成作品を自己評価し、応用、展開を考える。

＊準備学習についての補足説明
制作中の作品について授業で指導された事柄を参考に次に活かしていく。
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

必要に応じて参考資料を配布。参考文献紹介。

Ⅵ. 評価方法と評価基準

提出作品　(90%)　学習意欲等　(10%)

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

制作が多い為、30分以上の授業外学習が必要。
遅刻・欠席をしない。
提出した課題は、参考資料として、個人名が出ない形で授業中に紹介する。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
音楽表現研究	CH07108	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	保育士選択必修		
黒木　知美		履修要件他:			
		アクティブラーニング科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

各種楽器の奏法やアンサンブル、また創作活動を通して表現する喜びを体感し、豊かな感性や表現力の向上をはかる。
それと同時に、幼児の年齢別による指導方法も具体的に考える。

Ⅲ. 学習成果

音や音楽による表現活動を、子どもたちにどのように展開していけばよいのかを考え、適切な援助・指導の方法を学ぶ。

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: オリエンテーション	シラバスに目を通しておく
2: 身体と表現①(わらべうた)	わらべうたについて調べておく
3: 身体と表現②(わらべうた)	前回授業の復習(音程・言葉・身体)をして覚えてくる
4: 身体と表現③(わらべうた)	前回授業の復習(音程・言葉・身体)をして覚えてくる
5: 身体と表現④(リトミックなど)	前回授業の復習(音程・言葉・身体)をして覚えてくる リトミックについて調べておく
6: 身近な音でリズム即興① ・個人で即興にチャレンジ、皆で共有しあう(グループワーク)	音の素材になるものを見つけて準備しておく(持参する)
7: 身近な音でリズム即興② ・グループでリズムセッション(グループワーク)	前回授業の復習をしておく
8: 器楽合奏①(年齢ごとに考える) ・同曲における年齢別の編成・編曲の違いを研究	乳幼児に使用可能な楽器を考え書き出しておく
9: 器楽合奏②(楽器の特徴を知る) ・様々な楽器に触れる	年齢ごとの楽器使用の特徴についてまとめておく
10: 器楽合奏③ ・保育者の目線で曲を仕上げる(ディスカッションしながら)	楽器の特徴や演奏方法についてまとめておく
11: 器楽合奏④ ・援助・指導の方法を探りながら曲を仕上げる	これまでの配布資料(楽曲)を見直し、違いをまとめておく
12: 合奏曲をつくる①	何歳児対象でどのような楽器編成にするかを考えておく
13: 合奏曲をつくる②	音をイメージしながら楽譜づくりを進めておく
14: 合奏曲をつくる③	楽譜を作る過程での気付きや感じたこと、保育者に必要な配慮を書き出しておく
15: 指導の方法について まとめと発表	合奏曲を完成させておく

＊準備学習についての補足説明
授業以外にも振り返りや準備学習を各回30分以上行なうこと
単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「こどものうた200」「続こどものうた200」(小林美実編・チャイルド本社)
プリント配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

発表・作品提出【50%】、学習意欲(授業態度や予習復習等)【50%】

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

提出物はすべてフィードバックします。
積極的な態度で授業へ参加することを希望します。

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
音楽Ⅳ	CH08104	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
黒木　知美　他		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)との関連(◎は強く関連している　○は関連がある)

学科ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

音楽Ⅲで習得したスキルをもとに、さらに総合的な技術の向上と展開のための応用力を身につける。
授業は週2コマで、子どものうたの弾き歌い(個人指導)と、コード付け、変奏を含む簡易伴奏(集団授業)からなる。

Ⅲ. 学習成果

・子どもの歌を弾き歌いし、さらにレパートリーを増やす(生活・行事のうた、季節＜秋・冬＞のうた、マーチ等)
・歌とピアノの演奏技術と表現力を向上させる
・ト長調、ニ長調、ヘ長調などの様々な調の伴奏付けができる

Ⅳ. 授業内容・準備学習(予習、復習)内容

授　業　内　容	準備学習(予習・復習)内容
1: (伴奏法) オリエンテーション	音楽Ⅲの授業内容の振り返りをしておくこと
2: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	課題曲の中から自分で選曲し、3～5曲練習しておくこと
3: (伴奏法) ト長調の簡易伴奏の実践と変奏①	ト長調の音階・カデンツの練習をしておくこと
4: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
5: (伴奏法) ト長調の簡易伴奏の実践と変奏②	ト長調の音階・カデンツの練習をしておくこと
6: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
7: (伴奏法) ト長調の簡易伴奏の実践と変奏③	ト長調の簡易伴奏付けの理解確認、及び曲の練習
8: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
9: (伴奏法) ニ長調の簡易伴奏の実践と変奏①	ニ長調の音階・カデンツの練習をしておくこと
10: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
11: (伴奏法) ニ長調の簡易伴奏の実践と変奏②	ニ長調の簡易伴奏付けの理解確認、及び曲の練習
12: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
13: (伴奏法) ニ長調の簡易伴奏の実践と変奏③	ニ長調の簡易伴奏付けの理解確認、及び曲の練習
14: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
15: (伴奏法) ヘ長調の簡易伴奏の実践と変奏①	ヘ長調の音階・カデンツの練習をしておくこと
16: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
17: (伴奏法) ヘ長調の簡易伴奏の実践と変奏②	ヘ長調の簡易伴奏付けの理解確認、及び曲の練習
18: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
19: (伴奏法) ヘ長調の簡易伴奏の実践と変奏③	ヘ長調の簡易伴奏付けの理解確認、及び曲の練習
20: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
21: 様々な曲の簡易伴奏の実践(コードネームを含む)と移調①	ト長調、ニ長調、ヘ長調以外の調の音階とカデンツも練習しておく
22: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
23: 様々な曲の簡易伴奏の実践(コードネームを含む)と移調②	前回曲の復習と練習
24: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
25: 様々な曲の簡易伴奏の実践(コードネームを含む)と移調③	前回曲の復習と練習
26: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
27: ト長調・ニ長調・ヘ長調のまとめ①	授業内容を振り返り、理解の確認と練習をしておくこと
28: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	前回レッスンの復習と新しい課題曲を練習しておくこと
29: ト長調・ニ長調・ヘ長調のまとめ②	授業内容を振り返り、理解の確認と練習をしておくこと
30: (ピアノ)　弾き歌いの個人レッスン	試験の課題曲・自由曲を練習しておくこと

＊準備学習についての補足説明
日頃の個人練習の積み重ねが重要です。毎日欠かさず最低でも初心者は120分/日、経験者は90分/日、練習してください。
練習は1号館6階の練習室を使用してよいが、時間、その他決められたルールに従うこと。単位修得のためには、上の準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

「こどものうた200」「続こどものうた200」(小林美実編、チャイルド本社)
「ピアノテキスト　楽典・身体表現付」(カワイ出版)
プリント配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

実技試験及び筆記試験(80%)、自宅学習の取り組み【チェックシート】(15%)、学習意欲(5%)
出席については、ピアノ15回、伴奏法15回のそれぞれ75%以上で受験資格を与える

Ⅶ. その他(課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等)

授業内容の理解に関して、フィードバックを行ないます。
授業中はお互いの演奏を聴き合い、学びを深めること。(ディスカッションを含む)
受講できる環境を常にととのえること。(長い爪、忘れ物、私語は減点対象とする)

科目名	科目ナンバリング	学科:	保育学科	学年:	2年
幼児体育Ⅱ	CH08108	開講時期:	後期		
		形態:	演習	単位:	1単位
		履修方法:	卒業選択		
担当者		免許・資格など	幼稚園2種必修		
中村　洋子		履修要件他:	保育士必修		
		ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ科目:	○	実務経験教員科目:	

Ⅰ. 本科目と学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）との関連（◎は強く関連している　○は関連がある）

学科ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）	本科目との関連
DP1　さまざまな保育現場において実践家として活躍できる	◎
DP2　その1　必要な専門的な知識・技能を持っている	◎
DP2　その2　「保育者としてふさわしい人間性」を持っている	○
DP4	
DP5	
DP6	
DP7	

Ⅱ. 概要

幼児体育Ⅰのスキルを活かし、実際に運動あそびを指導する立場になったことを想定し、身体運動を各項目別に分け、指導計画を作成し、授業内で指導案に沿った実施をする。また、「自評・他評」「ディスカッション」「シェアリング」「修正部分の実施」を行い、より保育現場で活用できる指導計画を作って行く

Ⅲ. 学習成果

1、 様々な運動あそびの知識を活かし、運動プログラムの作成を「企画～実施」まで現場に即した形で作成できるようになる
2、 グループディスカッション、シェアリングを通し、指導案をより具体的な内容に高め、保育現場でいかせるようになる

Ⅳ. 授業内容・準備学習（予習、復習）内容

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）内容
1: オリエンテーション 指導の基本について　模擬保育グループ分け	シラバス持参のこと 復習:　課題プリントを行う
2:　幼児期に経験しておきたい運動について～幼児期運動指針に沿って～ グループワーク	復習:　幼児期運動指針についてまとめる　指導案作成
3:　環境づくりと運動あそび～幼児を取り巻く社会の現状と課題～ グループワーク	復習:　運動あそびの環境づくりについて復習し、指導案作成
4:　目的に応じた運動遊びについて～保育活動時・運動会・発表会など～ グループワーク	予習:　模擬保育の準備
5:　模擬保育①-1　からだを使った全身運動の遊び 模擬保育プレゼンテーション　動画を撮影。 学生間相互評価作成。	復習:　授業内学生間評価をまとめておくこと
6:　模擬保育①-2　からだを使った全身運動の遊び 動画・評価表を基にディスカッション。次回模擬保育の企画を再考する	復習:　模擬保育の準備
7:　模擬保育②-1　移動遊具や固定遊具を使った運動遊び 模擬保育プレゼンテーション　動画を撮影。 学生間相互評価作成。	復習:　授業内学生間評価をまとめておくこと
8:　模擬保育②-2　移動遊具や固定遊具を使った運動遊び 動画・評価表を基にディスカッション。次回模擬保育の企画を再考する	復習:　模擬保育の準備
9:　模擬保育③-1　からだを使った全身運動の遊び 模擬保育プレゼンテーション　動画を撮影。 学生間相互評価作成。	復習:　授業内学生間評価をまとめておくこと
10:　模擬保育③-2　からだを使った全身運動の遊び 動画・評価表を基にディスカッション。次回模擬保育の企画を再考する	復習:　模擬保育の準備
11:　模擬保育④-1　移動遊具や固定遊具を使った運動遊び 模擬保育プレゼンテーション　動画を撮影。 学生間相互評価作成。	復習:　授業内学生間評価をまとめておくこと
10:　模擬保育④-2　移動遊具や固定遊具を使った運動遊び 動画・評価表を基にディスカッション。	復習:　4回の模擬保育を通した課題に取り組む
13:　運動と安全管理応急処置について	復習:　課題プリントに取り組む
14:　運動の苦手な子どもへの運動指導について	復習:　課題プリントに取り組む
15:　まとめ 他クラスの模擬保育指導から学ぶ	

＊準備学習についての補足説明
授業内に課題プリントが配布されるので、その内容に沿って行うこと
単位修得のためには、準備学習時間に自主学習を足した120分を毎回必要とします。

Ⅴ. 教科書・参考図書

教員作成資料配布

Ⅵ. 評価方法と評価基準

授業内発表評価60%、課題プリント30%、学習の意欲10%

Ⅶ. その他（課題に対するフィードバックについて、受講に際しての注意点、「実務経験教員科目」の場合どのような経験があり、どのような教育を行っているか等）

学年ジャージ、体育館シューズを使用する。長髪者は髪をゴムで結び、前髪などもまとめておく。アクセサリー、腕時計は外す。保育現場での運動指導者　にふさわしい服装で取り組むこと。課題提出の遅れや忘れ、服装の準備が整っていない場合は減点対象となる。
課題に対して、提出物はコメントを提示し返却。授業内使用の場合は授業内にてコメントを行う
課題プリントやレポートの提出期限遅れは減点対象となる。